

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅰ / Basic German Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	小川 和彦(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G710100
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 5, 火 / Tue 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	小川 和彦(E-mail : og49-peterailonamkaz@docomo.ne.jp (携帯メールのみ))		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容 / Course Description	大学生生活におけるドイツ人留学生やドイツ人講師との交流場面を通してドイツ語を学んでいく。話す・聞くのひととおりのコミュニケーションが成り立つ程度の基本的な語彙や文型を学ぶ。		
授業の達成目標 / Course Goals	ドイツ語の実用的側面を意識しつつ、会話能力の養成をねらいとします。この授業がきっかけとなって、履修者がドイツ語(外国語)学習を継続していく意欲を獲得してくれることになれば本授業の目的は達成されます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	ドイツ語圏の日常生活の様々な場面を語学を学んでゆく。同時に生活文化、伝統に興味を持ってもらう。		
前提とする知識 / Prerequisites	高校までの英文法を前提とします。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	授業では、発音、テキストの朗読、練習問題の板書、ドイツ文聞取りと書取りが中心となります。残った問題は自由課題(提出自由)とします。教科書との関連から、ドイツ語圏の歴史、地理、文化を紹介します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1回 シラバスによるガイダンス。ドイツの暮しの紹介 第2回 「発音」 特にA(アー)B(ベー)C(ツェー)と挨拶、季節の表現 第3回 月、曜日、数字の言い方 第4回 ドイツ語の人称(=主語、英語で言うI, you, he, she等)と動詞の語尾変化。(英語I play, He plays etc.) 第5回 ドイツ語に訳す「あなたは何をしているのですか?」 第6回 sein(ザイン)=英語のbe 動詞の使い方。Haben(ハーベン)=英語のhave 名詞の性。1格=主語 4格=目的語 第7回 ドイツ語に訳す「君は、明日時間あるの?」 第8回 不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形と3格 第9回 会話文「君はいつベルリンに行くの?」 第10回 テーマ1聞き取り練習「こんにちは」、テーマ2パートナー練習「このカバンは、いくらですか?」 第11回 前置詞、副文、格変化(主語か目的語かで、英語のthe, a, my等がドイツ語変化すること) 第12回 ドイツ語に訳す「食事の後で、その学生は本を読む。」 第13回 人称代名詞の3、4格(英語で言うto me, me, to him, him等の形) 第14回 ドイツ語に訳す「マリアは母親と市場に行く。」聞き取り練習、「遠足」時間の言い方。パートナー練習 第15回 冠詞類について 第16回 学期末試験		
教科書・参考書等 / Textbooks	朝日出版社「ドイツ語の時間」〈話すための文法〉清野智昭(せいのともあき)著ISBN978-4-255-25369-3 税別 ¥2,200円。 加えて、独和辞典を必ず持参してください。教科書は大学生協でのみ販売となります。参考書は不要です。		
成績評価の方法 / Evaluation	小テストと練習問題等の板書と自由提出物(練習問題、ドイツ語の文)+定期試験 : 40%+60%=100% * 小テストとは授業中随時行うものを指します。読み、聞取り、作文等、練習問題など。		
学習上の助言 / Learning Advice	各自ノートをお忘れなく。提出物以外の練習問題等についても、添削希望者には、添削します。 ドイツ語の発音と文字の書き取りが出来るようになるよう日頃から練習しましょう。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	ドイツ語基礎Ⅰ / Basic German Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	小川 和彦(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G710230
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 / Tue 9, 火 / Tue 10	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	小川 和彦(E-mail : og49-peterailonamkaz@docomo.ne.jp (携帯メールのみ))		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容 / Course Description	大学生生活におけるドイツ人留学生やドイツ人講師との交流場面を通してドイツ語を学んでいく。話す・聞くのひととおりのコミュニケーションが成り立つ程度の基本的な語彙や文型を学ぶ。		
授業の達成目標 / Course Goals	ドイツ語の実用的側面を意識しつつ、会話能力の養成をねらいとします。この授業がきっかけとなって、履修者がドイツ語(外国語)学習を継続していく意欲を獲得してくれることになれば本授業の目的は達成されます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	ドイツ語圏の日常生活の様々な場面を語学を学んでゆく。同時に生活文化、伝統に興味を持ってもらう。		
前提とする知識 / Prerequisites	高校までの英文法を前提とします。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	授業では、発音、テキストの朗読、練習問題の板書、ドイツ文聞取りと書取りが中心となります。残った問題は自由課題(提出自由)とします。教科書との関連から、ドイツ語圏の歴史、地理、文化を紹介します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1回 シラバスによるガイダンス。ドイツの暮しの紹介 第2回 「発音」特にA(アー)B(ベー)C(ツェー)と挨拶、季節の表現 第3回 月、曜日、数字の言い方 第4回 ドイツ語の人称(=主語、英語で言うI, you, he, she等)と動詞の語尾変化。(英語I play, He plays etc.) 第5回 ドイツ語に訳す「あなたは何をしているのですか?」 第6回 sein(ザイン)=英語のbe動詞の使い方。Haben(ハーベン)=英語のhave 名詞の性。1格=主語 4格=目的語 第7回 ドイツ語に訳す「君は、明日時間あるの?」 第8回 不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形と3格 第9回 会話文「君はいつベルリンに行くの?」 第10回 テーマ1聞き取り練習「こんにちは」、テーマ2パートナー練習「このカバンは、いくらですか?」 第11回 前置詞、副文、格変化(主語か目的語かで、英語のthe, a, my等がドイツ語変化すること) 第12回 ドイツ語に訳す「食事の後で、その学生は本を読む。」 第13回 人称代名詞の3、4格(英語で言うto me, me, to him, him等の形) 第14回 ドイツ語に訳す「マリアは母親と市場に行く。」聞き取り練習、「遠足」時間の言い方。パートナー練習 第15回 冠詞類について 第16回 学期末試験		
教科書・参考書等 / Textbooks	朝日出版社「ドイツ語の時間」〈話すための文法〉清野智昭(せいのともあき)著ISBN978-4-255-25369-3 税別 ¥2,200円。 加えて、独和辞典を必ず持参してください。教科書は大学生協でのみ販売となります。参考書は不要です。		
成績評価の方法 / Evaluation	小テストと練習問題等の板書と自由提出物(練習問題、ドイツ語の文)+定期試験 : 40%+60%=100% * 小テストとは授業中随時行うものを指します。読み、聞取り、作文等、練習問題など。		
学習上の助言 / Learning Advice	各自ノートをお忘れなく。提出物以外の練習問題等についても、添削希望者には、添削します。 ドイツ語の発音と文字の書き取りが出来るようになるよう日頃から練習しましょう。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅱ/Basic German II		
担当教員(所属)/Instructor	マルコス フランケ(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G710410
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マルコス フランケ(mf0001@plum.ocn.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	大学生生活におけるドイツ人留学生やドイツ人講師との交流場面を通してドイツ語を学んでいく。話す・聞くのひとつおりのコミュニケーションが成り立つ程度の基本的な語彙や文型を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ語の実用的側面を意識しつつ、会話能力の養成をねらいとします。この授業がきっかけとなって、履修者がドイツ語(外国語)学習を継続していく意欲を獲得してくれることになれば本授業の目的は達成されます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語圏の日常生活の様々な場면을語学を学んでゆく。同時に生活文化、伝統に興味を持ってもらう。		
前提とする知識/Prerequisites	ドイツ語に興味があり、基礎知識を持っていること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本文型を覚え、隣り合った相手との対話練習へと広げていく過程で、さまざまな表現や、新しい単語などを紹介していく。本を中心に進めていくが、ビデオ教材を使ったり、ゲームを取り入れたりして、アクティブな授業にしていきたい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 道の教え方 第2週 住まい 第3週 町中で(1) 第4週 町中で(2) 第5週 約束 第6週 計画と願望 第7週 病気と健康(1) 第8週 病気と健康(2) 第9週 外見と性格 第10週 家事 第11週 規則 第12週 衣服 第13週 天気 第14週 祭りと祝い事 第15週 試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：“Menschen A1.2 Kursbuch”(Hueber Verlag)を使います。 参考書：独和辞典を持参すること。 教材：特にありません。		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(受験には70%以上の出席が必要です。)		
学習上の助言/Learning Advice	会話中心の授業なので、受講者を40人に制限します。抽選は1回目の授業で行いますので、受講希望者は必ず出席して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅱ/Basic German II		
担当教員(所属)/Instructor	マルコス フランケ(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G710430
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マルコス フランケ(mf0001@plum.ocn.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	大学生生活におけるドイツ人留学生やドイツ人講師との交流場面を通してドイツ語を学んでいく。話す・聞くのひととおりのコミュニケーションが成り立つ程度の基本的な語彙や文型を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ語の実用的側面を意識しつつ、会話能力の養成をねらいとします。この授業がきっかけとなって、履修者がドイツ語(外国語)学習を継続していく意欲を獲得してくれることになれば本授業の目的は達成されます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語圏の日常生活の様々な場면을語学を学んでゆく。同時に生活文化、伝統に興味を持ってもらう。		
前提とする知識/Prerequisites	ドイツ語に興味があり、基礎知識を持っていること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本文型を覚え、隣り合った相手との対話練習へと広げていく過程で、さまざまな表現や、新しい単語などを紹介していく。本を中心に進めていくが、ビデオ教材を使ったり、ゲームを取り入れたりして、アクティブな授業にしていきたい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 道の教え方 第2週 住まい 第3週 町中で(1) 第4週 町中で(2) 第5週 約束 第6週 計画と願望 第7週 病気と健康(1) 第8週 病気と健康(2) 第9週 外見と性格 第10週 家事 第11週 規則 第12週 衣服 第13週 天気 第14週 祭りと祝い事 第15週 試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：“Menschen A1.2 Kursbuch”(Hueber Verlag)を使います。 参考書：独和辞典を持参すること。 教材：特にありません。		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(受験には70%以上の出席が必要です。)		
学習上の助言/Learning Advice	会話中心の授業なので、受講者を40人に制限します。抽選は1回目の授業で行いますので、受講希望者は必ず出席して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅲ/Basic German III		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G711563
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	1年次生対象科目としての「ドイツ語基礎Ⅲ」です。大学入学前にドイツ語を学習したことがない初習者を対象にドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」基礎的能力を養うことが目的です。ドイツ語圏諸国の学生生活や人々の日常生活がわかりやすい教材を使用します。後期開講の「ドイツ語基礎Ⅳ」とともに履修してください。		
授業の達成目標/Course Goals	前期・後期を合わせ1年間のドイツ語学習により基本文法の理解や簡単な会話、文章の読み書きができるようになることを目標とします。ドイツ語圏諸国の文化・社会について基礎的情報を合わせてお話しします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修した学生、および「ドイツ語基礎Ⅲ、Ⅳ」を専門導入科目として履修した国際学部学生のために2年次に少しレベルアップした「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」が開講されています。春と秋に実施されているドイツ語技能検定試験によるドイツ語能力の資格取得を目指します。		
前提とする知識/Prerequisites	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」(前・後期)を履修することにより、基礎的ドイツ語力が身に付きます。「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」(前・後期)も並行して履修することによりドイツ語能力をさらに深化させることができます。国際学部学生は「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」をワンセットとして修得することによりドイツ語力がかなり向上します。留学の基礎的準備が整います。		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」(前・後期)を履修することにより、基礎的ドイツ語力が身に付きます。「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」(前・後期)も並行して履修することによりドイツ語能力をさらに深化させることができます。国際学部学生は「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」をワンセットとして修得することによりドイツ語力がかなり向上します。留学の基礎的準備が整います。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	文法事項の理解と簡単な文章の理解、挨拶などの簡単な会話を練習問題を中心に学びます。「ドイツ語」の基礎的能力の修得を目指します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業の説明 第2週アルファベットと発音 第3週動詞の現在人称変化(1) 第4週動詞の現在人称変化(2) 第5週名詞の性と格変化(1) 第6週名詞の性と格変化(2) 第7週人称代名詞 第8週前置詞の各支配 第9週名詞の複数形 第10週所有代名詞 第11週冠詞類の格変化 第12週形容詞の格変化(1) 第13週形容詞の格変化(2) 第14週命令形 第15週まとめ 第16週期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:最初の時間に紹介します。宇都宮大学生協で販売予定です。 参考書:特にありません。要望があれば個別に紹介します。ただし、独和辞典は必携。 補助教材:必要に応じて、プリント等で配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		

学習上の助言／Learning Advice	外国語は一朝一夕に身に付くものではありません。予習・復習を心がけてください。外国語の修得には根気が大切です。忍耐力と外国に対する興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅳ/Basic German Ⅳ		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G713459
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	「ドイツ語基礎Ⅳ」は「ドイツ語基礎Ⅲ」(前期)の継続的科目であり、教科書および授業方法は「ドイツ語Ⅲ」と同様です。また、「ドイツ語Ⅱ」も履修をお勧めします。週に4時間1年間ドイツ語を学修することによりドイツ語の基礎的能力が確実に身に付きます。		
授業の達成目標/Course Goals	1年間のドイツ語学修により基本文法の理解や簡単な会話、文章の読み書きができるようになることを目標とします。また、ドイツ語圏諸国の文化・社会について基礎情報を得ることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」あるいは「ドイツ語Ⅲ・Ⅳ」を専門導入科目として履修した国際学部学生のために、少しレベルアップした「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」が開講されています。留学を志望する学生の皆さんは是非履修してください。		
前提とする知識/Prerequisites	前期「ドイツ語基礎Ⅰ」「ドイツ語基礎Ⅲ」および後期「ドイツ語基礎Ⅱ」「ドイツ語基礎Ⅳ」を履修してほしい。国際学部学生は「ドイツ語基礎Ⅰ~Ⅳ」をワンセットとして学修することによりドイツ語能力のさらなる深化が期待できます。		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語基礎Ⅰ」「ドイツ語基礎Ⅲ」および後期「ドイツ語基礎Ⅱ」「ドイツ語基礎Ⅳ」と関連します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	「ドイツ語基礎Ⅲ」と同様に、文法事項の理解と読解、簡単な会話を練習問題中心に学びます。「ドイツ語基礎Ⅲ」の成果をさらに深めることを目指します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 複合動詞 (1) 第2週 複合動詞 (2) 第3週 再帰表現 第4週 話法の助動詞 第5週 動詞の三基本形 (1) 第6週 動詞の三基本形 (2) 第7週 完了形 第8週 受動文 第9週 関係文 第10週 接続法 第11週 zu 不定詞 第12週 比較表現 第13週 接続詞 第14週 まとめ (1) 第15週 まとめ (2) 第16週 期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：最初の時間に紹介します。宇都宮大学生協で販売予定です。 参考書：特にありません。要望があれば個別に紹介します。ただし、独和辞典は必携。 補助教材：必要に応じて、プリント等で配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で、特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		
学習上の助言/Learning Advice	外国語は一朝一夕には修得できません。外国語の修得には根気が大切です。とにかく何でも覚えてやろうという意欲の持ち主、またドイツ語圏諸国に対する興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語応用Ⅰ/Intermediate German Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G715236
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	ドイツ語の基礎的能力の向上およびドイツ語の実践的表現力を養います。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ語の実践を意識しつつ、「読み」「聴く」「話す」「書く」能力の向上を目指します。ドイツの大学へ留学するための基礎的準備を整えます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語を学修することは、日本語を勉強することでもあり、コミュニケーションの方法を身に付けることでもあり、教養を深めることでもあります。留学のための基礎的準備、ドイツ語技能検定試験の受験準備に役立つ授業内容とします。		
前提とする知識/Prerequisites	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」あるいは「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」の履修を前提します。		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」あるいは「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」の履修を前提します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	ドイツ語の「読み」「書き」「聴く」「話す」能力のさらなる向上が目標です。ドイツ語技能検定試験4級を受験できる能力の獲得を目標とします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	ドイツ語基礎を踏まえ、「読み」「書き」「話す」「聴く」総合的能力の向上を目指します。ドイツ語技能検定試験用のテキストを活用し、ドイツ語能力を基礎から応用へと高めていきます。 第1週 ガイダンス 第2週~第8週 ドイツ語技能検定試験5級およびその応用問題。 第9週~第15週 ドイツ語技能検定試験4級及びその他応用問題。 第16週試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書等使用する場合は、授業の開始時に紹介することとします。また、過去の問題のプリントを用意します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で、特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		
学習上の助言/Learning Advice	外国語は一朝一夕には修得できません。外国語の修得には根気が大切です。とにかく何でも覚えてやろうという意欲の持ち主、またドイツ語圏諸国に対する興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語応用Ⅱ/Intermediate German Ⅱ		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G717238
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	ドイツ語の基礎的知識について復習しつつ実践的ドイツ語のトレーニングをします。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ語の中級レベルの能力の獲得に努めます。ドイツ語技能検定試験4級・3級の受験資格および合格を目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語能力の向上のみならず、ドイツ語の学修を通して広くドイツ語圏の文化・社会についての知識を深化させることも目標とします。また、ドイツの大学へ留学するためのドイツ語能力の涵養に努めます。		
前提とする知識/Prerequisites	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」、「ドイツ語応用Ⅰ」と関連します。		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」、「ドイツ語応用Ⅰ」の履修を前提します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	ドイツ語技能検定試験の4級あるいは3級の受験資格が得られるようドイツ語能力の向上に努めます。過去問題等を活用して実践力を養います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	ドイツ語技能検定試験の過去問題を活用して総合的なドイツ語能力を養います。 第1週 ガイダンス 第2週 ~ 第8週 検定試験4級の問題とその他応用問題を解答します。 第9週 ~ 第15週 検定試験3級の問題とその他応用問題を解答します。 第16週 期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	授業の開始時に紹介します。適宜プリントを配布し、教材とします。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で、特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		
学習上の助言/Learning Advice	外国語は一朝一夕には修得できません。外国語の修得には根気が大切です。ドイツ語圏諸国に対する好奇心と興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅰ/Basic French Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	小川 亮彦(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G720155
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 7, 金/Fri 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	フランス語に初めて接する者を対象として、フランス語の会話と読み書きのために最低限これだけは必要である、という要素を中心に、1年間でフランス語文法の基礎を徹底的に学習します。		
授業の達成目標/Course Goals	使用教科書は、フランス語検定に準拠した内容になっています。今年度秋季フランス語検定(5級及び4級)に合格する能力の育成を目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	英語学習で経験している文法概念を前提として授業を進めます。英語の得手、不得手は心配ありません。なお、ヨーロッパ文化(フランスでなくても良い)に関心を抱いていることが望まれます。		
関連科目/Related Courses	英語学習で経験している文法概念を前提として授業を進めます。英語の得手、不得手は心配ありません。なお、ヨーロッパ文化(フランスでなくても良い)に関心を抱いていることが望まれます。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業では毎回、教科書に沿って初級文法の解説を行ない、同時に基本的な文型の発話訓練も実施します。それが済んだら、辞書を用いて教科書の練習問題を解いてもらいます。皆さんの解答を確認した後、必要と思われる部分に関して、再度解説を施します。講義内容をノートにとることよりも、自分でフランス語の文を読み、自分でフランス語の文を書く演習が大切になります。A B Cの読み方から始まって、辞書の使い方などの初歩的なこともじっくり進めますので、安心して受講して下さい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業内容と参考教材の説明 第2週フランス語の書記法則と発音体系 第3週主語を形成する要素：名詞 第4週主語を形成する要素：形容詞 第5週主語を形成する要素：冠詞 第6週基本となる動詞 第7週高頻度不規則動詞 第8週否定形と疑問形の基礎 第9週否定形と疑問形の基礎 第10週指示代名詞 第11週所有形容詞 第12週前置詞とその縮約 第13週基本となる動詞：高頻度不規則動詞 第14週第一群規則動詞 第15週第二群規則動詞		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：『使って覚える実用フランス語』稲垣文雄著朝日出版社 辞書、参考書については、初回の授業の時に紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	学期末の筆記試験を80%、平素の授業における学習達成度(小テスト、その他)を20%として採点します。		
学習上の助言/Learning Advice	授業は毎回、ほとんどすべてが新出事項です。予習はそれほど必要ありませんが、復習にはある程度時間をかけて、毎時間ごとに習った項目を整理するように心掛けて下さい。あくまで、文法解説を中心とした授業ですが、受講者が退屈しないようにこちらも努めるつもりです。 なお、関連科目の「フランス語基礎Ⅲ」をできるだけ同時に履修して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅰ/Basic French Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	守永 直幹(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G720196
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	守永 直幹(講義終了後対応します。)		
授業の内容/Course Description	現代人は英語は当然のこと、ぜひとも第2外国語を学ばねばなりません。世界は流動化しつつありますが、それを引き起こしているのは欧米中心の価値観の変動です。フランス語を学び、ヨーロッパについて知らないことと今後の世界の動きに付いて行けません。アジアやアフリカで国際活動に携わろうとする者にもフランス語は必須です。この授業では、初めてフランス語に接する者を対象として、フランス語の文法の基礎を中心に学習します。		
授業の達成目標/Course Goals	1年間でフランス語文法の基礎をひと通り眺めます。まず発音を正確にできるようになることが肝心です。次に重要なのが動詞の活用です。基礎的な動詞にかんしては何度となく反復練習と小テストをくりかえし徹底的に身につけてもらいます。これらの基礎を元に、より複雑な文法学習に取り組めます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	高校生程度の英語力があれば結構です。基礎Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)と分かれています。実際には通年の授業です。間違えないように。また基礎Ⅰ・Ⅱは文法中心の授業ですが、基礎Ⅲ・Ⅳは応用トレーニングで、できるだけ双方を合わせて受講するのが望ましい。		
関連科目/Related Courses	高校生程度の英語力があれば結構です。基礎Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)と分かれています。実際には通年の授業です。間違えないように。また基礎Ⅰ・Ⅱは文法中心の授業ですが、基礎Ⅲ・Ⅳは応用トレーニングで、できるだけ双方を合わせて受講するのが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	フランスのポップスを聴く機会を設けたいと思っています。セリーヌ・ディオンや、パトリシア・カースといった歌手の名曲を用意しています。また時にフランス映画を紹介することもあるでしょう。むしろ授業は文法知識の習得と、そのためのトレーニングが中心ですが、教科書にこだわらず、広くフランス文化にたいするイメージを養ってもらおうと思っています。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業のオリエンテーション(授業計画、教科書、参考書等の紹介) 第2週アルファベ、綴り字記号、発音の説明と練習 第3週発音の練習 第4週主語人称代名詞、名詞の性・数 第5週不定冠詞・定冠詞 第6週動詞 ?tre, avoir 第7週第1群規則動詞 第8週疑問文・否定文、部分冠詞 第9週これまでの復習 第10週動詞 aller, venir 第11週前置詞と定冠詞の縮約 第12週近接未来・近接過去 第13週形容詞 第14週指示形容詞、所有形容詞 第15週第2群規則動詞 第16週テスト		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は『オ・パ・カマラッド!??足並みそろえて、フランス語』(駿河台出版社)を用います。フランスのポップスを聴きながら初級文法を学ぶ教材です。補助教材を適時、授業中に配付します。		
成績評価の方法/Evaluation	学期末の筆記試験を80%、平素の授業における学習達成度(小テスト、その他)を20%として採点します。		
学習上の助言/Learning Advice	1年間でフランス語文法をマスターするのは相当に難事です。こちらとしては学生の諸君に不当な要求をするつもりはありません。反復練習をくりかえしつつ、徐々にフランス語に慣れてもらい、いずれそれを有用な道具として使いこなせるようになってもらうことがこの授業の目標です。すが、1年間の学習を終えた時点では「なるほど、フランス語の文法ってこうなっているのか」と実感できる苦です。		
キーワード/Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅱ / Basic French II		
担当教員(所属) / Instructor	小川 亮彦(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G720255
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 金 / Fri 7, 金 / Fri 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容 / Course Description	前期開講の「フランス語基礎Ⅰ」に引き続き、フランス語に初めて接する者を対象として、フランス語の会話と読み書きのために最低限これだけは必要である、という要素を中心に、1年間でフランス語文法の基礎を徹底的に学習します。		
授業の達成目標 / Course Goals	使用教科書は、フランス語検定に準拠した内容になっています。今年度秋季または来年度春季フランス語検定(5級及び4級)に合格する能力の育成を目標とします。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	原則として、「フランス語基礎Ⅰ」の単位を取得していることを前提とします。		
関連科目 / Related Courses	原則として、「フランス語基礎Ⅰ」の単位を取得していることを前提とします。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	「フランス語基礎Ⅰ」と同様に、教科書に沿って初級文法の解説を行ない、同時に基本的な文型の発話訓練も実施します。それが済んだら、辞書を用いて教科書の練習問題を解いてもらいます。皆さんの解答を確認した後、必要と思われる部分に関して、再度解説を施します。授業の展開の仕方は、前期の「フランス語基礎Ⅰ」と同じ要領です。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週基本となる動詞：高頻度不規則動詞 第2週近接未来と近接過去 第3週人称代名詞 第4週人称代名詞 第5週比較の表現 第6週命令法、助動詞的動詞 第7週非人称構文 第8週様々な否定表現 第10週基本となる動詞：代名動詞 第11週未来の表現 第12週過去の表現：複合過去 第13週過去の表現：半過去 第14週条件法 第15週接続法		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書：『使って覚える実用フランス語』稲垣文雄著朝日出版社 辞書、参考書については、初回の授業の時に紹介します。		
成績評価の方法 / Evaluation	学期末の筆記試験を80%、平素の授業における学習達成度(小テスト、その他)を20%として採点します。		
学習上の助言 / Learning Advice	この授業は、前期の「フランス語基礎Ⅰ」をそのまま引き継ぎますので、この二つの授業を連続して履修して下さい。前期の「フランス語基礎Ⅰ」に比べて授業進捗がかなり速くなり、扱う文法も深化していきますので、家庭学習の時間を増やすことが必須になります。実際、ハードな授業ですが、1年間の学習を終えた時点では「なるほど、フランス語の文法ってこうなっているのか」と実感できる筈です。せっきゃくフランス語検定準拠の教材を使用していますので、力試しに11月実施の秋季フランス語検定受験をお勧めします。(本授業の単位取得に当たって、この検定の受験義務はありません。なお、関連科目の「フランス語基礎Ⅳ」をできるだけ同時に履修して下さい。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅱ/Basic French Ⅱ		
担当教員(所属)/Instructor	守永 直幹(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G720296
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	守永 直幹(講義終了後対応します。)		
授業の内容/Course Description	現代人は英語は当然のこと、ぜひとも第2外国語を学ばねばなりません。世界は流動化しつつありますが、それを引き起こしているのは欧米中心の価値観の変動です。フランス語を学び、ヨーロッパについて知らないとい今後の世界の動きに付いて行けません。アジアやアフリカで国際活動に携わろうとする者にもフランス語は必須です。この授業では、初めてフランス語に接する者を対象として、フランス語の文法の基礎を中心に学習します。		
授業の達成目標/Course Goals	1年間でフランス語文法の基礎をひと通り眺めます。まず発音を正確にできるようになることが肝心です。次に重要なのが動詞の活用です。基礎的な動詞にかんしては何度となく反復練習と小テストをくりかえし徹底的に身につけてもらいます。これらの基礎を元に、より複雑な文法学習に取り組めます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	高校生程度の英語力があれば結構です。基礎Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)と分かれています、実際には通年の授業です。間違えないように。また基礎Ⅰ・Ⅱは文法中心の授業ですが、基礎Ⅲ・Ⅳは応用トレーニングで、できるだけ双方を合わせて受講するのが望ましい。		
関連科目/Related Courses	高校生程度の英語力があれば結構です。基礎Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)と分かれています、実際には通年の授業です。間違えないように。また基礎Ⅰ・Ⅱは文法中心の授業ですが、基礎Ⅲ・Ⅳは応用トレーニングで、できるだけ双方を合わせて受講するのが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	フランスのポップスを聴く機会を設けたいと思っています。セリーヌ・ディオンや、パトリシア・カースといった歌手の名曲を用意しています。また時にフランス映画を紹介することもあるでしょう。むしろ授業は文法知識の習得と、そのためのトレーニングが中心ですが、教科書にこだわらず、広くフランス文化にたいするイメージを養ってもらおうと思っています。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週前期の復習 第2週疑問形容詞、命令法、 第3週非人称構文、受動態 第4週人称代名詞 第5週代名動詞 第6週単純未来 第7週比較・最上級 第8週複合過去 第9週半過去 第10週これまでの復習 第11週関係代名詞 第12週中性代名詞 第13週現在分詞・ジェロンディフ 第14週条件法 第15週接続法 第16週後期テスト		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は『オ・パ・カマラッド!??足並みそろえて、フランス語』(駿河台出版社)を用います。フランスのポップスを聴きながら初級文法を学ぶ教材です。補助教材を適時、授業中に配付します。		
成績評価の方法/Evaluation	学期末の筆記試験を80%、平素の授業における学習達成度(小テスト、その他)を20%として採点します。		

学習上の助言／Learning Advice	<p>1年間でフランス語文法をマスターするのは相当に難事です。こちらとしては学生の諸君に不当な要求をするつもりはありません。反復練習をくりかえしつつ、徐々にフランス語に慣れてもらい、いずれそれを有用な道具として使いこなせるようになってもらうことがこの授業の目標です。</p> <p>1年間の学習を終えた時点では「なるほど、フランス語の文法ってこうなっているのか」と実感できる筈です。</p> <p>せっかくフランス語検定準拠の教材を使用していますので、力試しに11月実施の秋季フランス語検定受験をお勧めします。（本授業の単位取得に当たって、この検定の受験義務はありません。</p> <p>なお、関連科目の「フランス語基礎Ⅳ」をできるだけ同時に履修して下さい。</p>
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅲ/Basic French III		
担当教員(所属)/Instructor	大野 斉子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G720315
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	大野 斉子(tokiko@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	大野 斉子(月曜日 12:00-12:40 (メールにて要予約))		
授業の内容/Course Description	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。		
授業の達成目標/Course Goals	挨拶、自己紹介や数量の表現など、日常の様々なシチュエーションに応じた表現を習得します。発音練習や聞き取りを通じフランス語の表現に親しみ、フランス語の基礎文法の習得を目指します。また、専門課程をより深く学ぶための語学力・表現力を磨きます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育(国際学部)の達成目標、「読む」・「書く」・「話す」・「聴く」の基礎的能力を養うとともに、当該国(フランス)・地域の社会・文化に対する関心を喚起し、その基礎的理解を涵養すること」に相当します。		
前提とする知識/Prerequisites	英語・その他のヨーロッパ諸語の学習経験があることが望ましいです。		
関連科目/Related Courses	基盤教育で開講される他のフランス語科目をできるだけ一緒に履修してください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教科書と音声教材を使って進めます。 文法事項やスキットの解説の後、会話練習を行います。 受講者は毎回、必ず予習をしてきてください。 授業の最初に小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週ガイダンスアルファベと発音 第2-3週自己紹介をする?treの直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数 第4-5週知っているもの、存在するものを言う不定冠詞、定冠詞、Avoirの直説法現在形 第6-7週人物を形容する、家族について話す第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞 第8-9週予定を聞く・言う第二群規則動詞の活用、不規則動詞(faireとprendre)の活用、部分冠詞、疑問文の作り方 第10-11週最近のことを話す、目的地・出身地を言うAllerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去 第12-13週希望を聞く・言う、天気や時刻を聞く・言うPouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文 第14-15週一日の予定を立てる人称代名詞(直接目的・間接目的・強勢形)		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: ミシェル・サガズ、福田美雪、中里まき子『デビュー! フランス語初級』朝日出版社、2300円 辞書: 『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『デュコ仏和辞典』(白水社)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験70パーセント、小テスト30パーセント		
学習上の助言/Learning Advice	外国語に親しむ一番の近道は辞書を引くことです。動詞の活用を覚えるのも大事ですが、辞書を引いて、まずはフランス語の豊かな世界を楽しみましょう。教科書で疑問点にぶつかったらまず辞書を引く習慣を身につけましょう。		
キーワード/Keywords	フランス語、基礎		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅳ/Basic French Ⅳ		
担当教員(所属)/Instructor	大野 斉子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G720335
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	大野 斉子(tokiko@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	大野 斉子(月曜日 12:00-12:40 (メールにて要予約))		
授業の内容/Course Description	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。		
授業の達成目標/Course Goals	挨拶、自己紹介や数量の表現など、日常の様々なシチュエーションに応じた表現を習得します。 発音練習や聞き取りを通じフランス語の表現に親しむこと、またそれに対応したフランス語の基礎文法の習得を目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育(国際学部)の達成目標、「読む」・「書く」・「話す」・「聴く」の基礎的能力を養うとともに、当該国(フランス)・地域の社会・文化に対する関心を喚起し、その基礎的理解を涵養すること」に相当します。		
前提とする知識/Prerequisites	英語・その他のヨーロッパ諸語の学習経験があることが望ましいです。		
関連科目/Related Courses	基盤教育で開講される他のフランス語科目をできるだけ一緒に履修してください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教科書と音声教材を使って進めます。 文法事項やスキットの解説の後、会話練習を行います。 受講者は毎回、必ず予習をしてきてください。 授業の最初に小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週前期の復習まとめ1 第2週人を誘う、強く勧める非人称構文 第3週人を誘う、強く勧める命令法 第4週日常の行動を言う代名動詞 第5週日常の行動を言う関係代名詞 第6週過去のことを話す(1)過去形 第7週過去のことを話す(1)複合過去 第8週過去のことを話す(2)半過去 第9週過去のことを話す(2)受動態 第10週経験や希望を聞く中性代名詞 第11週経験や希望を聞く比較級、最上級 第12週経験や希望を聞く比較級、最上級 第13週未来のことを話す現在分詞 第14週まとめ2語彙のまとめ、時の表現 第15週後期の復習		
教科書・参考書等/Textbooks	ミシェル・サガズ、福田美雪、中里まき子著 『D?but!』(朝日出版社)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験70パーセント、小テスト30パーセント		
学習上の助言/Learning Advice	語学はその言葉が好きであればあるほど上達します。フランスやフランス語に興味を持って、楽しく取り組みましょう。		
キーワード/Keywords	フランス語、基礎		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語応用Ⅰ / Intermediate French Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	田口 卓臣(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G720953
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 1, 火 / Tue 2	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	田口 卓臣(taguchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	田口 卓臣(火曜日12:00~12:50)		
授業の内容 / Course Description	この授業は、フランス語の基礎知識を持つ者を対象とします。講義は原則としてフランス語で行います。教科書などの会話シーンをもとに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。		
授業の達成目標 / Course Goals	フランス語の基礎的な文法を確認しながら、フランス語による意思表示のための基礎的な力を習得します。フランス語講読との同時履修によって、1年を通して、フランス語検定試験3級に合格できるだけの実力を身につけてもらいます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。また、専門導入科目としては、国際学部の教育目標(C)の特に「上記の事柄に必要な外国語(…)」に習熟する」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを修了していること。また、できるだけフランス語講読を同時に履修すること。国際学部専門科目「フランス語会話」(集中講義)の履修を予定している者は、必ずこの授業を履修したうえで夏休み前に特別指導を受けること。		
関連科目 / Related Courses	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、フランス語会話		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①フランス語で講義する(受講者が理解できているかどうか、そのつど確認する)②CDを聴いて、会話の流れをつかみます。③CDにしたがって発音をまねてみます。④文法事項を確認し、辞書を引きながら練習問題を解きます。⑤教科書を参考にしながら自分独自の会話文をつくってみます。⑥3~4回に1回の割合でフランスのシャンソンを鑑賞し、そのなかの会話の聞き取りの練習を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. 授業についての説明。 2. 1課: 数字 3. 1課: 名詞の性と数 4. 2課: 挨拶 5. 2課: 自己紹介 6. シャンソンの聞き取り① 7. 3課: 国籍 8. 3課: 年齢、住所 9. 4課: 職業 10. 4課: 疑問文 11. シャンソンの聞き取り② 12. 5課: 好き嫌い 13. 5課: 代名動詞 14. 6課: 食べ物、飲み物 15. シャンソンの聞き取り③		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: ベルトラン・ソゼド、細貝健司『ヴォカル コミュニケーションのためのフランス語』アシェット・ジャポン/フウヴェール出版、1800円。辞書: 『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『ディコ仏和辞典』(白水社) 参考書: 『仏検公式問題集3級』(フランス語教育振興協会)		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)		
学習上の助言 / Learning Advice	フランス語での講義は、最初はついてくるのが辛いかもしれませんが、みなさんが理解できているかどうかをそのつどチェックしながら進めていくので安心してください。		
キーワード / Keywords	フランス語、日常会話、基礎文法		
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	フランス語応用Ⅱ / Intermediate French Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	田口 卓臣(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G721755
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 / Tue 1, 火 / Tue 2	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	田口 卓臣(taguchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	田口 卓臣(火曜日12:00~12:50)		
授業の内容 / Course Description	フランス語応用Ⅰの修了者を対象とする授業です。前期にひきつづき、講義は原則としてフランス語で行います。教科書や映画などの会話のシーンをもとに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。		
授業の達成目標 / Course Goals	前期にひきつづき、フランス語の基礎的な文法を確認しながら、フランス語による意思表示のための基礎的な力を習得します。フランス語講読との同時履修によって、後期の終了時点で、フランス語検定試験3級に合格できるだけの実力を身につけてもらいます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。また、専門導入科目としては、国際学部の教育目標(C)の特に「上記の事柄に必要な外国語(…)」に習熟する」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	前期にフランス語応用Ⅰを修了していること。また、できるだけフランス語講読を同時に履修すること。		
関連科目 / Related Courses	フランス語基礎Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ。フランス語会話		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①フランス語で講義する(受講者が理解できているかどうか、そのつど確認する)②CDを聴いて、会話の流れをつかみます。③CDにしたがって発音をまねてみます。④文法事項を確認し、辞書を引きながら練習問題を解きます。⑤教科書を参考にしながら自分独自の会話文をつくってみます。⑥4~5回に1回の割合でフランス映画を鑑賞し、そのなかの会話の聞き取りの練習を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. 前期のテストの返却と解説。前期の内容の復習。 2. 6課:理由 3. 7課:時間、食事 4. 8課:ものの位置 5. 9課:家族の紹介 6. 映画の会話の聞き取り①(「パリ空港の人々」) 7. 9課:数字(100まで) 8. 10課:過去 9. 11課:服装、色、体の部位 10. 12課: 11. 映画の会話の聞き取り②(「髪結いの亭主」) 12. 13課:余暇、数字100から1000まで 13. 14課:スケジュール、授業 14. 15課:道を尋ねる、教える 15. 全体の総括		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書:ベルトラン・ソゼド、細貝健司『ヴォカル コミュニケーションのためのフランス語』アシェット・ジャポン/フウヴェール出版、1800円。辞書:『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『ディコ仏和辞典』(白水社)。参考書:『仏検公式問題集3級』(フランス語教育振興協会)		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)		
学習上の助言 / Learning Advice	フランス語での講義は、ついてくるのが辛いかもしれませんが。みなさんが理解できているかどうかをそのつどチェックしながら進めていくので安心してください。		
キーワード / Keywords	フランス語、日常会話、基礎文法		
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語基礎Ⅰ / Basic Spanish Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	飯田 敏彦(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G727212
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 5, 火 / Tue 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	飯田 敏彦(toiida2222@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	飯田 敏彦(授業の前後にコンタクトをとること)		
授業の内容 / Course Description	動詞の使い方など、基本的な文法事項の説明が中心になりますが、毎回の授業内容と関連した会話文も読み解きます。さらには、テキストにある練習問題をやりながら、文法に関する理解を深めます。		
授業の達成目標 / Course Goals	スペイン語の基礎文法の習得を通じて、やさしいスペイン語の発話能力を養うことを目的に授業を進めます。英語に比べれば複雑に見える動詞活用を学び、その用法を習得することが中心課題となります。さらには、文章の中で使われる名詞、形容詞、副詞など各種の単語について、それぞれの正しい使い方と正しい発音の仕方を学びます。動詞を文章の中心に据えて、その前後に色々な単語を配置し良い文章を組み立てられるようにしますので、地道に語彙力をつけていく必要があります。スペイン語の辞書の使い方にも慣れてもらいたいと思います。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	本授業は基礎科目ですから、すべての学部・学科の学生が履修できます。初めてスペイン語を履修する方、これまでスペイン語を学んだ経験のない方は、まず当科目を履修してください。		
前提とする知識 / Prerequisites	英語と同じヨーロッパの言語ですから、スペイン語を学ぶためには、英語の知識が役に立ちます。英語の文法用語が全くわからないというのでは困りますが、英語があまり得意ではないという人でも、スペイン語圏の文化に興味・関心があれば、そんな「障害」はないに等しいでしょう。「情熱」こそが成功の鍵です。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	教室ではテキストの録音テープやCDを再生して動詞の活用、例文、練習問題の発音を聞き、かつ音読します。文法事項の説明を行いながら、テキストの例文を読み、各文章の文法的な成り立ちや意味を確認します。受講生には、単語や文章の意味を調べてもらったり、主語を替えて文章を変換してもらったりします。各レッスンの最後には、テキストにある聞き取り(穴埋め)・和訳の問題を解きながら、文法の理解を確かなものにします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. スペイン語とスペイン語の国々、授業の説明、アルファベットと発音、発音に注意すべきつづり、 2. 単語のアクセントの位置、名詞の性別、名詞の単数形と複数形、あいさつの言葉 3. 冠詞(不定冠詞と定冠詞)、疑問詞を含む疑問文 4. 主格人称代名詞、動詞 serの直説法現在の活用とその用法、国籍の名詞と職業名 5. 形容詞の位置と語尾変化、動詞estarの活用とその用法、ser, estar+形容詞 6. 動詞haberの存在文(hay+名詞)、基数詞(1~15) 7. 指示形容詞と指示代名詞、所有形容詞(弱勢形と強勢形) 8. 直説法現在の規則活用動詞(-ar動詞)、a+人(直接目的語)、基数詞(16~31) 9. 直説法現在の規則活用動詞(-er動詞と-ir動詞)、a+人(間接目的語)、時刻・日付・曜日 10. 直説法現在の不規則活用動詞〔その1〕 → 1人称単数形だけが不規則な動詞、目的格人称代名詞 11. 直説法現在の不規則活用動詞〔その2〕: 語根母音変化動詞 pensar, querer, volver, pedirなど、 12. 疑問詞を用いた疑問文、語根母音変化動詞の活用練習、主な動詞の用法の確認 13. 直説法現在の不規則活用動詞〔その3〕: tener, venir, decir, ir, oír → その活用と基本的な用法 14. gustar型動詞の用法、前置詞格人称代名詞、 15. 主な前置詞〔その1〕、主な不規則活用動詞の活用と用法の復習 		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 坂東省次・中川節子『スペイン語のABC』第三書房(定価2,000円+税)をテキストとして使用します。生協書籍部で購入してください。スペイン語の辞書: 『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館(定価3,500円)、あるいは『現代スペイン語辞典』白水社(定価4,200円)があれば、本科目の勉強レベルで困ることはありません。長く使える辞書としては、『クラウン西和辞典』三省堂(定価4,700円)、『プエルタ新スペイン語辞典』研究社(定価4,700円)、『西和中辞典(第2版)』小学館(定価6,930円)などをあげることができます。電子辞書に収められている辞書は、ほとんどが前掲の白水社のものです。参考書については、必要に応じて教室で指示します。		
成績評価の方法 / Evaluation	最後の授業日に行う期末試験(50%)、2回の小テスト(50%)の結果に基づいて評価します。欠席回数が授業回数の3分の1を超えるようだと、十分な語学力を身につけることは望めませんし、成績にも影響が出ますので、きちんと出席してください。評価方法の詳細は、初回授業の際に説明します。		
学習上の助言 / Learning Advice	予習・復習を日々心がけ、ただ「覚えた」というのではなく、「親しみ」運用力をつけることが大切です。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語基礎Ⅱ / Basic Spanish II		
担当教員(所属) / Instructor	飯田 敏彦(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G727215
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 5, 火 / Tue 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	飯田 敏彦(toiida2222@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	飯田 敏彦(授業の前後にコンタクトをとること)		
授業の内容 / Course Description	動詞の使い方など、基本的な文法事項の説明が中心になりますが、毎回の授業内容と関連した会話文も読み解きます。さらには、テキストにある練習問題をやりながら、文法に関する理解を深めます。		
授業の達成目標 / Course Goals	スペイン語の基礎文法の習得を通じて、やさしいスペイン語の発話能力を養うことを目的に授業を進めます。英語に比べれば複雑に見える動詞活用を学び、その用法を習得することが中心課題となります。さらには、文章の中で使われる名詞、形容詞、副詞など各種の単語について、それぞれの正しい使い方と正しい発音の仕方を学びます。動詞を文章の中心に据えて、その前後に色々な単語を配置し良い文章を組み立てられるようにしますので、地道に語彙力をつけていく必要があります。スペイン語の辞書の使い方にも慣れてもらいたいと思います。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	当科目を履修できるのは、これまで初級スペイン語を学んだ経験がある方、あるいは本学で前期開講のスペイン語基礎科目の単位を取得した方に限られます。スペイン語技能検定試験などの資格試験に合格している方は、担当者に相談してください。		
前提とする知識 / Prerequisites	英語と同じヨーロッパの言語ですから、スペイン語を学ぶためには、英語の知識が役に立ちます。英語の文法用語が全くわからないというのでは困りますが、英語があまり得意ではないという人でも、スペイン語圏の文化に興味・関心があれば、そんな「障害」はないに等しいでしょう。「情熱」こそが成功の鍵です。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	教室ではテキストの録音テープやCDを再生して動詞の活用、例文、練習問題の発音を聞き、かつ音読します。文法事項の説明を行いながら、テキストの例文を読み、各文章の文法的な成り立ちや意味を確認します。受講生には、単語や文章の意味を調べてもらったり、主語を替えて文章を変換してもらったりします。各レッスンの最後には、テキストにある聞き取り(穴埋め)・和訳の問題を解きながら、文法の理解を確かなものにします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. gustar型動詞の用法、前置詞格人称代名詞、主な前置詞【その1】の練習 2. 再帰動詞【その1】 → その活用と用法(直接再帰)、levantarse, sentarseなど 3. 再帰動詞【その1】 → その活用と用法(間接再帰と相互再帰) lavarse, limpiarse, quererseなど、 4. 再帰動詞【その2】 → その活用と用法(強意・転意、本来の再帰) irseなど、 5. 再帰動詞の活用練習、主な前置詞【その2】 6. 無人称文 → 天候の表現、時間の経過など、不定語と否定語 7. 過去分詞、直説法現在完了の活用と用法 8. 受身文(ser+過去分詞、se+3人称)、序数、 9. 動詞の活用: 直説法点過去【その1】 → 規則活用、点過去の用法、過去時制を表わす副詞と語句 10. 動詞の活用: 直説法点過去【その2】 → 不規則活用、規則活用の練習 11. 点過去不規則活用の練習、直説法線過去の活用と用法、接続詞 12. 点過去と線過去を使い分ける → 表現方法の違いの確認と表現練習 13. tú, vosotros, usted, ustedesに対する肯定命令 → 接続法現在の活用 14. 動詞の活用: 直説法未来の活用と用法 15. 動詞の活用: 直説法過去未来の活用と用法 		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 坂東省次・中川節子『スペイン語のABC』第三書房(定価2,000円+税)をテキストとして使用します。生協書籍部で購入してください。スペイン語の辞書: 『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館(定価3,500円)、あるいは『現代スペイン語辞典』白水社(定価4,200円)があれば、通常の大学時代の勉強レベルで困ることはありません。長く使える辞書としては、『クラウン西和辞典』三省堂(定価4,700円)、『プエルタ新スペイン語辞典』研究社(定価4,700円)、『西和中辞典(第2版)』小学館(定価6,930円)などをあげることができます。電子辞書に収められている辞書は、ほとんどが前掲の白水社のものです。参考書については、必要に応じて教室で指示します。		
成績評価の方法 / Evaluation	最後の授業日に行う期末試験(50%)、2回の小テスト(50%)の結果に基づいて評価します。欠席回数が授業回数の3分の1を超えるようだと、十分な語学力を身につけることは望めませんし、成績にも影響が出ますので、きちんと出席してください。評価方法の詳細は、初回授業の際に説明します。なお、学習目標の達成度によって秀(90%以上)、優(80%以上90%未満)、良(70%以上80%未満)、可(60%以上70%未満)、不可(60%未満)という5段階の成績評価がつきます。この評価が		

学習上の助言／Learning Advice	スペイン語とスペイン語諸国の文化に関心のある方々、スペイン語の学習を通じて、新しい自分を発見したいと思う方々を歓迎します。スペイン語は、これを公用語とする国が多いため国際交渉・交流の舞台で広く使われ、また音楽などの文化活動、観光、ビジネスの各分野でも重要度を増しつつあります。スペイン語は発音などの面で日本人には取りつきやすい、美しい言葉ですが、複雑な動詞の活用があったり、文章構造のなかに日本人にとって理解しにくいものがあったりして、理解し覚えるために時間と集中力を要することも多いのです。それだけに、欠席・遅刻しがちで教室ではノートをとらないという消極的な態度では、すぐに授業がわからなくなります。新しい外国語を習得するためには、日々の地道な勉強こそが大事ですから、家でも音読しながら勉強してください。また、教室では恥ずかしがらず、大きな声で発音してください。予習・復習を日々心がけ、ただ「覚えた」というのではなく、「親しみ」運用力をつけることが大切です。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語基礎Ⅲ / Basic Spanish III		
担当教員(所属) / Instructor	飯田 敏彦(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G728292
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	飯田 敏彦(toiida2222@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	飯田 敏彦(授業の前後にコンタクトをとること)		
授業の内容 / Course Description	テキストの各レッスンには7~8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。反復練習が必要な場合には、プリントを使って補足練習したり、受講生どうしが向き合って会話練習したりします。		
授業の達成目標 / Course Goals	やさしいスペイン語の発話能力と語彙力を養うことを目的に授業を進めます。最大の目標は、基本動詞を正確に活用させて使えるようにすることです。これに加えて、本授業では語彙力を養うことも重要な課題になります。会話のテーマに沿った語彙の用意がないと、ごかつたんな会話でさえ成り立ちませんので、単語レベル、あるいは語句レベルでの準備をしつかりと行った上で、平易な文章を正確に作る練習を行います。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	国際学部的一年生でスペイン語を選択する方は、当科目に並行してスペイン語基礎Ⅰを今学期に履修してください。他の学部の学生で、初めてスペイン語を履修する方は、まずスペイン語基礎Ⅰを履修するか、この基礎Ⅰと当科目を同時に履修してください。図書館にある文法解説書を手取るなどして基礎文法を確認し、各レッスンを予習する意欲のある人ならば、参加していただけます。学習意欲のある人で、本科目だけ履修したいという方は、授業担当者に相談してみてください。		
前提とする知識 / Prerequisites	英語と同じヨーロッパの言語ですから、スペイン語を学ぶためには、英語の知識やヨーロッパ諸国の文化に関する知識が役立ちます。スペイン語の学習経験、あるいはスペイン語圏への留学・滞在経験のある方、検定試験などの資格を取得済みの方は、担当者にその旨を伝えてください。		
関連科目 / Related Courses	英語と同じヨーロッパの言語ですから、スペイン語を学ぶためには、英語の知識やヨーロッパ諸国の文化に関する知識が役立ちます。スペイン語の学習経験、あるいはスペイン語圏への留学・滞在経験のある方、検定試験などの資格を取得済みの方は、担当者にその旨を伝えてください。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	教室ではテキストの録音テープを再生して会話文や例文、練習問題の解答例などの発音を聞き、発音練習します。続けて、会話表現、単語・語句について意味と用法の確認を行います。この際に、必要に応じてかんたんな文法説明を加えます。さらには、テキストにある会話の応用問題、各種の練習問題を通じて、理解度の確認を行い、文章作成の力を養うとともに知識の定着に努めます。プリントを使って補足的な練習をしたり、受講生どうしが向き合って会話練習を繰り返したりすることもあります。最後には、授業担当者からの質問に口頭で答えるか、まとめの問題に答えて提出してもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明、アルファベットと発音、色々な単語を読む、単語を聞き取る、単語のつづりを言う 2. アクセントの位置、あいさつの言葉、人を紹介する、疑問符と感嘆符、 3. 動詞serを用いて、国籍・職業を説明する、動詞 llamarse を使って名前をたずねる 4. 動詞vivir を使って、どこに住んでいるのかをたずねる、復習の練習問題 5. 動詞hay を用いて、「モノがある、ヒトがいる」と表現、所有を表わす動詞 tener (持つ) 6. ser de を用いて、出身地をたずね、出身地を説明する、動詞 estar を使って、どこにいるのかをたずねる 7. 曜日や時刻をたずね、曜日や時刻を言う、復習の練習問題 8. hay とestar の使い分け、名詞とともに形容詞を使う、モノの色をたずねる 9. モノやヒトの性質や状態を説明する → 形容詞をserとestar の補語として使う、復習の練習問題 10. 規則活用動詞の desayunar, comer, escribirなどを活用させて使う、「いっしょに食事しようか?」など 11. 一人で住んでいます、近くに住んでいます、友達に手紙を書く、復習の練習問題 12. 動詞 tener の基本的な用法 → 授業がある、兄弟がいる、~しなければならぬ 13. 君の電話番号は? 100までの数詞、疑問詞 cuál、年齢をたずねる 14. 誕生日はいつですか? → 曜日、日付の表現 → 色々な動詞と組み合わせて使う 15. 復習の練習問題 		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 木村琢也・泉水浩隆・高澤美由紀著『コンティーンゴ! 1』第三書房(定価2,300円+税)をテキストとして使用します。生協書籍部で購入してください。スペイン語の辞書: 辞書は必携です。長く使える辞書として、『クラウン西和辞典』三省堂(定価4,700円)、『プエルタ新スペイン語辞典』研究社(定価4,700円)、『西和辞典(第2版)』小学館(定価6,930円)を推奨します。その他、『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館(定価3,500円)、あるいは『現代スペイン語辞典』白水社(定価4,200円)は使いやすい、本科目の勉強レベルでは十分な内容を持っています。しかし、応用科目や講読の授業のレベルでは、「役不足」は否めません。電子辞書に収められている辞書は、ほとんどが前掲の白水社のもので、参考書については、必要に応じて教室で指示します。		

成績評価の方法／Evaluation	2回の小テスト（50％）および期末試験（50％）の結果に基づいて評価します。欠席回数が授業回数の3分の1を超えると、評価のマイナス要因となるので、きちんと出席してください。詳細は、初回授業の際に説明します。
学習上の助言／Learning Advice	教室では、恥ずかしがらずに大きな声で発音し、積極的に授業に参加してください。この授業では、簡単な文型でいいですから、スペインで表現する力をつけることが目標になります。基本的な知識は、確実に自分のものにしていく姿勢が求められます。辞書の助けを借りながら、文章の意味を確認するとともに、各種の練習を教室で楽しめるならば、長足の進歩は間違いなしです。高いレベルを目指すためには、予習・復習が欠かせません。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語基礎Ⅳ/Basic Spanish IV		
担当教員(所属)/Instructor	飯田 敏彦(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G729292
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	飯田 敏彦(toiida2222@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	飯田 敏彦(授業の前後にコンタクトをとること)		
授業の内容/Course Description	テキストの各レッスンには7~8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。発音練習・反復練習が必要な場合には、受講生どうしが向き合って会話練習を行います。		
授業の達成目標/Course Goals	やさしいスペイン語の発音能力と語彙力を養うことを目的に授業を進めます。最大の目標は、基本動詞を正確に活用させて使えるようにすることです。これに加えて、本授業では語彙力を養うことも重要な課題になります。会話のテーマに沿った語彙の用意がないと、ごくかんたんな会話でさえ成り立ちませんので、単語レベル、あるいは語句レベルでの準備をしっかりと行った上で、平易な文章を正確に作る練習を行います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	当科目を履修できるのは、これまで初級スペイン語を学んだ経験がある方、あるいは本学で前期開講のスペイン語基礎科目の単位を取得した方に限られます。スペイン語技能検定試験などの資格試験に合格している方は、担当者に相談してください。		
前提とする知識/Prerequisites	英語文法の知識に加えて、初歩的なスペイン語文法の知識が必要になります。スペイン語の辞書は必携です。		
関連科目/Related Courses	英語文法の知識に加えて、初歩的なスペイン語文法の知識が必要になります。スペイン語の辞書は必携です。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教室ではテキストの録音テープを再生して会話文や例文、練習問題の解答例などの発音を聞き、発音練習します。続けて、会話表現、単語・語句について意味と用法の確認を行います。この際に、必要に応じてかんたんな文法説明を加えます。さらには、テキストにある会話の応用問題、各種の練習問題を通じて、理解度の確認を行い、知識の定着に努めます。プリントを使って補足的な練習をしたり、受講生どうしが向き合って会話練習を繰り返したりすることもあります。最後には、授業担当者からの質問に口頭で答えるか、まとめの問題に答えて提出してもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明、レストランでの会話、直接目的格人称代名詞とともに動詞 esperar と llevar を使う 2. レストランで料理を注文する、3人称の直接目的格人称代名詞、動詞 invitar 3. 語根母音変化動詞 querer を用いて、レストランで飲み物を注文する、querer + 不定詞、動詞 pedir 4. 動詞 pagar、poder を使って飲食代金を支払う、動詞 jugar の用法、復習の練習問題 5. 動詞 ir(行く)と venir(来る)を使った表現、意味がよく似た動詞 saber と conocer を使い分ける 6. 間接目的格人称代名詞とともに動詞 dar を使う → 「あげます」と「もらえますか?」 7. 動詞 regalar、前置詞格人称代名詞、復習の練習問題 8. 趣味や好みをたずねる → gustar, encantar, interesar, doler の用法 9. 2種類の人称代名詞を同時に使って表現する、動詞 hacer の3人称単数形を使った天候の表現 10. 「半年前からスペイン語を勉強しています」→ 時間の経過を表す hace、復習の練習問題 11. 動詞 salir、poner、traer、今日の午後・明日の朝・毎朝などの表現を使う 12. 動詞 decir(言う)、oír(聞く)、ver(見る)の用法 → 「よく聞こえますか?」 13. 無人称の hay que → 「～しなければならない」、tener que+不定詞、deber + 不定詞 14. 再帰動詞 levantarse、acostarse の活用と用法 15. 復習の練習問題、再帰動詞 lavarse、ponerse を使う 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書： 木村琢也・泉水浩隆・高澤美由紀著『コンティエーゴ! 1』第三書房(定価2,300円+税)をテキストとして使用します。生協書籍部で購入してください。スペイン語の辞書： 辞書は必携です。長く使える辞書として、『クラウン西和辞典』三省堂(定価4,700円)、『ペルタ新スペイン語辞典』研究社(定価4,700円)、『西和中辞典(第2版)』小学館(定価6,930円)を推奨します。この他、『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館(定価3,500円)、あるいは『現代スペイン語辞典』白水社(定価4,200円)は使いやすく、本科目の勉強レベルでは十分な内容を持っています。しかし、応用科目や講読の授業のレベルでは、「役不足」は否めません。電子辞書に収められている辞書は、ほとんどが前掲の白水社のものです。参考書については、必要に応じて教室で指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	2回の小テスト(50%)および期末試験(50%)の結果に基づいて評価します。欠席回数が授業回数の3分の1を超えると、評価のマイナス要因となるので、きちんと出席してください。詳細は、初回授業の際に説明します。		
学習上の助言/Learning Advice	スペイン語入門!に続いて、スペイン語の表現練習をしましょう。教室では失敗を恐れずに大きな声で発音し、積極的に授業に参加するようにしてください。動詞だけのリストの作成、名詞、形容詞などの単語帳の作成をお勧めします。		
キーワード/Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語応用Ⅰ/Intermediate Spanish Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G729333
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	スエヨシ アナ(水曜日 8:50~10:20 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容/Course Description	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読み、日常的な会話ができるように練習します。		
授業の達成目標/Course Goals	スペイン語応用Ⅰとスペイン語Ⅱを1年間受講することにより、毎年春、秋に行われるスペイン語検定試験の入門レベル(6~4級)か外国語としてのスペイン語検定試験(A1~A2)に合格できるような実力を養成します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本演習は専門導入科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語を学習したい学生を対象とします。		
前提とする知識/Prerequisites	スペイン語基礎Ⅰ スペイン語基礎ⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅤ		
関連科目/Related Courses	スペイン語基礎Ⅰ スペイン語基礎ⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅤ		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業では標準スペイン語を教える予定ですが、スペイン語は20か国以上の国々で話されている言語なので、国によって言葉使いが違います。よって、できるだけスペインとラテンアメリカの国々の様々な言語の異なる点を教えることにより、ラテンアメリカにおける特定の文化や国に興味がある学生が自分の関心のある地域におけるスペイン語の知見を得られるようにします。スペイン語を楽しく学習できるように文法を勉強しながら、その文法に関連づけて、スペインとラテンアメリカ文化を紹介します。このシラバスは授業の進捗状況(学生の理解状況)によって、調節のため学期内で変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業の説明、発音、アルファベット、基本的な構文、名前、国籍 第2週挨拶、自己紹介、職業、電話番号、年齢、誕生日、祝日、女性名詞と男性名詞、単数名詞と複数名詞、冠詞 第3週住まいを描写、理想的な町、男性名詞と女性名詞、Ser動詞とEstar動詞 第4週Hay動詞vsEstar動詞、好き、行き方を聞く、前置詞 第5週時間の管理、時差、何時から何時まで、約束、再起動詞 第6週レジャー、断る、言い訳、頻度、出来る動詞 第7週中間まとめ 第8週食事、食べ物、注文、好き、嫌い 第9週レストランで、不規則動詞 第10週人・家族を描写、性格・外見の形容詞 第11週誰の、意見の表現 第12週気候、天気、買い物、直接目的語 第13週プレゼントをかう、服の色、形、素材、Muy vs. Mucho 第14週季節、似合う 第15週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書+ワークブック: Rodríguez Martín, José Ramón y Miguel Angel García Guerra 著 「META ELE A1 Libro del alumno+Cuaderno de ejercicios+CD (メタ・エレ A1 教科書・ワークブック・CD付き) Curso de español de supervivencia」 Edelsa 出版社。定価2,450円(消費税込み)宇都宮大学生協で販売。授業の進行状況によって作成したプリントを使用。フラッシュカード、CD音楽、DVD映画、和西・西和辞書を使用。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	楽しくスペイン語を勉強しましょう。Nos vemos en clase.		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語応用Ⅱ / Intermediate Spanish II		
担当教員(所属) / Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G729355
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 金 /Fri 5, 金 / Fri 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	スエヨシ アナ(水曜日 8:50~10:20 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容 / Course Description	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読み、日常的な会話ができるように練習します。		
授業の達成目標 / Course Goals	スペイン語を楽しく学習できるように文法を勉強しながら、その文法について、スペインとラテンアメリカ文化を紹介する。毎年春、秋に行われるスペイン語技能検定試験の入門レベル(6~4級)か外国語としてのスペイン語検定試験(A1~A2)に合格できるような実力を養成します。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	本演習は国際学部の専門導入語科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語を学習したい学生を対象とします。		
前提とする知識 / Prerequisites	スペイン語応用Ⅰ履修済みの学生を対象とします。		
関連科目 / Related Courses	スペイン語応用Ⅰ履修済みの学生を対象とします。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	授業では標準スペイン語を教える予定ですが、スペイン語は20か国以上の国々で話されている言語なので、国によって言葉使いが違います。よって、できるだけスペインとラテンアメリカの国々の様々な言語の異なる点を教えることにより、ラテンアメリカにおける特定の文化や国に興味がある学生が自分の関心のある地域におけるスペイン語の知見を得られるようにします。このシラバスは授業の進捗状況(学生の理解状況)によって、調節のため学期内で変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週授業の進め方を説明、スペイン語応用Aのまとめ 第2週予約、ホテルで、情報を聞く、不規則動詞、前置詞 第3週お土産、習慣、誰の、場所の関係副詞 第4週計画、提案、現在完了 第5週比較、交渉、近い未来 第6週健康、診察、お薦め、命令 第7週中間まとめ 第8週情報を得る、情報手段、頻度、意見を言う 第9週インターネット、点過去 第10週就職活動、手紙を書く、履歴書、menteの副詞 第11週通信手段、現在分詞、線過去 第12週電話・携帯についての語彙 第13週同時に、過去について描写、点過去・線過去 第14週現在完了・点過去・線過去のまとめ 第15週まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書+ワークブック: Rodríguez Martín, José Ramón y Miguel Angel García Guerra 著「META ELE A1 Libro del alumno+Cuaderno de ejercicios+CD(メタ・エレ A1 教科書・ワークブック・CD付き) Curso de español de supervivencia」Edelsa 出版社。定価2,450円(消費税込み)宇都宮大学生協で販売。授業の進行状況によって作成したプリントを使用。フラッシュカード、CD音楽、DVD映画、和西・西和辞書を使用。		
成績評価の方法 / Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言 / Learning Advice	楽しくスペイン語を勉強しましょう。Nos vemos en clase.		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	中国語基礎Ⅰ／Basic Chinese Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	景 慧(その他)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G740156
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容／Course Description	初心者を対象に中国語の発音からスタートし、やさしい挨拶と日常会話、また、初歩的な文法事項などを教えます。		
授業の達成目標／Course Goals	中国語を学ぶ第一歩としての本授業は、前期15回の学習を通して、中国語の発音が正しく出来ること、簡単な会話や最も初歩的な文法を理解し応用できること、さらに、今の中国人と中国社会全般への関心と理解を持ち、中国に関する知識と教養を有することを目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回の最初の数分間はやさしい中国語で受講者の皆さんに話しかけます。分からなくてもいいですので、とにかく中国語のシャワーを浴びてもらいます。それが終わった後、発音と単語の学習、基礎文法の説明と応用などを分かり易く教えます。指導に当たっては、受講者各自の個性と理解の度合いに気を配りながら、やさしく丹念に導きます。映像教材も使いますし、中国映画の鑑賞も一回程度予定を組みます。テキストにそって進めますが、状況次第で変更することがあります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第一回中国と中国語について 第二回中国語の発音：声調と単母音 第三回中国語の発音：複合母音 第四回中国語の発音：子音 第五回発音の総合復習と挨拶用語の学習 第六回指示詞と「是」 第七回「是」の実践応用(会話形式) 第八回形容詞述語文 第九回数字量詞 第十回存現の表現：「有」と「在」 第十一回時刻と時量連動文 第十二回○1V+了○2了2 第十三回V+了1+・・・+了2 第十四回了の復習と応用 第十五回学習したものの纏めと総合練習		
教科書・参考書等／Textbooks	『極める中国語(初級編)』(同学社)		
成績評価の方法／Evaluation	定期試験80%、平常の単語テスト20%。		
学習上の助言／Learning Advice	語学の勉強は繰り返しが大切です。よく復習しテキストに付いているCDを聞くように努力してください。 国際学部の受講者は「中国語基礎Ⅲ」と並行してとるようにしてください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	中国語基礎Ⅰ／Basic Chinese Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	景 慧(その他)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G740230
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容／Course Description	初心者を対象に中国語の発音からスタートし、やさしい挨拶と日常会話、また、初歩的な文法事項などを教えます。		
授業の達成目標／Course Goals	中国語を学ぶ第一歩としての本授業は、前期15回の学習を通して、中国語の発音が正しく出来ること、簡単な会話や最も初歩的な文法を理解し応用できること、さらに、今の中国人と中国社会全般への関心と理解を持ち、中国に関する知識と教養を有することを目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回の最初の数分間はやさしい中国語で受講者の皆さんに話しかけます。分からなくてもいいですので、とにかく中国語のシャワーを浴びてもらいます。それが終わった後、発音と単語の学習、基礎文法の説明と応用などを分かり易く教えます。指導に当たっては、受講者各自の個性と理解の度合いに気を配りながら、やさしく丹念に導きます。映像教材も使いますし、中国映画の鑑賞も一回程度予定を組みます。テキストにそって進めますが、状況次第で変更することがあります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第一回中国と中国語について 第二回中国語の発音：声調と単母音 第三回中国語の発音：複合母音 第四回中国語の発音：子音 第五回発音の総合復習と挨拶用語の学習 第六回指示詞と「是」 第七回「是」の実践応用(会話形式) 第八回形容詞述語文 第九回数字量詞 第十回存現の表現：「有」と「在」 第十一回時刻と時量連動文 第十二回○1V+了○2了2 第十三回V+了1+・・・+了2 第十四回了の復習と応用 第十五回学習したものの纏めと総合練習		
教科書・参考書等／Textbooks	『極める中国語(初級編)』(同学社)		
成績評価の方法／Evaluation	定期試験80%、平常の単語テスト20%。		
学習上の助言／Learning Advice	語学の勉強は繰り返しが大切です。よく復習しテキストに付いているCDを聞くように努力してください。 国際学部の受講者は「中国語基礎Ⅲ」と並行してとるようにしてください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	中国語基礎Ⅰ／Basic Chinese Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	景 慧(その他)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G740237
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容／Course Description	初心者を対象に中国語の発音からスタートし、やさしい挨拶と日常会話、また、初歩的な文法事項などを教えます。		
授業の達成目標／Course Goals	中国語を学ぶ第一歩としての本授業は、前期15回の学習を通して、中国語の発音が正しく出来ること、簡単な会話や最も初歩的な文法を理解し応用できること、さらに、今の中国人と中国社会全般への関心と理解を持ち、中国に関する知識と教養を有することを目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回の最初の数分間はやさしい中国語で受講者の皆さんに話しかけます。分からなくてもいいですので、とにかく中国語のシャワーを浴びてもらいます。それが終わった後、発音と単語の学習、基礎文法の説明と応用などを分かり易く教えます。指導に当たっては、受講者各自の個性と理解の度合いに気を配りながら、やさしく丹念に導きます。映像教材も使いますし、中国映画の鑑賞も一回程度予定を組みます。テキストにそって進めますが、状況次第で変更することがあります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>第一回 中国と中国語について</p> <p>第二回 中国語の発音：声調と単母音</p> <p>第三回 中国語の発音：複合母音</p> <p>第四回 中国語の発音：子音</p> <p>第五回 発音の総合復習と挨拶用語の学習</p> <p>第六回 指示詞と「是」</p> <p>第七回 「是」の実践応用(会話形式)</p> <p>第八回 形容詞述語文</p> <p>第九回 数字量詞</p> <p>第十回 存現の表現：「有」と「在」</p> <p>第十一回 時刻と時量連動文</p> <p>第十二回 ○1V+了○2了2</p> <p>第十三回 V+了1+・・・+了2</p> <p>第十四回 了の復習と応用</p> <p>第十五回 学習したものの纏めと総合練習</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	『極める中国語(初級編)』(同学社)		
成績評価の方法／Evaluation	定期試験80%、平常の単語テスト20%。		
学習上の助言／Learning Advice	語学の勉強は繰り返しが大切です。よく復習しテキストに付いているCDを聞くように努力してください。 国際学部の受講者は「中国語基礎Ⅲ」と並行してとるようにしてください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語基礎Ⅱ / Basic Chinese II		
担当教員(所属) / Instructor	景 慧(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G740330
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 5, 火 / Tue 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容 / Course Description	「中国語基礎Ⅰ」を終えた方を対象に、中国語の基礎文法を本格的に学びます。文法事項を多くの例文を通して理解した上で応用を通して記憶します。文の排列順序、実用的な慣用表現・会話表現などを教え、中国の文化や歴史に関する様々な話もします。		
授業の達成目標 / Course Goals	中国語に関する基礎的な学力を身につけることを目標とします。具体的には、自分の大学・趣味・家族構成・買い物など、言わば、日常的で初歩的な中国語によるコミュニケーションができるように到達すること。また、中国を知りそれなりの理解を示し、その隣国と仲良く付き合っていく心構えを持つよう、中国語の時間を通して目指します。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識 / Prerequisites	「中国語基礎Ⅰ」を修了したことが条件。		
関連科目 / Related Courses	「中国語基礎Ⅰ」を修了したことが条件。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	前期の「中国語基礎Ⅰ」の進め方とほぼ同じです。単語の読みと解釈、本文の朗読、慣用表現や文法の説明と応用。会話やペーパー練習は前期より多くなります。単語テストは一課が終わるごとに行います。後期の後半からリスニングを導入します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第一回前期に習った内容を復習 第二回○1V+過、○2回数補語 第三回「在V」「V着」 第四回前置詞の纏め 第五回方位詞 第六回方向補語 第七回結果補語 第八回可能表現「会」、「能」 第九回可能と許可の表現「可以」 第十回比較表現 第十一回 受け身 第十三回 使役表現 第十四回「是……的」 第十五回 総合復習		
教科書・参考書等 / Textbooks	前期の「中国語基礎Ⅰ」と同一教科書：『極める中国語(初級編)』(同学社)		
成績評価の方法 / Evaluation	定期試験80%、平常の単語テスト20%		
学習上の助言 / Learning Advice	学習したものを消化するのに繰り返しが大切です。よく復習するように。テキストのCDを最低週に二回聞くことを心掛けてください。国際学部の学生は中国語基礎Ⅳを並行して取るように。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語基礎Ⅱ / Basic Chinese II		
担当教員(所属) / Instructor	景 慧(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G740337
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 水 /Wed 5, 水 / Wed 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容 / Course Description	「中国語基礎Ⅰ」を終えた方を対象に、中国語の基礎文法を本格的に学びます。文法事項を多くの例文を通して理解した上で応用を通して記憶します。文の排列順序、実用的な慣用表現・会話表現などを教え、中国の文化や歴史に関する様々な話もします。		
授業の達成目標 / Course Goals	中国語に関する基礎的な学力を身につけることを目標とします。具体的には、自分の大学・趣味・家族構成・買い物など、言わば、日常的で初歩的な中国語によるコミュニケーションができるように到達すること。また、中国を知りそれなりの理解を示し、その隣国と仲良く付き合っていく心構えを持つよう、中国語の時間を通して目指します。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識 / Prerequisites	「中国語基礎Ⅰ」を修了したことが条件。		
関連科目 / Related Courses	「中国語基礎Ⅰ」を修了したことが条件。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	前期の「中国語基礎Ⅰ」の進め方とほぼ同じです。単語の読みと解釈、本文の朗読、慣用表現や文法の説明と応用。会話やペーパー練習は前期より多くなります。単語テストは一課が終わるごとに行います。後期の後半からリスニングを導入します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第一回 前期に習った内容を復習 第二回 ○1V+過、○2回数補語 第三回 「在V」「V着」 第四回 前置詞の纏め 第五回 方位詞 第六回 方向補語 第七回 結果補語 第八回 可能表現「会」、「能」 第九回 可能と許可の表現「可以」 第十回 比較表現 第十一回 受け身 第十三回 使役表現 第十四回 「是・・・的」 第十五回 総合復習		
教科書・参考書等 / Textbooks	前期の「中国語基礎Ⅰ」と同一教科書：『極める中国語(初級編)』(同学社)		
成績評価の方法 / Evaluation	定期試験80%、平常の単語テスト20%		
学習上の助言 / Learning Advice	学習したものを消化するのに繰り返しが大切です。よく復習するように。テキストのCDを最低週に二回聞くことを心掛けてください。国際学部の学生は中国語基礎Ⅳを並行して取るように。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語基礎Ⅲ/Basic Chinese III		
担当教員(所属)/Instructor	松金 公正(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G741401
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松金 公正(電話028-649-5216 電子メール matskane@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松金 公正(木曜日1~2時限、松金資料室(5号館A棟3階))		
授業の内容/Course Description	本授業は、はじめて中国語を学習する学生が正確な発音や基本文型の使い方を習得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのはもちろん、とくに基礎的会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がもっとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の習得を授業の中心に据えることとなります。		
授業の達成目標/Course Goals	受講者には、本授業の受講後、中国語学習を進めていく上での基礎的知識を身につけていること、中国語学習の準備が完了していることを要求します。また、後期に開講される中国語入門基礎Ⅱとあわせ一年の学習を経た後、基礎的会話能力や聴解力を具備することを要求します(中国語検定准4級レベル)。また、テキスト学習の合間に近年の中国事情紹介も行う予定ですので、中国語という言葉だけではなく、その言葉が使用されている中国社会に興味をもってもらえればと思います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識はありません。 なお、国際学部の学生で中国語を選択する学生は、当科目に並行して必ず中国語基礎Ⅰを今学期履修するようにしてください。また、後期は中国語基礎Ⅱと中国語基礎Ⅳを並行して履修するようにしてください。		
関連科目/Related Courses	前提とする知識はありません。 なお、国際学部の学生で中国語を選択する学生は、当科目に並行して必ず中国語基礎Ⅰを今学期履修するようにしてください。また、後期は中国語基礎Ⅱと中国語基礎Ⅳを並行して履修するようにしてください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	1. 中国語上達のポイントは発音及び聴解力にあるため、カセットやCDなどを利用して繰り返し練習し、中国語を「聞く」「話す」習慣を身につけます。 2. 授業においては、「カルタもどき」などのゲームを取り入れたいと考えているので、積極的な姿勢で演習に参加してください。 3. 日本の漢字とは異なる簡体字、繁体字の表記を学習することにより、日本語、中国語間の文化的差異について理解を深める一助とします。		

<p>授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule</p>	<p>演習形式。 発音練習に時間をかけて進めます。 毎回、はじめの20分間は、前回の授業で学習した単語や短文を課題として覚えてきてもらい、「聴写」という確認小テストを行います。出席はその小テストを回収することによりとります。</p> <p>第1回 ガイダンス、中国語とは何か？ 第2回 発音（1）声調と短母音 第3回 発音（2）子音＋短母音 第4回 発音（3）複合母音 第5回 発音（4）鼻母音 第6回 発音（5）発音の確認テスト 第7回 数詞、指示代名詞、人称代名詞 第8回 「是」を用いる文、形容詞述語文 第9回 疑問詞疑問文、名詞の修飾語 第10回 所有を表す「有」 第11回 名量詞、お金の数え方 第12回 反復疑問文 第13回 存在文、動詞の重ね型 第14回 「想」の用法 第15回 復習 第16回 期末試験</p> <p>*なお、これに加えて中国の人物や地名、及び最近の社会の様子についても解説を加えます。そのため、その分量により、文法事項の説明は変更される可能性があります。</p>
<p>教科書・参考書等／Textbooks</p>	<p>三瀧正道ほか『たのしく話そう中国語』朝日出版社、2、100円（税別） *購入方法は最初の授業で説明します。</p>
<p>成績評価の方法／Evaluation</p>	<p>期末考査の成績（80％）に加え、授業参加の積極性や小テスト（「聴写」）の結果（20％）も加味して、総合的に評価します。</p>
<p>学習上の助言／Learning Advice</p>	<p>入門期における発音のレッスンは中国語のマスターにおいてとても重要な意味をもっていますので、付属のCDなどを利用して必ず予習・復習をしてください。</p>
<p>キーワード／Keywords</p>	
<p>備考／Notes</p>	

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語基礎Ⅳ/Basic Chinese Ⅳ		
担当教員(所属)/Instructor	松金 公正(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G742205
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松金 公正(電話028-649-5216 電子メール matskane@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松金 公正(木曜日1~2時限、松金資料室(5号館A棟3階))		
授業の内容/Course Description	本授業は、中国語基礎Ⅰ及びⅢを履修した学生が正確な発音や基本文型の使い方を習得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのはもちろん、とくに基礎的会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がもっとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の習得を授業の中心に据えることとなります。		
授業の達成目標/Course Goals	受講者には、前期に開講される中国語基礎Ⅲと合わせて一年の学習を経た後、挨拶や教室用語、日常生活で用いるような平易な中国語を聞き、話すことができるなど、中国語の基礎をマスターして欲しいと思います(中国語検定準4級レベル)。具体的には、簡体字とピンインを筆記でき、中日辞典を自力で引け、辞書があれば簡単な文章を読むことができ、日常生活での常用語500~1000語を使った単文の日本語訳と日本語の中国語訳ができるようになることを要求します。 また、テキスト学習の合間に近年の中国事情紹介も行う予定ですので、中国語という言葉だけではなく、その言葉が使用されている中国社会に興味をもってもらえればと思います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識/Prerequisites	国際学部学生で中国語を選択する学生は、本科目を受講する前に必ず前期開講の中国語基礎Ⅰ、Ⅲを受講し、当科目に平行して必ず中国語基礎Ⅱを今年度履修してください。		
関連科目/Related Courses	国際学部学生で中国語を選択する学生は、本科目を受講する前に必ず前期開講の中国語基礎Ⅰ、Ⅲを受講し、当科目に平行して必ず中国語基礎Ⅱを今年度履修してください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	1. 中国語上達のポイントは発音及び聴解力にあるため、カセットやCDなどを利用して繰り返し練習し、中国語を「聞く」「話す」習慣を身につけます。 2. 授業においては、「カルタもどき」などのゲームを取り入れたいと考えているので、積極的な姿勢で演習に参加してください。 3. 日本の漢字とは異なる簡体字、繁体字の表記を学習することにより、日本語、中国語間の文化的差異について理解を深める一助とします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	演習形式。 発音練習に時間をかけて進めます。 毎回、はじめの20分間は、前回の授業で学習した単語や短文を課題として覚えてきてもらい、「聴写」という確認小テストを行います。出席はその小テストを回収することによりとります。 第1回 ガイダンス、中国語入門基礎Ⅰの内容の復習 第2回 所在文、方位詞、時刻と時間量 第3回 選択疑問文 第4回 日付の言い方 第5回 AからBまで 第6回 「就」の二つの用法 第7回 確認テスト 第8回 アスペクト助詞「了」 第9回 ふたつの「できる」(「会」と「能」) 第10回 動詞の修飾語 第11回 「可以」の用法、「了」の使い方 第12回 結果補語 第13回 「~したことがある」(経験) 第14回 「~しているところ」(進行) 第15回 確認と復習 第16回 期末試験 *なお、これに加えて、受講者の学習レベルによって最近の社会の様子についても解説を加えます。そのため、その分量により、文法事項の説明は変更される可能性があります。		
教科書・参考書等/Textbooks	前期「中国語基礎Ⅲ」で使用した三浦正道ほか『たのしく話そう中国語』朝日出版社、2,100円(税別)を使用します。		
成績評価の方法/Evaluation	期末考査の成績(80%)に加え、授業参加の積極性や小テスト(「聴写」)の結果(20%)も加味して総合的に判定します。		

学習上の助言／Learning Advice	入門期における発音のレッスンは中国語のマスターにおいてとても重要な意味をもっていますので、付属のCDなどを利用して必ず予習・復習をしてください。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	中国語応用Ⅰ／Intermediate Chinese Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	景 慧(その他)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G745960
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容／Course Description	中国語基礎Ⅰ～Ⅳを履修し、中国語の発音、初級文法を一通り習得した学習者を対象に、初歩文法を復習しながら、中級中国語への橋渡しをする授業です。		
授業の達成目標／Course Goals	文法を復習した上で、語彙や日常会話表現を増やし、表現力を高め、更に読解力を向上させることを目標とします。また、後期に開講される中国語応用Ⅱとあわせ、一年の学習を経た後、一定の会話能力や聴解力を具備することを要求します(中国語検定4級レベル)。また、テキスト学習の合間に近年の中国事情紹介も行う予定ですので、中国語という言葉だけではなく、その言葉が使用されている中国社会に興味をもってもらえればと思います。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識／Prerequisites	中国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを習得していること。		
関連科目／Related Courses	中国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを習得していること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	新しい語彙や文法事項を覚えることは勿論ですが、それより一年間履修した内容を再度学び直し完全に自分のものとして自由に表現できることに重点をおきます。読む、会話する、聞く、といった作業はどの時間においてもたっぷり行います。下記の授業計画通りにテキストに沿って進めますが、状況次第で変更することがあります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第一回中国人の朝ご飯(方向補語について) 第二回注文のやり取り(「了」の復習) 第三回タクシーを呼ぶ(結果補語について) 第四回中国の交通事情(「会」、「能」、「可以」の復習) 第五回映画に誘う(兼語文について) 第六回中国の娯楽事情(兼語文の応用) 第七回A A制とA B制(受け身表現) 第八回食事に誘う(受身身表現の応用、「?」の復習) 第九回中間復習 第十回病院にて(「是・・・的」について) 第十一回中国の病院事情(「是・・・的」の応用) 第十二回中国の季節(比較表現) 第十三回ネットショッピング(「一点儿」、「一会儿」、「一下」) 第十四回中国のネットショッピング事情(「想」の復習) 第十五回総合復習、纏め。		
教科書・参考書等／Textbooks	『中国語への道――浅きより深きへ――準中級編』(金星堂)		
成績評価の方法／Evaluation	定期試験80%、平常試験20%。		
学習上の助言／Learning Advice	テキストはどの課も会話文とそれとペアを成す短文があります。暗誦が表現力の向上に極めて有効でありますので、50字前後の短文を二月に一つ暗記するよう、心がけてください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語応用Ⅱ / Intermediate Chinese Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	景 慧(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G746962
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容 / Course Description	中国語応用Ⅰを履修した学習者を対象に、中級中国語への橋渡しをする授業です。		
授業の達成目標 / Course Goals	中国に1人で行ったときでも、最低限のコミュニケーションには困らない、自分ひとりで北京や上海を歩き、現地の人と簡単な意思疎通が出来ることを目指します。また、終了時に、一定の会話能力や聴解力を具備することを要求します(中国語検定4級レベル)。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識 / Prerequisites	中国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、中国語応用Ⅰを取得していること。		
関連科目 / Related Courses	中国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、中国語応用Ⅰを取得していること。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	中国を一人歩きする際、想定上の場面に対応できそうな会話やコミュニケーションの方法を、語彙・文法・表現パターンの説明からスタートし、繰り返して練習することによって、それらを身につけてもらいます。練習は1対1の会話様式であり、故に、ヒアリングは授業時間の3分の1以上を占めることになります。下記の計画通りにテキストに沿って進めますが、状況次第で変更することがあります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<p>第一回前期内容の復習</p> <p>第二回「剩男」「剩女」は何?(中国事情)(「V着」の復習)</p> <p>第三回同上(「才」と「就」)</p> <p>第四回大学生のアルバイト(前置詞の後置「V在」、など)</p> <p>第五回頼み事(バイト探し)(離合動詞、慣用句)</p> <p>第六回大学生活(中国にて)(「再」と「又」、二重目的語)</p> <p>第七回中国流の感謝法(回数補語の語順)</p> <p>第八回中国人との付き合い(慣用句の学習)</p> <p>第九回就職はどうする?(「却」の使い方、倍数と割引の表現)</p> <p>第十回理想の仕事は何?(結果補語の注意点)</p> <p>第十一回「月光族」(疑問詞の呼応用法)</p> <p>第十二回「月光族」の続き(得意を示す「会」)</p> <p>第十三回出来事(一)(前置詞の後置「V往」、など)</p> <p>第十四回出来事(二)(「竟然」について、方向補語の復習)</p> <p>第十五回纏め、総合復習</p>		
教科書・参考書等 / Textbooks	前期と同じテキスト:『中国語への道——浅きより深きへ——準中級編』(金星堂)		
成績評価の方法 / Evaluation	定期試験80%、平常試験20%。		
学習上の助言 / Learning Advice	テキストはどの課も会話文とそれとペアを成す短文があります。暗誦が表現力の向上に極めて有効でありますので、50字前後の短文を二月に一つ暗記するよう、心がけてください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語基礎Ⅰ/Basic Thai Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	泉田 スジнда(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G750119
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	泉田 スジнда(電話: 090-4050-7929 e-mail: sujindai@hotmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	泉田 スジнда(水曜日の12時から12時45分 非常勤控え室)		
授業の内容/Course Description	タイ語を初めて学ぶ学生を対象にタイ語の基礎知識を学びます。具体的には、子音、母音、タイ語の特徴の声調、単語の構成と発音規則を習得するとともに、簡単な挨拶や自己紹介の表現を学びます。また、タイの生活、文化、伝統、経済、歴史を紹介します。		
授業の達成目標/Course Goals	タイ語を初学習者が、タイ語の基本である42子音、母音(短母音、長母音、二重母音)、声調(4の声調と5声調音)に関して「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4点をマスターできることをめざします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	タイ語の発音をマスターするため、発音練習を繰り返すとともに、教師との一対一の指導を通じて正確な発音を取得できるように授業を進めていきます。また書く力をつけるために、テキストの練習問題を繰り返すことも必要です。毎回宿題があります。また、いくつかの小テスト(Listening、書く、読む)を行う予定です。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. タイとタイ語について 2. 1-14番目の子音の発音・書き方・子音の種類(低子音、中子音、高子音) 一言の挨拶(1) 3. 15-29番目の子音の発音・書き方・子音の種類(低子音、中子音、高子音) 一言の挨拶(2) 4. 30-42番目の子音の発音・書き方・子音の種類(低子音、中子音、高子音) 一言の挨拶(3) 5. 基礎の短母音の文字、発音、書き方 一言の挨拶(4) 6. 基礎の長母音の文字、発音、書き方 一言の挨拶(5) 7. 基礎の二重母音の文字、発音、書き方 一言の自己紹介(6) 8. タイ語の声調、声調とは、声調記号 一言の自己紹介(7) 9. 中子音と声調のきまり 10. 高子音と声調のきまり 一言の自己紹介(8) 11. 低子音と声調のきまり 12. 末子音の単語 文字と発音 一言の自己紹介(9) 13. 末子音と母音の変化 14. (平音節と促音節)、 一言の自己紹介(1) 15. 前期の復習とまとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	授業中にプリントを配布。また教材「タイ文読み書きの基礎」(ウィライ・トーモラクン)を参考書として使用する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加状況 15%、宿題の達成度 15%、小テスト 15%、および最終期末試験 55%		
学習上の助言/Learning Advice	新しい世界に挑戦する気持ちで勉強して下さい。今まで聞いたこともなく、alphabetでもなく、漢字でもなく、これまで発音したことも見たこともない言葉ですから、驚くかもしれませんが、とても刺激になると思います。またタイ語の発音は難しいといわれますが、是非、この授業を通して、自分の音感を磨いてください。タイ語の発音をマスターできればどんな言葉の発音にも対応できるでしょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語基礎Ⅱ / Basic Thai Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	泉田 スジнда(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G750219
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 5, 火 / Tue 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	泉田 スジнда(電話 : 090-4050-7929 e-mail : sujindai@hotmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	泉田 スジнда(水曜日の12時から12時45分 非常勤控え室)		
授業の内容 / Course Description	タイ語基礎Ⅰを学習した学生を対象に、日常的によく使われる単語、表現や基礎的文法を用い、簡単な会話や作文を学びます。また、授業では、タイの生活、文化、伝統、経済、歴史を紹介します。		
授業の達成目標 / Course Goals	1. 日常でよく使う単語を覚えて、書く、読む、聞くができる。 2. 簡単な日常会話ができる。 3. 簡単な文を作ることができる。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	「タイ語基礎Ⅰ」の履修を終了したことを受講の前提とします。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回基礎となる文型を学びます。またその文型によく使われる単語を練習します。文型の練習を先生との会話の形で繰り返し練習することになります。また毎回さまざまな小テスト(listening、書く、読む)を行います。冬休みには日記をタイ語で書く宿題があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎のこと：子音、母音、声調の復習 2. 挨拶と自己紹介 3. 私は日本人です、タイ人ではありません、彼は中国人でしょう？ , , 4. 図書館はどこですか？ 前置詞 5. タイ料理は辛いけど、おいしいです。 形容詞の文型 6. 学生はタイ語を大学で勉強します。動詞の文型 7. タイにいったことがない、行きたいです。さまざまな助動詞 8. 時制：進行形 未来形 過去 9. 可能表現 10. 数字 タイの数字 11. 疑問詞疑問文、疑問助詞疑問文 12. 接続詞 13. 関係代名詞 14. 引用表現 15. 復習とまとめ 		
教科書・参考書等 / Textbooks	教材はプリントを配布 参考所：三上直光著『タイ語の基礎』白水社 2004年 ¥4,300 CD付		
成績評価の方法 / Evaluation	授業への参加状況 15 %、宿題の達成度 15 %、小テスト 15 %、および最終期末試験 55 %		
学習上の助言 / Learning Advice	この講義を通じて受講生はタイ語を話せる段階に入ると考えています。最初は、なかなか自信がもてず、話したいことが通じるか不安があると思います。是非、一歩勇気出して、進んで話してみてください。タイ語が通じた時の喜びを味わいましょう。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語基礎Ⅲ/Basic Thai III		
担当教員(所属)/Instructor	マリー・ケオマノータム(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G750319
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マリー・ケオマノータム(malee@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	マリー・ケオマノータム(木曜日・金曜日12:05~12:45)		
授業の内容/Course Description	初めてタイ語を学ぶ受講者を対象に、タイ語の文字、単語の構成要素である子音、母音、声調規則を学び、読み書きでき、また正確に発音できるように訓練します。また、初歩の基本文法を学習することにより、簡単な文章の読解力を養います。		
授業の達成目標/Course Goals	タイ語の読みかたの規則を短期間で理解し、正確に読む力と発音を身につけることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	とくにありませんが、短期間でタイ語の読解力を身につけるために、併設の「タイ語基礎I」と進行をあわせ、その内容をもとに、発音と文字の練習を反復的にするので、「タイ語基礎I」と並行して受講するようにしてください		
関連科目/Related Courses	とくにありませんが、短期間でタイ語の読解力を身につけるために、併設の「タイ語基礎I」と進行をあわせ、その内容をもとに、発音と文字の練習を反復的にするので、「タイ語基礎I」と並行して受講するようにしてください		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	テキストにもとづいて、タイ語の読み書きを反復練習するとともに、基本文法を少しずつ覚えていきます。毎時間の予習・復習が重要です。授業のはじまりには、前回学習した内容の小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス:授業の内容、進め方等の説明 2. 子音について 3. 長母音について 4. 短母音について 5. 重母音について 6. 声調の規則(1) 7. 声調の規則(2) 8. <SVO型>の語順、修飾関係(1) 9. 時制、述語としての形容詞 10. 修飾関係(2) 11. 修飾関係(3) 12. 《経験》と《意志》の助動詞 13. 《所有》と《存在》の動詞 14. 動詞連続 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:野津幸治・佐藤博史・宮本マラシー『タイ語読解力養成講座』めこん、2,800円(税別)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(60%)と出席状況・授業態度・小テスト(40%)によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	初習外国語のため、難しいと感じるかもしれませんが、文字書きと発音の規則(ルール)がはっきりしているので、以外と簡単!必要なのは、あなたの挑戦と積極性です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語基礎Ⅳ/Basic Thai IV		
担当教員(所属)/Instructor	マリー・ケオマノータム(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G750419
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マリー・ケオマノータム(malee@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	マリー・ケオマノータム(木曜日・金曜日12:05~12:45)		
授業の内容/Course Description	「タイ語基礎Ⅰ」「タイ語基礎Ⅲ」を受講した学生を対象に、引き続きタイ語の表現や基本文法を学びます。タイ語の正確な発音を訓練するとともに、初級程度の文章の読解力と作文力を養成します。		
授業の達成目標/Course Goals	タイ語の初級基本文法を正確に理解し、読解力および作文力を身につけることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	「タイ語基礎Ⅰ」および「タイ語基礎Ⅲ」を履修済みであること。		
関連科目/Related Courses	「タイ語基礎Ⅰ」および「タイ語基礎Ⅲ」を履修済みであること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	「タイ語基礎Ⅲ」のテキストを引き続き学習します。タイ語の読み書きを反復練習するとともに、より複雑な基本文法を覚えていきます。毎時間の予習・復習が重要です。授業のはじまりには、前回学習した内容の小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 接続詞、文末詞、命令文 2. 「～してきた」、「～してみる」 3. 因果関係文、「若干の～」 4. 希望・願望の表現、「ほとんど～」 5. 推量の表現、受身の表現 6. 「～のあと」、「～とわかる」 7. 時刻・時間の表現、否定詞 8. 指示代名詞、「しかし」 9. 引用の表現、「～すべき」 10. 「～したばかり」、「～であればあるほど～」 11. 依頼の表現、関係代名詞 12. 可能の表現、《完了》の助動詞 13. 義務・必要の表現、形容詞・動詞の名詞化 14. 条件・仮定の表現、「たとえ～ても」 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：野津幸治・佐藤博史・宮本マラシー『タイ語読解力養成講座』めこん、2,800円(税別)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(60%)と出席状況・授業態度・小テスト(40%)によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	日頃からタイ語の文章に親しむようにしてください。初習外国語のため、難しいと感じているかもしれませんが、単語や表現を積極的に覚えると読み書く力が着実に付いてきます。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	タイ語応用Ⅱ / Intermediate Thai Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	泉田 スジダ(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G750619
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 / Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可 (出願前面談有)		
連絡先 (研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	泉田 スジダ(電話 : 090-4050-7929 e-mail : sujindai@hotmail.com)		
オフィスアワー (自由質問時間) / Office Hours	泉田 スジダ(水曜日の12時から12時45分 非常勤控え室)		
授業の内容 / Course Description	タイ語の aspekto、助動詞、モダリティ、とさまざまな接続詞などの中級程度の文法を学びます。		
授業の達成目標 / Course Goals	1. 中級程度の文章を読解できるようになる。 2. 習得した表現や文法を用いてより複雑な作文や訳文ができるようになる。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。また、国際学部外国語科目の教育目標「世界の各地域とその文化を現地の言語でより深く理解するための基礎学力を養成する」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	「タイ語入門Ⅰ」、「タイ語入門Ⅱ」および「タイ語応用Ⅰ」を履修済みであること。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回新しい文型を学びます。また文型の例文を通して文法の理解につなげるとともに、新しい単語の取得を目指します。毎回、学生が習った文型を使って自分で文章を作って、先生と会話形式で学習します。毎回の宿題でもっと理解していきます。		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. 基礎のこと復習 2. 教科書の第34課 3. 第35課 4. 第36課 5. 第37課 6. 第37課 7. 第40か 8. 中間テスト 9. 第41課 10. 第41課 11. 第44課 12. 第44課 13. 第45課 14. 第46課 15. 復習とまとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書 : 三上直光著『タイ語の基礎』白水社 2004年 ¥4,300 CD付		
成績評価の方法 / Evaluation	授業への参加状況 15 %、宿題の達成度 15 %、小テスト 15 %、および最終期末試験 55 %		
学習上の助言 / Learning Advice	この講義の中では語彙を豊かにするとともに、より複雑な文型を使って表現することを学びます。たくさんのお話をタイ語で表現できるようになると思います。またタイの社会や文化についても学ぶこととなります。タイ語を通じ異文化にふれることができればいいですね。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	朝鮮語基礎Ⅰ／Basic Korean Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	筒井 真樹子(国際学部)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G760155
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	筒井 真樹子(授業中にお知らせします。)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	筒井 真樹子(火曜日13:00~14:00(非常勤講師室))		
授業の内容／Course Description	朝鮮語の基礎を学びます。朝鮮語は世界の言語の中で日本語にもっとも近い言語です。語順が日本語と同じであり、助詞や漢字語も共通しています。ですから日本人にとってもっとも覚えやすい外国語なのです。授業では、そのような朝鮮語の文字・発音・文法を学ぶと同時に、その背景にある韓国の社会や文化などを紹介します。		
授業の達成目標／Course Goals	初習者向けとして朝鮮語の基礎能力を養います。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	①CDやプリントを活用して発音練習をします。 ②ハングル文字が正確に書けるように繰り返し練習します。 ③ 会話練習をします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週教科書第1課「韓国語と文字」 第2週教科書第2課「基本母音字」 第3週教科書第3課「基本子音字①」 第4週教科書第4課「基本子音字②」 第5週教科書第5課「基本子音字③」 第6週教科書第6課「合成子音字」 第7週教科書第7課「合成母音字」 第8週教科書第8課「パッチム」 第9週教科書第9課「連音化」 第10週教科書第10課「私は学生です」 第11週教科書第11課「これは何ですか？」 第12週教科書第12課「この人は誰ですか？」 第13週教科書第13課復習 第14週教科書第14週「教室に何がありますか？」 第15週復習 第16週期末試験		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：李昌圭著『韓国語へ旅しよう初級』（朝日出版社）（宇大生協で販売） 参考書：特になし		
成績評価の方法／Evaluation	出席20%、授業への参加態度10%、単語テストの成績20%、期末試験の成績50%で、総合的に評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	1. できれば他の入門クラスと併せて取るようにしてください。 2. 授業を休まないようにしてください。 3. 授業に積極的に参加してください。 4. 予習・復習をしてください。 5. 語学上達のコツは「やる気・根気・暗記」の「三つのキ」だということを忘れないでください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語基礎Ⅰ / Basic Korean Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	金 多希(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G760160
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	金 多希(開講時に教えます。)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	金 多希(火曜日: 12:00~12:50 (非常勤講師室))		
授業の内容 / Course Description	朝鮮語と日本語は文法構造が非常に類似しています。そのため、日本人にとって大変馴染みやすく、覚えやすい外国語の一つです。このような朝鮮語の特徴を踏まえた上、本演習では、まず朝鮮語の文字と発音をしっかりと身に付けます。そして、基本的な自己紹介や挨拶ができるように口頭演習を通して基礎会話を習得します。		
授業の達成目標 / Course Goals	初習者向けとして朝鮮語の基礎能力を養います。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	特に問いません。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	主に教科書を中心に進めますが、他に現在の生きた朝鮮語の表現にも触れます。まず、朝鮮語40文字の表記と発音に重点を置きます。とりわけ文字と発音は、毎週復習の機会を設け繰り返し覚えていきます。さらに、ワーク・シートを積極的に活用することで、朝鮮語の基礎を体系的且つ着実に身につけていきます。また、二つの副教材を用い、教科書の外側にある日常的な表現にも触れます。ここでは、K-POPの歌詞を読むことで、より自然な発音を練習します。次に、韓国ドラマ(もしくはコマーシャル)の台詞を拾いながら、口語表現やイントネーションを学習します。ならびに、現在の韓国事情にも関心を広げつつ、最新の流行や韓国文化も紹介します。授業は基本的に日本語で行いますが、言葉に慣れるように簡単な朝鮮語を交えながら進めます。 (学習者の状況によって、授業の進度を調節する場合があります。予めご了承ください。)		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 初回ガイダンス 第2週 基本母音字 第3週 基本子音字(1) 第4週 基本子音字(2) 第5週 激音と濃音 第6週 合成母音字 第7週 パッチム(1) 1文字パッチム 第8週 パッチム(2) 2文字パッチム 第9週 発音の規則(1) 連音化 — K-POP、読んで歌ってみよう 第10週 発音の規則(2) 2文字パッチムの連音化 — K-POP、読んで歌ってみよう 第11週 文字の読む練習 — ドラマやコマーシャルの台詞を読んでみよう 第12週 自己紹介 — 私は学生です。 第13週 指示代名詞 — これは何ですか? 第14週 家族の呼称と所有格 — この人は誰ですか? 第15週 総まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	李昌圭『韓国語へ旅しよう(初級)』朝日出版社(生協で販売)		
成績評価の方法 / Evaluation	出席及び授業への参加態度(20%)、課題及び小テスト(20%)、期末試験(60%)		
学習上の助言 / Learning Advice	外国語に興味のある方なら楽しく勉強できると思います。気軽に始められる外国語なので、緊張せず初回のガイダンスに参加してみてください。前期の授業が終わる頃には文字が自然に読めるようになります。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語基礎Ⅱ / Basic Korean Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	金 多希(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G760265
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	金 多希(開講時に教えます。)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	金 多希(火曜日: 12:00~12:50 (非常勤講師室))		
授業の内容 / Course Description	朝鮮語と日本語は文法構造が非常に類似しています。そのため、日本人にとって大変馴染みやすく、覚えやすい外国語の一つです。このような朝鮮語の特徴を踏まえた上、本演習では前期に続き、基礎会話能力を向上させるための語彙、文法を中心に学習します。さらに言葉を支えている韓国の伝統文化や歴史、あるいは韓国事情など、多方面から朝鮮語の全体像を概観します。		
授業の達成目標 / Course Goals	前期に続き、初級者向けの『聞く・話す・読む・書く』4つの機能を磨きます。その上、基礎会話の運用能力と簡単な文章(メール、手紙、年賀状など)が書けるようにします。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	「朝鮮語基礎Ⅰ」を履修した人、またはそれに相応する朝鮮語能力を有する人を対象とします。		
関連科目 / Related Courses	「朝鮮語基礎Ⅰ」を履修した人、またはそれに相応する朝鮮語能力を有する人を対象とします。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	本授業では、「朝鮮語基礎Ⅰ」の知識を踏まえ基礎会話の運用能力を養うために、初級文法を勉強しながら文型を学び、より正確なコミュニケーション能力の向上を図ります。毎回の復習を通して、文法や語彙を確認します。授業の進め方は、ペア・ワークを通して口頭演習を行ったり、直接文章を作成するなど演習形式を採ります。教科書を中心に進めますが、学習者が目と耳で楽しめるような内容も加え、多方面で朝鮮語を紹介します。最近の韓国映画やドラマ、K-POPなど、生の朝鮮語の表現や現在韓国で流行している文化などにも触れつつ、朝鮮語を話せる魅力を探求します。 (学習者の状況によって、授業の進度を調節する場合があります。予めご了承ください。)		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 初回ガイダンス 第2週 前期の復習 — 自己紹介を話してみよう。書いてみよう 第3週 場所と位置を尋ねる — 教室に何がありますか? 第4週 動詞・形容詞の活用(—/—) — 何をしますか? 第5週 動詞・形容詞の否定(—)と曜日 第6週 敬語で話す — どこに行かれますか? 第7週 過去を話す — 昨日何をしましたか? 第8週 日付を話す — 試験はいつですか? 第9週 時間を聞く — いま何時ですか? 第10週 日付と曜日、時間の復習 第11週 買い物をする — いくらですか? 第12週 非格式体(—)の作り方 — 週末に何をしますか? 第13週 非格式体・尊敬形{—()}の作り方 — いま、何をしていますか? 第14週 誘いのことば、意思表示のことば — 何を食べましょうか? 第15週 総まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	李昌圭『韓国語へ旅しよう(初級)』朝日出版社(生協で販売): 前期と同様		
成績評価の方法 / Evaluation	出席及び授業への参加態度(20%)、課題及び小テスト(20%)、期末試験(60%)		
学習上の助言 / Learning Advice	一人一人の学習者の能力向上を図るために、繰り返し練習し、復習する演習形式の授業です。学習者の積極的な取り組みが望まれます。後期が終わる頃には簡単な会話ができるようになります。朝鮮語で話せる達成感をぜひ、味わってみてください。※初回のガイダンスには、なるべく出席してください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語基礎Ⅲ/Basic Korean III		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 史郎(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G760333
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	佐々木 史郎(sasakis@cc.utsunomiya-u.ac.jp 内線5222)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	佐々木 史郎(月曜日 12:10~13:10 峰町5号館A棟(国際学部A棟)2階 佐々木(史)資料室)		
授業の内容/Course Description	朝鮮語は日本語に最も近い言語です。朝鮮語には日本語と同じく助詞や漢字語、尊敬語などがあるほか日本語と語順が一致しています。それゆえ、朝鮮語は日本人(日本語は韓国人)にとって最も学習しやすい言語の中の一つとされています。本授業では、まず文字(基礎文字24+合成文字16=40文字)と、その発音をしっかりと学びます。1学期終了後には意味は分からなくても地下鉄のハングル表記やK-POP歌手のハングルの名前がすらすらと読めます。		
授業の達成目標/Course Goals	朝鮮語学習未経験者を対象に朝鮮語学習に基礎となる文字と発音の習得を目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	問いません。		
関連科目/Related Courses	問いません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回、副教材のトレーニング・ペーパーを4枚ほど配布して書く練習を行うとともに、毎回の授業の始めに前回習った文字の聞き取りの練習を行います。これを繰り返すことによって、○や□など、記号のように見えていたものが文字として目の前に浮かび上がってきます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイダンス：朝鮮語ってどんな言語？ 2、基本母音：K-popを聞く(朝鮮語に触れる1) 3、基本子音：K-popを聞く(朝鮮語に触れる2) 4、基本子音：韓国のCMソングを聞く(朝鮮語に触れる3) 5、基本子音：韓国の歌曲を聴く(朝鮮語に触れる4) 6、合成子音：韓国の童謡を歌う(朝鮮語を試す) 7、合成子音：韓国の歌曲を歌う(朝鮮語を試す) 8、終声子音：K-popを歌う(朝鮮語を試す) 9、終声子音：K-popを歌う(朝鮮語を試す) 10、連音：ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 11、連音：ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 12、第1課：ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 13、第2課：ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 14、第3課：ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 15、まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：李昌圭『韓国語へ旅しよう初級』朝日出版社(宇大生協で販売)		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の授業課題(60%)と期末試験(40%)の成績を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	★初回の授業にはなるべく出席するようにしましょう。 ★朝鮮語を確実にマスターしたいと思う学生は、併設されている『朝鮮語基礎Ⅰ』も一緒に受講してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	朝鮮語基礎Ⅳ / Basic Korean Ⅳ		
担当教員(所属) / Instructor	佐々木 史郎(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G760456
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 木 / Thu 3, 木 / Thu 4	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可 (出願前面談有)		
連絡先 (研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	佐々木 史郎(sasakis@cc.utsunomiya-u.ac.jp 内線5222)		
オフィスアワー (自由質問時間) / Office Hours	佐々木 史郎(月曜日 12:10~13:10 峰町5号館A棟(国際学部A棟)2階 佐々木(史)資料室)		
授業の内容 / Course Description	前期の『朝鮮語基礎Ⅲ』に引き続き、文字と発音に重点を置きながら基礎文法をマスターします。文法が分かっていくにつれて基礎的な韓国語の文章の構造が理解でき、自己紹介や簡単な会話ができるようになります。12月頃には韓国の留学生や韓流スターに韓国語でクリスマスカードや年賀状、e-mailを書くことができます。		
授業の達成目標 / Course Goals	初級文法をマスターし、ハングル検定試験5級(韓国語検定試験1級)合格を目指します。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	前期の『朝鮮語基礎Ⅰ』『朝鮮語基礎Ⅲ』を修了している者を対象とします。		
関連科目 / Related Courses	前期の『朝鮮語基礎Ⅰ』『朝鮮語基礎Ⅲ』を修了している者を対象とします。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	1. 毎回、授業で学習した文法事項と表現を、トレーニング・ペーパーと聞き取り練習を通して理解・確認し、確実に力がつけるようにしていきます。 2. よく出てくる語彙の意味とその背後に広がる韓国文化の特徴や、また最近の日本における韓流現象と韓国における日流現象についても解説を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1、ガイダンス: 前期の確認 2、第12課 3、第13課 4、第14課 5、第15課 6、第16課: 小テスト 7、第17課 8、第18課 9、第19課 10、第20課 11、第21課: 小テスト 12、第22課 13、第23課 14、第24課 15、総まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 李昌圭『韓国語へ旅しよう初級』朝日出版社(宇大生協で販売)		
成績評価の方法 / Evaluation	毎回の授業課題(60%)と期末試験(40%)の成績を総合して評価します。		
学習上の助言 / Learning Advice	前期の『朝鮮語基礎Ⅲ』に比べて覚える文法事項や単語、表現が多く、授業もやや速くなります。毎回配布するトレーニング・ペーパーを欠かさず行うようにしましょう。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語応用Ⅰ/Intermediate Korean Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	筒井 真樹子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G762160
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	筒井 真樹子(授業中にお知らせします。)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	筒井 真樹子(火曜日13:00~14:00(非常勤講師室))		
授業の内容/Course Description	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者用に中級の文法を学びます。さまざまな文法を学ぶことによって朝鮮語に慣れ、自信をつけます。言葉を学ぶと同時に韓国の文化や習慣にも触れ、楽しく学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	①複雑な会話ができるようになります。 ②複雑な文章が書けるようになります。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」の履修者を対象にします。		
関連科目/Related Courses	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」の履修者を対象にします。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	①少し複雑な文章を読んだり、書いたりします。 ②練習問題をやって応用力をつけます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 教科書第1課「助詞のまとめ」 第3週 教科書第2課「銀行へ行こうと思います」 第4週 教科書第2課「銀行へ行こうと思います」 第5週 教科書第3課「明日、何をするつもりですか」 第6週 教科書第3課「明日、何をするつもりですか」 第7週 教科書第4課 復習 第8週 教科書第5課「キムチは辛いです」 第9週 教科書第5課「キムチは辛いです」 第10週 教科書第6課「どこで撮った写真ですか」 第11週 教科書第6課「どこで撮った写真ですか」 第12週 教科書第7課「歌を歌いました」 第13週 教科書第8課 復習 第14週 教科書第9課「お金を替えることができますか」 第15週 教科書第9課「お金を替えることができますか」 第16週 期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：李昌圭著『やさしく仕組みがわかる 韓国語中級Ⅰ講義ノート』（白帝社）（宇大生協で販売） 参考書：特になし		
成績評価の方法/Evaluation	出席20%、授業への参加態度10%、単語テストの成績20%、期末試験の成績50%で、総合的に評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	1. 他の朝鮮語の科目も併せて取るようにしてください。 2. 授業を休まないようにしてください。 3. 授業に積極的に参加してください。 4. 予習・復習をしてください。 5. 語学上達のコツは「やる気・根気・暗記」の「三つのキ」だということを忘れないでください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語応用Ⅱ / Intermediate Korean Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	筒井 真樹子(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G762265
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	筒井 真樹子(授業中にお知らせします。)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	筒井 真樹子(火曜日13:00~14:00(非常勤講師室))		
授業の内容 / Course Description	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者を対象に、中級の文法を学びます。さまざまな文章を読んだり、書いたり、会話をしたりすることによって朝鮮語に慣れ、自信を深めるようにします。言葉だけではなく、その背景にある韓国の社会や文化についても触れ、楽しく学びます。		
授業の達成目標 / Course Goals	①複雑な会話ができるようになります。 ②複雑な文章が書けるようになります。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」「朝鮮語応用Ⅰ」の履修者を対象とする。		
関連科目 / Related Courses	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」「朝鮮語応用Ⅰ」の履修者を対象とする。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①少し複雑な文章を読んだり、書いたりします。 ②練習問題をやって応用力をつけます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 教科書第10課 「到着したら電話します」 第3週 教科書第10課 「到着したら電話します」 第4週 教科書第11課 「雨が降っているようです」 第5週 教科書第12課 復習 第6週 教科書第13課 「窓が開いています」 第7週 教科書第14課 「写真を撮ってもいいですか」 第8週 教科書第15課 「何時までに行けばいいですか」 第9週 教科書第15課 「何時までに行けばいいですか」 第10週 教科書第16課 復習 第11週 教科書第17課 「ソウルへ行ったことがありますか」 第12週 教科書第17課 「ソウルへ行ったことがありますか」 第13週 教科書第18課 「心配しないでください」 第14週 教科書第18課 「心配しないでください」 第15週 教科書第20課 復習 第16週 期末試験		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書：李昌圭著『やさしく仕組みがわかる韓国語中級Ⅰ講義ノート』（白帝社）（宇大生協で販売） 参考書：特になし		
成績評価の方法 / Evaluation	出席20%、授業への参加態度10%、単語テストの成績20%、期末試験の成績50%で、総合的に評価します。		
学習上の助言 / Learning Advice	1. 他の朝鮮語の科目も併せて取るようにしてください。 2. 授業を休まないようにしてください。 3. 授業に積極的に参加してください。 4. 予習・復習をするようにしてください。 5. 語学が上達するコツは「やる気・根気・暗記」の「三つのキ」だということを忘れないでください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	家庭 (H22以前入学者対象) ／Domestic Life		
担当教員(所属)／Instructor	陣内 雄次(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G800181
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活の分野から教科・家庭の内容に関して、4名の教員が講義を行います。家庭生活領域については、家庭生活と家族など、家庭科のガイダンスにあたる内容を講義します。消費生活領域については、宇都宮市消費生活センターの方から悪徳商法などに関する内容となります。食生活領域については、世界や日本における食の現状と課題、なぜ食べるのか、栄養と食品との関わり、調理の基礎とは何か、家庭科の食生活に関する教育と「食育」との共通点と相違点等について展開します。衣生活領域については、小学校家庭科における衣生活の学習内容、すなわち衣服の着方、洗濯・管理、布を用いた製作などについて概説するとともに、それらに関して科学的な観点から論じます。また、「もの」をつくるという視点をもつ衣生活領域の果たして行くべき役割について講義をします。住生活領域については、豊かな生活を創造していくため、住環境の物的・質的基準を具体的に要求できる知識を習得し、また、少子高齢化社会を支えることができる住環境形成の主体となりうる力を育成していく教育(「まちづくり教育」)が重要に課題になっています。このため、小学校家庭科における住生活の学習を「まち環境」と関連させつつ、講義を行います。</p>		
授業の達成目標／Course Goals	家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活の分野から家庭生活に関する理解を深めます。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小学校教員免許取得に必要な教科です。小学校家庭科の必要な家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活分野の知識を獲得することを目指します。		
前提とする知識／Prerequisites	日常生活経験の意識化・客観化主体的・自立的な生活の創造的態度。		
関連科目／Related Courses	日常生活経験の意識化・客観化主体的・自立的な生活の創造的態度。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教科書は使わず、その都度必要な資料を配布します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>第1週 授業についてのオリエンテーション、家庭生活領域 第2週 消費生活領域 第3週～第5週 食生活領域 第6週～第10週 住生活領域 第11週～第15週 衣生活領域 ※担当順は変更になることがあります。</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は使用しません。授業中必要に応じて資料を配布し、課題図書などを指定します。		
成績評価の方法／Evaluation	各教員の試験、小レポート、出席により評価します。小レポート(80%)、出席点(20%)を総合して、到達目標に対する到達度を評価します。4人の教員の授業に出席し、及第点をとることが必要です。		
学習上の助言／Learning Advice	第一回目は、履修上重要なことをガイダンスしますので、第一回目には出席しないものは原則として履修できません。		
キーワード／Keywords	家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	家庭 (H22以前入学者対象) ／Domestic Life		
担当教員(所属)／Instructor	陣内 雄次(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G800182
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活の分野から教科・家庭の内容に関して、4名の教員が講義を行います。家庭生活領域については、家庭生活と家族など、家庭科のガイダンスにあたる内容を講義します。消費生活領域については、宇都宮市消費生活センターの方から悪徳商法などに関する内容となります。食生活領域については、世界や日本における食の現状と課題、なぜ食べるのか、栄養と食品との関わり、調理の基礎とは何か、家庭科の食生活に関する教育と「食育」との共通点と相違点等について展開します。衣生活領域については、小学校家庭科における衣生活の学習内容、すなわち衣服の着方、洗濯・管理、布を用いた製作などについて概説するとともに、それらに関して科学的な観点から論じます。また、「もの」をつくるという視点をもつ衣生活領域の果たして行くべき役割について講義をします。住生活領域については、豊かな生活を創造していくため、住環境の物的・質的基準を具体的に要求できる知識を習得し、また、少子高齢化社会を支えることができる住環境形成の主体となりうる力を育成していく教育(「まちづくり教育」)が重要に課題になっています。このため、小学校家庭科における住生活の学習を「まち環境」と関連させつつ、講義を行います。</p>		
授業の達成目標／Course Goals	家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活の分野から家庭生活に関する理解を深めます。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小学校教員免許取得に必要な教科です。小学校家庭科の必要な家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活分野の知識を獲得することを目指します。		
前提とする知識／Prerequisites	日常生活経験の意識化・客観化主体的・自立的な生活の創造的態度。		
関連科目／Related Courses	日常生活経験の意識化・客観化主体的・自立的な生活の創造的態度。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教科書は使わず、その都度必要な資料を配布します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>第1週 授業についてのオリエンテーション、家庭生活領域 第2週 消費生活領域 第3週～第5週 食生活領域 第6週～第10週 住生活領域 第11週～第15週 衣生活領域 ※担当順は変更になることがあります。</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は使用しません。授業中必要に応じて資料を配布し、課題図書などを指定します。		
成績評価の方法／Evaluation	各教員の試験、小レポート、出席により評価します。小レポート(80%)、出席点(20%)を総合して、到達目標に対する到達度を評価します。4人の教員の授業に出席し、及第点をとることが必要です。		
学習上の助言／Learning Advice	第一回目は、履修上重要なことをガイダンスしますので、第一回目には出席しないものは原則として履修できません。		
キーワード／Keywords	家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	野外調査論(アクティブ・ラーニング科目)/Methodology of Fieldwork(Active Learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	西尾 孝佳(雑草と里山の科学教育研究センター)		
授業種別/Type of Class	講義・演習	時間割コード/Registration Code	G800235
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水/Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	西尾 孝佳(電話番号: 028-649-5147 Email: nishio@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	西尾 孝佳(月曜日午後3時から5時。来室前に電話かEメールで問い合わせて下さい。)		
授業の内容/Course Description	社会科学, 自然科学を問わず, どんな分野でも, 町や自然の中に出かけ, 自らの手足でデータを集める必要に迫られるかもしれません。この授業ではその手法と考え方を, 野外調査の実践を通じて学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	この授業は実際に野外に出て, 自らの手足で一次資料を収集する経験を通じ, 野外調査の意義と楽しさを体得することを目的とします。あわせて, いろいろな分野の調査技法にふれることで, 各受講者が今後の修学の幅を広げていくことを期待しています。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	総合系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	既存の知識・経験は特に求めませんが, さまざまなところを歩き回る脚力, 野外で出会うさまざまな事物から多くの情報を読みとる観察力, 旺盛な好奇心が大事です。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	生物学(西尾), 地質学(相田), 人文地理学(佐々木), 文化人類学(柄木田)の4分野における野外調査の視点と方法を解説するとともに, 栃木県内で実際に, 自然の成り立ちと人の暮らしの多様性に関する野外調査を実施し, 結果をレポートにまとめます。今年度は, 第1次実習を4月25日(土), 第2次を6月20日~21日(土・日)に予定しています。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1回 オリエンテーションと各分野の紹介(1) (4/13) 第2回 オリエンテーションと各分野の紹介(2) (4/20) 第3回 第1次野外調査実習の事前指導 第4回 第1次野外調査実習(5/7) 第5回 レポートの作成提出(5/11) 第6回 人文地理学の野外調査について&第2次実習の分野別事前指導(5/18) 第7回 文化人類学の野外調査について&第2次実習の分野別事前指導(5/25) 第8回 地質学の野外調査について&第2次実習の分野別事前指導(6/1) 第9回 生物学の野外調査について&第2次実習の分野別事前指導(6/8) 第10回 全体指導(第2次野外調査実習課題の説明)(6/15) 第11回 全体指導(調査計画の立案)(6/22) 第12回 第2次野外調査実習(6/25~26, 1泊2日) 第13回 調査レポートの作成・提出(6/29) 第14回 レポート返却及び授業評価(7/13)		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書はとくに指定せず, 配付資料および視聴覚教材等により授業を行います。実習で用いる地図類, 調査用具等は授業の中で別途紹介します。参考書は以下のとおりです。 「栃木の自然をたずねて」栃木の自然編集委員会(編)築地書館 「生き物の描き方ー自然観察の技法」盛口満著東京大学出版会		
成績評価の方法/Evaluation	3回の野外調査実習への参加(事後のレポート作成を含む)と定時授業の3分の2以上の出席とを単位認定の必須要件とし, それらの取り組み状況により評価を行います。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業は実際に野外調査を実践することに主眼があるので, 週末・休日にアルバイトを予定している人は, 実習の日程に注意してください。		
キーワード/Keywords	野外調査, 植物生態学, 地質学, 人文地理学, 文化人類学		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	里山のサステナビリティを考える(アクティブ・ラーニング科目)/Sustainability of Satoyama (Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	松居 誠一郎(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義・演習	時間割コード/Registration Code	G800456
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 他 /0th.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松居 誠一郎(matsui@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松居 誠一郎(火曜日午後5時から5時半 事前にメールで問い合わせてください)		
授業の内容/Course Description	<p>この授業は高等学校で「地理」と「生物」を履修したか、あるいは深い関心をもって本などで学んだ経験のある人を対象に開講します。栃木県の農山村の社会と自然を素材として、専門的な観点で調査研究をおこない、今までに学んだ知識を実地で確かめることを目指しています。これは皆さんが今まで学習したことの総仕上げとなると同時に、高校までとは異なる大学での学習のやり方への導入にもなるでしょう。</p> <p>調査対象地域は栃木県南東部の茂木町です。八溝山地の山麓の火山岩類が侵食されてできた低い山地で、緩やかな斜面には「日本の棚田百選」に選ばれた「石畑の棚田」をはじめ、数多くの棚田が作られています。棚田周辺の里山は、かつては薪炭生産、昭和30年代後半からは原木シイタケ栽培に利用され、貴重な現金収入源となっています。一方で、全国の中山間地域と同様に、茂木町でも過疎、高齢化、外国農産物の輸入等が農業の衰退を招き、美しい里山環境を変容させつつあります。</p> <p>この授業では、茂木の里山を自然環境と農村社会の2つの面から調査し、価値を理解することを目指します。さらに、こうした環境を持続させるために何ができるのかを考え、授業の最後に提案してもらいます。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	この授業では、茂木の里山を農村社会と自然環境の2つの面から調査し、価値を理解することを目指します。さらに、こうした環境を持続させるために何ができるのかを考え、提案してもらいます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができることをめざします。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校で「地理」と「生物」を履修したか、あるいは意欲をもって書籍等で学んだ経験があることが望ましいです。また、公的機関や個人の方に対する訪問のアポイントや面接調査では、礼儀正しく謙虚な姿勢が信頼関係を築く第一歩です。正しい言葉づかいを日頃から心がけてください。		
関連科目/Related Courses	高等学校で「地理」と「生物」を履修したか、あるいは意欲をもって書籍等で学んだ経験があることが望ましいです。また、公的機関や個人の方に対する訪問のアポイントや面接調査では、礼儀正しく謙虚な姿勢が信頼関係を築く第一歩です。正しい言葉づかいを日頃から心がけてください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	室内作業(茂木町の概要についての講義、調査技術に関する実習、調査結果の整理のための実習)と、茂木町での野外調査に分けて実施します。茂木町では棚田やゆずのオーナー制度など、各地区が特色ある村づくり事業に取り組んでいます。地域資源を再発見し、付加価値を創出する活動に携わる中で、住民の方々は地域社会の変遷と今後についてどのように考えているのでしょうか。また、都市に住むオーナーの方々は、里山環境の維持にどう関わろうとしているのでしょうか。これらのことを意識しつつ、調査対象地区において、土地利用の変遷を地図や空中写真で確認し、農業経営や村づくり事業への参加について、住民の方々への聞き取り調査を行い、持続可能な農村社会の条件について意見を出し合います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>授業日程などの説明会を4月15日 金曜12時10分から12時40分教育学部A棟3階2301教室でおこないます(受講希望で授業説明に出席できない場合は4月21日までに代表教員にメールで連絡してください)</p> <p>授業は5月7日から7月23日までの土曜日(1回程度日曜日あり)のうち、7日程度の全日(午前8時半から午後5時)で実施します。このうち5日程度が茂木での現地調査および現地報告会、2日程度が学内での実習となります。具体的実施日は調査地域および大学の行事予定と調整しながら、4月19日の説明会で説明します。このため、土曜日の授業出席に支障がないことが受講の条件になります。</p> <p>野外調査の回は大学発着のバスで現地に行きます。集合時間などは4月15日に説明します。</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	現地調査ではゴム長靴を使用します。大学で多少の手持ちがあるのでサイズが合えば貸し出します。 参考書等は授業の中で指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	実習と調査に参加し、その結果を報告書にまとめてもらいます。授業中の参加姿勢、および報告書の内容によって成績評価を行います。		

学習上の助言／Learning Advice	皆さんの主体的受講姿勢が重要になります。
キーワード／Keywords	里山 サステイナビリティ
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA(アクティブ・ラーニング科目)		
担当教員(所属)/Instructor	若林 正治(その他)		
授業種別/Type of Class	実習	時間割コード/Registration Code	G800460
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 通年/Year-long 他/Oth.	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	若林 正治(電話:0287-74-6808(那須平成の森) メール:wakabayashi@keep.or.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	『人と自然をつなぐ、人と人をつなぐ』人になるための基礎知識と技能を、実践を通じて学びます。 ・インタープリテーションという手法を通して環境教育の大切さを学びます。 ・体験を通して、今ここで起こったことをふりかえり、次にどう進めていくか、その「人が学ぶ」過程を体験学習法の考え方で進めます。 ・自然体験プログラム(インタープリテーション)を体験するだけではなく、自らプログラムを実施することで「プログラムの指導演法」を学びます。 ・環境教育の教材のひとつである「プロジェクト・ワイルド」の指導者(エデュケーター)の養成をします(資格取得)。 ※インタープリテーション＝ 日本では「自然ふれあい活動」と呼ばれることがありますが、詳細は授業で解説します。		
授業の達成目標/Course Goals	自然体験活動を通して、今まで気が付かなかった自然の多様性、大切さ危うさを知り、自らが環境問題に対して一歩でも動きだせる意識を持つ“きっかけ”を得ること。また、それらのことを他者へ伝えることの大切さを理解すること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、すなわち行動的知性の養成を目標とする。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	・野外と教室を併用しながら体験重視型の授業を進めます。 ・体験をもとにそれをふりかえりながら講義を進める「体験学習法」の手法で授業を行います。 ・那須平成の森(那須町)での実習を1日実施します。 ・プロジェクト・ワイルドの講習会を1日実施します。修了すると「エデュケーター」の資格を得られ、子供たちや一般の方対象に、プロジェクト・ワイルドのプログラムを実施することができます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	授業日程は4月に決定して、掲示します。受講可能人数は15名までです。 1日目大学構内 9:00開講 オリエンテーション 【体験】アイスブレイク(心ほぐし、体ほぐし) 【体験】自然体験プログラム 【講義】環境教育とインタープリテーション 【実習】学生によるプログラムの作成と実施 ・与件の提示 ・グループ分け ・実施のための準備 17:30終了 2日目大学構内 8:30 【実習】コミュニケーション、合意形成(コンセンサス)実習 【講義】体験学習法について 【実習】学生によるプログラムの作成と実施 ・実施のための準備 ・プログラムの実施 ・プログラム評価 【実習】実施したプログラムの改善 ・改善プログラムの発表 【講義】研修のまとめ 研修全体のふりかえりとわちあい 19:00 終了 3日目那須平成の森 8:00宇大峰地区正門よりバスで出発 10:00 プロジェクト・ワイルドエデュケーター養成講習会 17:00 終了 19:00宇大峰地区正門にバスで帰着		

教科書・参考書等／Textbooks	教科書：プロジェクトワイルドテキスト3500円（受講者は必ず購入していただきます。市販されておらず授業時に購入してもらいます） 参考図書：「インタープリター・トレーニング」津村俊充ほか編ナカニシヤ出版、このほか授業時に提示 教材（資料）：授業時に配布
成績評価の方法／Evaluation	授業全過程終了時に記入する「まとめ用紙」と後日提出の「アクションプラン」による評価。 出席することを前提とし、欠席した場合は単位の取得は不可とする。
学習上の助言／Learning Advice	授業科目「人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA」では、まずは「自然の中にいることは楽しい」と体で感じてもらうことから始めます。そこから生まれる「感情」や「気づき」は、自分の頭と体に染み込んでくると思います。更に、仲間と「共感」し合ったり、見ず知らずの誰かに「伝えたい」と思うかもしれません。そういった心の中に芽生えてくるものを授業では更に後押しします。それは、伝え方を学ぶ「コミュニケーション実習」であったり、実際に自然体験プログラムを自分で考え、他の学生諸氏に指導する実習であったりします。またそれらを環境教育やインタープリテーションの講義を通して理論的に補っていきます。これらの体験を通して皆さんの「学び」を深められればと考えています。 インタープリテーションは、そのような仕事を指す人だけではなく、家庭のお母さんお父さんでも子供たちに対して行える汎用性の広い自然体験の手法です。自然の特別な知識も必要としません。学生諸氏もインタープリテーションに触れてみましょう。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	実践・宇都宮のまちづくり(アクティブ・ラーニング科目)/Introduction to Utsunomiya City Government(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	鈴木 信夫(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G845180
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水/Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	鈴木 信夫(電話 : 028-632-2059 e-mail : miyaken@city.utsunomiya.tochigi.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	鈴木 信夫(毎回の授業直後。また、市役所の開庁時間であれば電話やメールで個別相談にも応じます。)		
授業の内容/Course Description	人口減少や高齢化などによる地域社会の変容に対応した持続可能なまちをつくるために、宇都宮市がどのような政策を立案・実行しているのかを、市職員が実体験を交えながら講義します。データや情報と実社会での行政活動との融合を理解するアクティブ・ラーニング科目です。最終回には、宇都宮市長がまちづくり全般について授業を行う予定です。 ※※宇都宮市職員(公務員)を目指す方には、特におすすめです※※		
授業の達成目標/Course Goals	この授業の目標は、みなさんの身近な自治体である宇都宮市が行っているまちづくりを知ることです。市は様々な分野のまちづくりに関わっています。市の幅広い活動を知ること、なにげない日常生活の中で本市の取り組みに触れていることに気づくと思います。この「気づき」を活かし、各自が地域社会に対する理解を深めると同時に、本市のまちづくりに参画するきっかけにしてほしいと思います。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	本授業では、宇都宮市の現状・課題および施策事業に関する学習を通して、地域社会への関心や理解を深めることが期待されています。これは教養科目および総合系科目が目標とする、視野を広げること、豊かな人間性を育むこと、実践に繋げられる知識に基づいた“あらたな社会”創りを志向することのいずれにも対応しています。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	テーマごとに、第一線で活躍する各担当課職員がパワーポイントやDVD教材等を用いて講義します。 受講生同士の討論や発表の機会を設けるなど、積極的な発言を期待しています。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1週 まちづくりを考えよう ～総合計画の役割とネットワーク型コンパクトシティ～ 第2週 都市ブランド戦略を考えよう ～ミヤリー・住めば愉快だ宇都宮～ 観光を考えよう ～観光資源・プロスポーツ～ 第3週 選挙に行こう ～選挙権年齢が18歳以上に～ 宇都宮市の財政を考えよう ～「財政」って何?～ 第4週 子どもが笑顔で、男女が尊重できるまちを考えよう ～子ども政策と結婚・DV～ 第5週 からだもこころも元気な高齢社会を考えよう ～高齢者政策の現場から～ 第6週 まちの芸術・文化を考えよう ～芸術・文化振興の現場から～ 第7週 魅力ある都市づくりを考えよう ～都市計画と景観・緑地～ 第8週 都市の活力向上について考えよう ～中心市街地～ 第9週 まちの骨格となる交通を考えよう ～交通戦略・LRT～ 第10週 ひとや自然にやさしい環境都市を考えよう ～エネルギー・ごみの資源化～ 第11週 産業の育成・支援を考えよう ～産業振興・農業振興の現場から～ 第12週 安全社会・安心生活の創出を考えよう ～防犯・交通安全～ 第13週 まちづくりと地域コミュニティを考えよう ～まちづくりの担い手、自治会、多文化共生～ 第14週 人づくりを考えよう ～地域教育とはなにか～ 第15週 宇都宮市の未来を創ろう (公務都合により日程変更の可能性あり) ※全15週終了後、期末試験を実施する。		
教科書・参考書等/Textbooks	講師が作成するテキストや行政資料等(授業の際に配布します)。		
成績評価の方法/Evaluation	出席と講義中に与えられる小課題レポート、期末試験の成績を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	授業では資源・施設・取組み等を多数紹介します。是非現地に足を運び、実物・現状にふれてほしいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	一地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割り”(アクティブ・ラーニング科目)/Financial Theory and The Regional Bank(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	小野 訓啓(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G845200
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	小野 訓啓(足利銀行取締役) 他(代表教員:池田浩之(足利銀行地域振興部長)(連絡教員:瀧澤) takizawa114@ashikagabank.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	小野 訓啓(授業の直後、およびメールにて随時質問や相談に応じる)		
授業の内容/Course Description	明治28年(1895年)に栃木県足利市で創業し、本年で121年目を迎える地方銀行「足利銀行」の歴史を通じて、金融論の主要なテーマである貨幣や金融市場の仕組みとその機能を学ぶとともに、地域金融機関の役割りや金融政策など今日的な話題についても考えるアクティブ・ラーニング科目です。受講者が将来、銀行取引、資産形成、起業などといった金融と関わる場面に出会った時、実際に役立てることができること(金融リテラシーの醸成)もこの授業の大きなねらいとしています。		
授業の達成目標/Course Goals	新聞等の金融経済に関する記事への興味・関心を深め、またそれらを読んで理解できるようになることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	金融の基礎を学ぶことを通じて、我々を取り巻く経済社会を理解するとともに、卒業後歩み出す実社会を一步先取りして見据えることが期待されている。このことは教養科目および総合系科目が目標とする、視野を広げること、豊かな人間性を育むことに対応しており、金融リテラシーを備えて社会に巣立つことは行動的知性とも強い関連を有しています。		
前提とする知識/Prerequisites	特に必要ありません(経済などに興味のある方なら、誰でも参加受講できます)		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	必要な資料を毎回配布し、基本的にパワーポイントを使用した講義形式で進めますが、講義の中で“Thinking Time”と称した学生同士のディスカッションの時間や簡単なプレゼンテーションなども取り入れ、自分で論理的に考えることや他者との関連で思考を深めることにも注力します。講師は金融の現場で実務に携わっている足利銀行ならびに関連会社の役職員が担当し、オムニバス形式で行います。さらに、授業時間を利用して銀行(支店)内部の見学等も行い、銀行の現場体験からの考察や視野の拡大を図ります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>※講師や銀行(支店)サイドの都合により、講義の日程や内容を変更する事があります。</p> <p>第1回 オリエンテーション、受講者自身の金融経済知識についてセルフチェック 第2回 直接金融と間接金融・信用創造について、足利銀行創業時の金融情勢、設立の背景 第3回 貨幣と決済について考える、日本銀行の役割と金融政策 第4回 大正期における金融情勢と足利銀行の状況、大正期のバブル経済を踏まえ、平成のバブル経済を知る 第5回 戦後の金融政策の変遷、金融の自由化 第6回 日本経済・地方経済の現状・課題と見通し 第7回 銀行の支店見学(普段見ることの出来ない銀行業務の現場を視察) 第8回 銀行における地方創生の取組み①(総論) 第9回 銀行における地方創生の取組み②(地域密着型金融) 第10回 銀行における地方創生の取組み③(観光・6次産業化) 第11回 銀行における地方創生の取組み④(海外展開) 第12回 銀行における地方創生の取組み⑤(人材マッチング) 第13回 資産運用の必要性について 第14回 銀行のリスク管理と健全性の確保 第15回 地域金融機関の今後の課題と対応、これまでの講義のまとめ</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書の指定なし。参考書は、授業の都度タイムリーなものを紹介します。教材は、全て授業開催時に毎回配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	レポート(50%)による評価と定期試験の結果(50%)で評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	私たちの社会生活の中では、どこかで銀行との関わりがあるものです。足利銀行の歴史を通して、銀行をより身近に感じてもらうとともに、皆さんが、将来の生活や仕事などに役立つ金融知識の知識を身につけてもらいたいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	サイエンスコミュニケーション入門～理系と文系の壁を超えよう(アクティブ・ラーニング科目) /An Introduction to Science Communication(Active Learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	飯郷 雅之(農学部応用生命化学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G845201
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	飯郷 雅之(峰キャンパス2号館(農芸化学棟)3階 生物有機化学研究室 028-649-5474 iigo@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	飯郷 雅之(水曜日12-13時)		
授業の内容/Course Description	<p>日本における高等学校までの教育は、いわゆる「理系」と「文系」に二分された教育体系が設定され、両者の間には大きな垣根が作られている。しかしながら、実際の社会では理系文系の区別なく生きて行くことが求められている。東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、放射線リテラシーが重要になったことが一例である。</p> <p>本授業では、理系と文系の壁を乗り越えてコミュニケーションを図る態度を身につけ、科学技術と人の心に対する理解の促進と科学技術リテラシーの向上を目指し、サイエンスコミュニケーション活動を知り、体験し、主体的にサイエンスコミュニケーション活動を企画・立案・運営するための基礎を学び、実践する。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	サイエンスコミュニケーション活動を知り、体験するとともに、サイエンスコミュニケーション活動を企画・立案・運営するための基礎を学び、実践する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、すなわち行動的知性の養成を目標とする」に関連する。		
前提とする知識/Prerequisites	これまで生きていく中で蓄積した知識すべて。		
関連科目/Related Courses	3.11と学問の不確かさ(震災後の大学で考える)		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	栃木の科学技術向上のために活動している「とちぎサイエンスらいおん」(http://www.tochigi-lion.net/)事務局を担当されている帝京大学藤平昌寿さんの協力の下、講義と演習を組み合わせアクティブラーニング形式でサイエンスコミュニケーション活動について理解を深め、実践する。一部の授業は土曜日または日曜日に設定して行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>2月時点での予定であり、適宜変更することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション「サイエンスコミュニケーションとは何か？」 2. ゲストスピーカー講演(「とちぎサイエンスらいおん」藤平さん):サイエンスコミュニケーション概論 3. 事例研究①「サイエンスコミュニケーションを知る」 SC事例・関連書籍の学生によるレビュー 4. 事例研究②「サイエンスコミュニケーションを体験する」 サイエンスカフェやゲームなどの模擬体験 5. 企画①「サイエンスコミュニケーション活動を創る」 企画第1段階 6. 企画②「サイエンスコミュニケーションを広報する」 広報・啓蒙手段について考える 7. 企画③「サイエンスコミュニケーション活動を評価する」 企画第2段階・ピアレビュー 8,9. ゲストスピーカー講演(土曜日または日曜日を予定) 10. 企画④「サイエンスコミュニケーション活動を準備する」 11,12. 企画実施①「サイエンスコミュニケーションを行う-1」(土曜日または日曜日を予定) 13,14. 企画実施②「サイエンスコミュニケーションを行う-2」(土曜日または日曜日を予定) 15. 最終発表会:リフレクションカフェ「サイエンスコミュニケーションを通しての変容」 		
教科書・参考書等/Textbooks	特に指定しません。必要に応じて、レジュメ、視聴覚教材等を用いる予定です。		
成績評価の方法/Evaluation	毎回のコメントシート(25%)、サイエンスコミュニケーションイベント運営(50%)最終発表会(25%)によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	気づかぬうちに私たちの心の中に作られている理系と文系の壁って何だろう。疑問を感じたら参加してみてください。		
キーワード/Keywords	理系、文系、サイエンスコミュニケーション、		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地域金融機関とともに「地方創生」を考える(アクティブ・ラーニング科目)/Open Subject(International Cooperation Activities)(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	中野 誠(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G845210
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中野 誠(電話: 028-633-1241(代表) e-mail: houjin-eigyouto@tochigibank.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中野 誠(毎回の授業直後に質疑に応じます。)		
授業の内容/Course Description	我が国全体が急速な人口減少と高齢化を迎えようとしている中、栃木銀行は、平成27年2月に「とちぎん地域産業創生プログラム」を展開し、地方創生に対する取組みを行って来ました。地域金融機関として地域のさまざまな課題解決のために、地域資源を活用した地域独自の地方創生についての当行の取組みを、事例を交えて講義します。当行地域創生室とともに、実社会に提案できる課題解決策について一緒に考えていくアクティブ・ラーニング科目です。		
授業の達成目標/Course Goals	この授業の目標は、地域の抱えるさまざまな課題について一緒に考え、ディスカッションすることで、社会人として必要とされる課題抽出力や解決力の習得、地域における金融機関の果たす役割について理解することです。地方創生の現場で起きていることについて考えることで、「あたりまえ」の中にも改善すべき課題が存在すること、またその改善策について思考する基礎を築いて欲しいと思います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本学習を通じて、地域の魅力を引き出し、より良い地域をつくるために必要な、幅広い知識の基礎と実践感覚を養うこと。また、地域の課題を理解し、その地域資源と特性を生かした「地方創生」を考え実践できる人材の育成を目標とします。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	パワーポイントや資料等を用いて授業を進めます。また、講師との質疑応答・グループディスカッションを行うことで、考える力や議論する力を養います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	① 10月6日(木) オリエンテーション ② 10月13日(木) 自治体との連携～高根沢町の地方創生を考える～ ③ 10月20日(木) 創業による雇用創出～地方での創業を考える～ ④⑤ 10月29日(土) 課外授業(高根沢町) 11月3日(木) 休講 ⑥ 11月10日(木) 高根沢町元気あっぷ公社に見る活用策と宝積寺駅周辺の活性化を考える ⑦ 11月17日(木) 高根沢町の創生に向けて～グループディスカッション～ ⑧ 11月24日(木) コンパクトシティと宇都宮市LRT～乗車駅周辺の活用策を考える～ ⑨ 12月1日(木) 税から見た地方創生 ⑩⑪ 12月10日(土) 課外授業(宇都宮市) ⑫ 12月15日(木) 産業観光～ツーリズムによる地方創生～ 1月5日(木) 休講 ⑬ 1月12日(木) 増え続ける空き家とその活用策について考える ⑭ 1月19日(木) 「宇都宮ダブルプレイス」について考える ⑮ 1月26日(木) 1.宇都宮市の創生に向けて～グループディスカッション～、2.講義全体のまとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	講師が作成するパワーポイントや行政資料等(授業の際に配布)		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加態度(50%)とレポート(50%)により評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	授業では、当行が実際に取組んでいる事例について紹介します。日々の生活の中でも問題意識を持ち、どうしたら解決につながるかを考える癖をつけてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地域メディア演習(アクティブ・ラーニング科目)/Practice in Regional Media(Active Learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	内山 勢(その他)		
授業種別/Type of Class	講義・演習	時間割コード/Registration Code	G845220
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 他 /Oth.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	情報の高度・多様化により、企業や行政、さらには市民そのものがメディア化しつつあり、情報発信主体としての役割を担う人材へのニーズが高まっている。本授業では、地域コミュニティの再活性化のための方策のひとつとして、地域情報の役割と積極的な発信について取り上げる。また、栃木県内の情報を掘り起こし、発信するための基礎的なスキル(企画力、取材力、編集力、拡散力)について解説するとともに、新聞やモバイル等を活用し、ニュース発信等の実践を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	情報発信の基礎的なワークを通して、メディア・リテラシーを身に付けることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本授業は、基盤教育の総合系科目に該当する。社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、すなわち行動的知性の養成に関連する。		
前提とする知識/Prerequisites	前提知識として特筆すべきものはないが、地域社会に対する好奇心や行動力等が求められる。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	前半は、情報発信スキルとして、地域情報をどのような見方で切り取るのか(企画力)、どのようにして取材相手から情報を引き出すのか(取材力)、集めた情報をどのように構成し、表現するのか(編集力)、情報の拡散段階ではどのようなことに気をつけるのか(拡散力)について解説する。後半は、グループごとに企画を立て、取材し、編集する。制作したコンテンツは、毎日新聞の紙面、デジタル版などの各媒体を通じて、実際に地域、全国に情報発信するほか、コンテンツへのアクセス解析を用いて、よりアクセスを稼げるコンテンツに関するディスカッションを行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>※前期は第1週(1~3回)、第2週以降は2回分ずつ実施し、全7週で終了。詳細は掲示等で告知する。</p> <p>第1回 オリエンテーション(地域情報を取材し情報を発信する意義)</p> <p>第2回 メディア・リテラシーを考えるワーク</p> <p>第3回 情報発信を考えるワーク ~ホームワーク提示(HW①)~</p> <p>第4回 ホームワークに関する考察</p> <p>第5回 質問力や傾聴力を考えるワーク(取材先のアポイントの仕方、インタビューの方法、メモや写真のとり方)</p> <p>第6回 メディア化する地域、メディア化する企業</p> <p>第7回 多様化するメディア事情(ゲストスピーチ)</p> <p>第8回 地域メディア実践1①(資料から栃木県内の地域課題・話題等を切り出して討議)</p> <p>第9回 地域メディア実践1②(振り返りとまとめ)~ホームワーク提示(HW②)~</p> <p>第10回 地域メディア実践2①(企画報告I/テーマについて、取材対象、取材方法、取材の切り口について発表、議論)</p> <p>第11回 地域メディア実践2②(企画報告I/振り返りと講師からのフィードバック)</p> <p>第12回 地域メディア実践3①(取材報告II/グループごとに取材の経過、編集方針について発表、議論)</p> <p>第13回 地域メディア実践3②(取材報告II/振り返りと講師からのフィードバック)</p> <p>第14回 地域メディア実践4①(グループ発表)</p> <p>第15回 地域メディア実践4②(発信メディアの反省・批評と地域メディアに関するまとめ)</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	「地域メディア演習ノート」(毎日新聞社編、2016年春発行予定)※その他、随時必要に応じて資料配布		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加態度20%、HW①及び②の評価各15%(計30%)、制作したコンテンツの評価50%から総合評価		
学習上の助言/Learning Advice	地域のヒトやモノ、社会に興味を持ち、自ら積極的に意見を述べ、提案を行う姿勢を養ってもらうとともに、コミュニケーションをして情報を引き出し、発信することの面白さに触れてほしいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	危機を見つめる力(アクティブ・ラーニング科目)/Ability to Understand Risks(Active Learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	松岡 猛(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G845222
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松岡 猛(電話: 048-644-1439 e-mail: mats@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松岡 猛(毎回の講義直後、およびe-mailによる個別相談を受け付けます。)		
授業の内容/Course Description	科学技術の発展により高度・複雑化した社会では、私たちの身の回りには思いもよらない種々の危険が存在している。これらの危険を察知し、その影響の程度を理解・判断し、対応する能力を身につけることを目指すアクティブ・ラーニング科目である。		
授業の達成目標/Course Goals	実際に生じた種々の分野での事例について検討し教訓を得、日常生活において取るべき態度、万一の時に対応する能力を獲得する。自らの安心・安全のみならず、地域社会や組織において先導的な役割を果たせるような知識・能力を身につける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本学の教育目標ならびに総合系科目が目指す知と行動力を統合した行動的知性の育成や、問題解決能力を備えた“あらたな社会”を担う人材の養成に対応している。		
前提とする知識/Prerequisites	身の回りの危険に関心を持ち、物事を深く考えようとする姿勢があれば誰でも理解できる内容である。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	実際に生じた事例をクラス全体で検討しながら授業を進める。自主的学習能力と習慣を身につけるために紹介した事例を発展させた課題について適宜レポートを課す。さらに関連した課題を受講生から提案してもらい、その分析内容の発表、それに対する質疑応答を実施する、受講生参加型の科目とする。ゲストスピーカーの招聘も予定している。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 講義ガイダンス、私たちを取り巻く危険の種類 第2週 事故事例: 信楽高原鉄道事故-事前に発生していた各種の兆候をどう判断するか 第3週 事故事例: 常磐線・鶴見線鉄道事故・新幹線火災事故-事故発生時の乗員・乗客の危機対応のあり方 第4週 インドボパールの化学工場事故 -この事故からどんな教訓が得られるか 第5週 航空機は安全か?日航ジャンボ機事故を振り返る。 第6週 日々の消費生活における様々な危険。-消費者庁、消費者委員会の取り組み 第7週 道路交通(自動車・自転車・歩行者等)における危険はどこに存在するか。 第8週 危機と安全、安全の定義とリスク。-絶対安全は存在しない、安心とは何か(ゲストスピーカー) 第9週 原子力発電所事故-原子力発電の原理と内在する危険、福島原子力発電所でなにか起きたのか 第10週 医療事故の問題点-横浜市立病院の患者取り違え事故、医療事故防止対策、医療事故調査について 第11週 安全とヒューマンファクター(ゲストスピーカー) 第12週 高速バスの危険性-軽井沢転落事故、関越道事故、。事故調査と警察による犯罪捜査の違い。 第13週 社会安全実現のためのリスクマネジメント(ゲストスピーカー) 第14週 大都会の真っ只中にある危険。東京渋谷松濤の温泉での事故。~安全確保に責任を持つべき主体は? 第15週 安全目標の考えかた。		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書、参考書特になし。毎回資料を配布する。講義において参考資料、推薦書籍を紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	(1)課題レポート(35%)、(2)期末レポート(30%)、(3)発表を含む授業への参加態度(35%)により評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	講義で取り上げる各種事故事例の内容を学ぶ過程で、自身でも関連情報を調べ、先生の見方とは異なる別の視点が可能か考察を試みて下さい。それにより、未経験の問題に遭遇した時に自主的に解決する能力と習慣を身につける良い機会となります。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	3.11と学問の不確かさ(震災後の大学で考える)(アクティブ・ラーニング科目)/3.11 and Uncertainty of Our Study(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	清水 奈名子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G845223
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	清水 奈名子(nshimizu@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	清水 奈名子(水曜日 12:30-14:20(研究室にて) (上記以外の時間に面談を希望する場合には、必ず事前にメールで予約をとってください))		
授業の内容/Course Description	<p>2011年3月11日14時46分18秒に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う津波、東京電力福島第1原子力発電所の事故は、東日本大震災(3.11)として未曾有の災害を日本と世界にもたらしました。この東日本大震災は、学問の在り方についても多くの問題を提起しています。しかしながら、震災から5年が経過しました現在にいたるまで、この震災と原発事故をどのように考えるのか、そして日本と世界は何を学ぶべきなのかについて、「専門家」が異なる見解を示してきました。</p> <p>この不確かさで混乱している震災後の状況をまず理解することが、今後の学問の在り方について、そして大学における学びをめぐる議論の出発点になるのではないのでしょうか。そもそも学問的な理論や研究成果は、一定の条件のもとで選択された「仮説」であることが多く、本質的に不確実性を抱えています。さらに研究成果が社会で利用される際にも、その実施方法や評価基準は多様であり、当事者との関係性や時代とともに変化しうるものです。</p> <p>この授業では、確固とした体系をもつと考えられている学問の「不確かさ」に注目し、この共通テーマについて5つの学部の教員が多様な分野から考察することで、3.11後の大学における学びについて考えることを目的としています。なお、本授業はアクティブ・ラーニング科目です。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	東日本大震災によって発生した、もしくは明るみに出た問題や今後の課題を正確に認識し、評価する力を養うと同時に、将来の社会構築に向けて批判的な思考力と構想力を身につけることを到達目標とします。また、大学という場で「受動的に」ではなく、「能動的に」自ら考え学ぶ姿勢を身につけることも到達目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、すなわち行動的知性の養成を目標とする」に関連します。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識はありませんが、自ら課題を発見し、他者との対話と協働を通して考えを深め、主体的に行動していく力を身に付けたいという学生の意欲を求めます。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	学部を超えて参加する多様な専門分野に属する教員の講義が中心です。学生同士のグループ・ディスカッションや発表を行い、授業を受けて考察した問題点を受講者同士が共有する機会を設けます。またゲスト・スピーカーによる講演も予定しています。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	講義タイトルとスケジュールは2016年1月時点での仮案であり、変更の可能性があります。		
	4/13	1. 導入講義: 東日本大震災とは何か 授業スケジュールと担当教員の紹介(清水・国際学部)	
	4/20	2. 震災と原発事故に関するワークショップ(清水・国際学部)	
	4/27	3. 災害の援助(長谷川・教育学部)	
	5/11	4. 被災地のNPOとその経営(石井・地域デザイン科学部)	
	5/18	5. 災害対応のマネジメント(近藤・地域デザイン科学部)	
	5/25	6. 放射線リテラシー(飯郷・農学部)	
	6/1	7. 放射線測定の実際: 測定と施設の見学(飯郷・農学部)	
	6/8	8. 工学における測定の不確かさ(尾崎・工学部)	
	6/15	9. 原発事故をめぐる国際関係と公害(清水・国際学部)	
	6/22	10. 森林の放射線汚染(大久保、山本・農学部/飯塚・農学部附属演習林)	
	6/29	11. 栃木県と原発事故: ゲスト・スピーカー(予定)	
	7/6	12. 福島県からの避難者証言を読む(清水・国際学部)	
	7/13	13. 東日本大震災と教育学(上原・教育学部)	
	7/20	14. 宇都宮大学学生の取り組みの紹介	
	7/27	15. 学生による最終発表会	
教科書・参考書等/Textbooks	特に指定しません。必要に応じて、レジュメ、視聴覚教材等を用いる予定です。		
成績評価の方法/Evaluation	毎回のコメントシート(20%)、ディスカッションへの参加と貢献(20%)、最終発表会(20%)、期末レポート(40%)によって評価します。評価に際しては、授業への積極的な参加を重視します。		
学習上の助言/Learning Advice	3.11以降の学問の在り方について考えるために、5学部全てから教員が参加し、学際的な議論を展開する授業です。グループ・ディスカッションの機会も設けていますので、受講者の積極的な学習姿勢を期待しています。		
キーワード/Keywords	災害、3.11、東日本大震災、地震、津波、原発事故、不確かさ、社会的責任、学問。		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	食と生命のフィールド実践演習(アクティブ・ラーニング科目)/Field Practice of food, environment and life(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	長尾 慶和(農学部), 居城 幸夫(農学部), 柏崎 勝(農学部), 高橋 行継(農学部), 福森 理加(農学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G845231
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6, 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	4単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	長尾 慶和(農学部附属農場 (0285-84-1321, ynagao@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 居城 幸夫(「居城幸夫」 E-mail: ijiro@cc.utsunomiya-u.ac.jp TEL: 0285-84-1254) 柏崎 勝(農学部附属農場 Tel 0285-84-1338(研究室) mkashiwa@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 高橋 行継(電話0285-84-1206、 e-mail: takahashi@cc.utsunomiya-u.a		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	長尾 慶和(毎週火曜日午前中(できるだけ事前にメールで連絡を下さい)) 居城 幸夫(曜日と時間帯: 月曜日、水曜日および木曜日の12時から13時 場所: 附属農場居城研究室 この曜日や時間帯以外にEメールや電話予約も可能) 柏崎 勝(柏崎は峰キャンパスに研究室等がありませんので、e-mail等で質問を受け付けます。) 高橋 行継(前期は毎週月・木・金曜日、後期は水・木・金曜日の昼休み(12:20~13:10)。 ただし、所用で不在の場合もあるので、事前にメール等で連絡、確認のこと。上記時間帯に限らず適宜対応も可能。)		
授業の内容/Course Description	附属農場における実習と関連する事前学習と事後ディスカッションを通じて、我々の生活を支える食・環境・生命について体験的に学ぶことを目的としたアクティブ・ラーニング科目である。		
授業の達成目標/Course Goals	附属農場の自然環境の中で、五感全ての感じる力を覚醒し、課題解決に向けて自ら考え、自発的に行動する力を養う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	行動的知性を養うことを目指す大学の基盤教育の柱として位置付けられる。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎週水曜日の午後12時45分に峰キャンパス正門前をスクールバスで出発し、(必要に応じて陽東キャンパスを経由して)附属農場へ向かいます。午後1時半頃から附属農場で様々な内容の講義・見学・実習・レポート作成等を実施し、午後4時頃に峰キャンパス正門前に戻ります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	作物分野: 事前講義、水稻の播種、移植、収穫および試食 園芸分野: 事前講義、ナシの摘果、袋かけ、収穫および試食 畜産分野: 事前講義、ウシの給餌、搾乳および哺乳、乳製品加工、ヒツジの飼養管理 作業機械分野: 事前講義、作業機械操作		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書として「農業実習ハンドブック」を配付します(無料)。		
成績評価の方法/Evaluation	実習レポートの内容をベースに、実習への取り組み状況を加味して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	全国共同利用拠点として活動している農学部附属農場を、宇都宮大学の学生ならびに「大学コンソーシアム栃木」を構成する栃木県内の全ての学生に対して幅広く活用することを目指して、平成24年度からスタートし、平成27年度からリニューアルした新しい科目です。人数制限(40名)はありますが、皆さんの積極的な参加をお待ちしています。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	男女共同参画社会を生きる(アクティブ・ラーニング科目)/Gender-Equal Society(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	良 香織(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義・演習	時間割コード/Registration Code	G845277
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 他 /0th.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	社会人として必要な男女共同参画のマインドを養うアクティブ・ラーニング科目。男女共同参画社会の歴史、社会的背景、現状等についての概説を行った上で、ジェンダー、セクシュアリティ、性別役割分業、家族問題、DV、女性と労働・福祉などの個別問題についての理解を、講義やワークショップ、小グループでの話し合い等を通して促していく。また、講義のまとめを製作物として仕上げる。		
授業の達成目標/Course Goals	(1)男女共同参画の実態を把握し、現状と課題を理解する (2)男女共同参画に関する人権感覚を涵養する (3)小グループで討論し自分の意見を述べ、他の学生の意見を聞き、意見を整理して発表するというコミュニケーションスキルを獲得する		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教養科目の総合系科目		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	最初に男女共同参画社会に関する自らの意識・無意識を探ったうえで、男女共同参画の歴史や政策などの概論を講義し、その後個別テーマについて、講義、小グループによる話し合い、ワークショップ、フィルムフォーラム、インタビューアワー、インタビューダイアログなどの多様な学習方法を織り交ぜて展開する。最後にまとめとして男女共同参画社会をどのように生きていくかについての指針を作る作業をグループワークとして行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1日目: オリエンテーション 男女共同参画総論(講義) 歴史、国際的動向、労働に関する内容 2日目:ジェンダー/セクシュアリティ①(講義) 人権とジェンダー、多様なセクシュアリティ、災害と男女共同参画(とちぎ男女共同参画センター)、関係性における暴力 3日目: インタビューアワー(「NPO法人ウィメンズハウスとちぎ」の活動) 男女共同参画の実現に向けて(学習成果のまとめ)		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし。必要に応じてこちらで用意する。		
成績評価の方法/Evaluation	①毎日最後の時間に、ふりかえりカードに気づきや自分の考え方への問い直し等を記入し提出する(計3回、40%)。 ②毎時間、最後に長方形のポストイットを配布して、一コマについて3枚程度、気がついたことやポイントとなることを記録する。そのカードを集めて最終日にグループで模造紙一枚に整理し発表する(60%)。		
学習上の助言/Learning Advice	男女共同参画に関する現状と課題について、自らの問題として整理し、社会的な存在として自らの生き方を考えるきっかけにしてください(ただし、正しい答えを知るのではなく、行動に結び付けるための前提として)。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域メディア演習(アクティブ・ラーニング科目)／Practice in Regional Media(Active Learning subject)		
担当教員(所属)／Instructor	内山 勢(その他)		
授業種別／Type of Class	講義・演習	時間割コード／Registration Code	G845330
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	情報の高度・多様化により、企業や行政、さらには市民そのものがメディア化しつつあり、情報発信主体としての役割を担う人材へのニーズが高まっている。本授業では、地域コミュニティの再活性化のための方策のひとつとして、地域情報の役割と積極的な発信について取り上げる。また、栃木県内の情報を掘り起こし、発信するための基礎的なスキル(企画力、取材力、編集力、拡散力)について解説するとともに、新聞やモバイル等を活用し、ニュース発信等の実践を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	情報発信の基礎的なワークを通して、メディア・リテラシーを身に付けることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	本授業は、基盤教育の総合系科目に該当する。社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、すなわち行動的知性の養成に関連する。		
前提とする知識／Prerequisites	前提知識として特筆すべきものはないが、地域社会に対する好奇心や行動力等が求められる。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	前半は、情報発信スキルとして、地域情報をどのような見方で切り取るのか(企画力)、どのようにして取材相手から情報を引き出すのか(取材力)、集めた情報をどのように構成し、表現するのか(編集力)、情報の拡散段階ではどのようなことに気をつけるのか(拡散力)について解説する。後半は、グループごとに企画を立て、取材し、編集する。制作したコンテンツは、毎日新聞の紙面、デジタル版などの各媒体を通じて、実際に地域、全国に情報発信するほか、コンテンツへのアクセス解析を用いて、よりアクセスを稼げるコンテンツに関するディスカッションを行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 オリエンテーション(地域情報を取材し情報を発信する意義) 第2回 メディア・リテラシーを考えるワーク 第3回 情報発信を考えるワーク ～ホームワーク提示(HW①)～ 第4回 ホームワークに関する考察 第5回 質問力や傾聴力を考えるワーク(取材先のアポイントの仕方、インタビューの方法、メモや写真のとり方) 第6回 メディア化する地域、メディア化する企業 第7回 多様化するメディア事情(ゲストスピーチ) 第8回 地域メディア実践1①(資料から栃木県内の地域課題・話題等を切り出して討議) 第9回 地域メディア実践1②(振り返りとまとめ)～ホームワーク提示(HW②)～ 第10回 地域メディア実践2①(企画報告Ⅰ/テーマについて、取材対象、取材方法、取材の切り口について発表、議論) 第11回 地域メディア実践2②(企画報告Ⅰ/振り返りと講師からのフィードバック) 第12回 地域メディア実践3①(取材報告Ⅱ/グループごとに取材の経過、編集方針について発表、議論) 第13回 地域メディア実践3②(取材報告Ⅱ/振り返りと講師からのフィードバック) 第14回 地域メディア実践4①(グループ発表) 第15回 地域メディア実践4②(発信メディアの反省・批評と地域メディアに関するまとめ)		
教科書・参考書等／Textbooks	「地域メディア演習ノート」(毎日新聞社編、2016年春発行予定)※その他、随時必要に応じて資料配布		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度20%、HW①及び②の評価各15%(計30%)、制作したコンテンツの評価50%から総合評価		
学習上の助言／Learning Advice	地域のヒトやモノ、社会に興味を持ち、自ら積極的に意見を述べ、提案を行う姿勢を養ってもらうとともに、コミュニケーションをして情報を引き出し、発信することの面白さに触れてほしいと思います。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ものづくり体験(アクティブ・ラーニング科目)/Problem Based Learning(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	渡辺 信一(工学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G845678
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡辺 信一(工学部附属ものづくり創成工学センター 028-689-7071 snc.watanabe@swlab-uu.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡辺 信一(事前に連絡すること)		
授業の内容/Course Description	本授業では「ものづくり」を通して、ものづくりのセンス、ものづくりの精神、問題発見と解決能力、そして最も大切な、新しいものを創り出す創造性を身に付けることを目的とし、特に専門知識を必要としない「ものづくり」の製作体験をする。受講生は設定されたテーマに取組み、グループで自主的に「問題発見」「設計」「製作」「評価」をし、成果の「発表」を行うことを目的としたアクティブ・ラーニング科目である。		
授業の達成目標/Course Goals	受講生が設定されたテーマに取組む実施過程において、自主性、創造性、独創性に加え、グループのチームワーク、さらには、人や組織などとの間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける。 この授業では、グループ活動に個人が参加して、グループとしての成果を上げられるレベルにまで個人の諸能力を到達させることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本科目は、大学の教育目標「1.現代社会に必要なリテラシー(素養)、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います。」に寄与する。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	受講生全員を4~5名ずつのグループに分け、ものづくりのテーマに配属する。グループごとに設定された「もの」または「こと」の作成に取り組む。作成にあたっては教員側からは具体的な指示は出さず、履修者自身がグループ内で話し合って自主的に、どのように進めるか、何をどのようにして作るか、どのような実験をして性能を確かめるか、などを決め、活動する。授業の最後には、グループの活動と成果についての発表会を行う。 テーマ内容によっては成果物の性能を競う競技会を開催する場合もある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	テーマ毎に最初の授業時間中に示される。標準的計画は下記である。 第1週テーマ別オリエンテーション 第2~7週創成活動 第8週プレゼンテーション指導 第9週中間発表会 第10~13週創成活動 第14~15週成果発表会		
教科書・参考書等/Textbooks	各テーマ毎に示されるが、授業の性質上、示されないことが多い。		
成績評価の方法/Evaluation	成績は以下の点を考慮し、具体的にはテーマ毎に設定された評価基準に従い、「秀」「優」「良」「可」あるいは「不可」の評価となる。「可」以上をもって合格とする。 ・成果発表(発表会、競技会、レポートなど) ・グループの活動状況(活動過程、着想、創意工夫チームワークを重視) ・出席(出席回数が2/3に満たない者や成果発表を行わなかった者は不可とする)		
学習上の助言/Learning Advice	この授業はお仕着せの知識を習得するのではなく、自分で考え、試し、体験することが重要視される。この授業を有意義なものにできるかどうかは、履修者自身の心構えと姿勢にかかっている。自分で何もしなければ何も起こらずにただ時間が過ぎ去って行くであろう。積極的にアイデアを出し、試行錯誤を繰り返せば、時間が経つのも忘れるほど没頭でき、得るものも多く、楽しい体験ができるであろう。大学初年度である以上、高度な専門知識を既に有していることは期待していない。若く柔軟な思考を使って、自由に創造性の翼を広げ、今自分が持っているものをフルに使って頭と手の体操をして欲しい。 「注意事項」 ・前期の終わりに、本授業のオリエンテーションと配属希望テーマの調査を行うので、掲示に注意しておくこと。 ・受講希望者が多い場合には人数制限を設ける場合がある。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	宇大を学ぶ(たかがパンキョウされどパンキョウ)(アクティブ・ラーニング科目)		
担当教員(所属)/Instructor	桑島 英理佳(基盤教育)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G845911
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	桑島 英理佳(028-649-5073 kuwajima@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	桑島 英理佳(随時対応しますのでお気軽にラーニング・commons(峰町5号館B棟1階)にお越しください。)		
授業の内容/Course Description	「パンキョウ」、本当は実に有意義な学びなんです。でも、専門科目を学びたくて大学に入学してきたみなさんにとって、「高校までの勉強の繰り返し」だったり、「不得意科目もとらなきゃ」なんなかつたりして、さぞかしつまらないものでしょう。それは、きっと教養教育を学ぶ意義を知らないだけのこと。「パンキョウ」の魅力は、卒業して社会人になってから、ジワジワと身体の中に吹き出てきます。だったら、今のうちに勉強しておかなきゃソン。この授業では、「パンキョウ(教養教育の蔑称)」を学ぶ意義を理解し、「パンキョウ」って実はこんなに奥が深かったんだということを理解していきます。最終的には、次年度、「センパイ」として後輩の学修支援を行える力をつけます。		
授業の達成目標/Course Goals	(1)大学で学ぶということを理解し、今後の学習計画を立案できる力を身につけます。 (2)自分の人生において生涯学び続けるための核となる学びを探求する姿勢を身につけます。 (3)後輩を指導(ピア・サポート)できるよう、大学教育の正しい理解と指導力を身につけます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	自分の考えを整理し、論理立てて他者に伝える能力、自分と異なる他者の考えを傾聴する能力、チーム活動を共同して進める力、積極的に人前で発言する力、協調学習の成果の理解、リーダーシップや主体性の獲得等を目指します。		
前提とする知識/Prerequisites	前期を宇大生として過ごしてみても素朴な疑問、大学での勉強法についての悩みがある人を歓迎します。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	○最初に、教員から授業の進め方を説明します。 ○前半は、講義を中心に、日本の高等教育、宇大の歴史、大学に対する社会からの要請、各学部のカリキュラム、基盤教育の意義等を理解します。後半は、それらを踏まえ、グループで話し合い、自分たちで一つの理想的なカリキュラムを作ってみます。最終的に、それらを踏まえて学生と教員との意見交換会(予定)を行いたいと思っています。 ○授業外にもラーニング・commonsでのグループ活動を行う場合があります。 ○この授業の履修者は、翌年の後輩指導(ピア・サポーター)としての活躍が期待されます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. ガイダンス 2. アイスブレイク 3. 悩み・ギモンを語ってみよう① 4. 悩み・ギモンを語ってみよう② 5. 宇大を知る① 6. 宇大を知る② 7. 宇大を知る③ 8. ピア・サポートって? 9. 高等教育の歴史・いまどきの教養 10. ファシリテーション技法① 11. ファシリテーション技法② 12. 理想のシラバス作成① 13. 理想のシラバス作成② 14. 理想のシラバスの発表 15. この授業のまとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし		
成績評価の方法/Evaluation	グループワークへの参加と貢献、プレゼンテーション等によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業は、学習の上での疑問や悩みを、積極的な学びや自分自身のキャリア形成に転換するチャンスです。この授業を履修して、せっかく入った宇大での学びを有意義なものにしてほしいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」(アクティブ・ラーニング科目) /Workshop-based Learning about "Us in a Changing Modern Society"(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	湯本 浩之(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G845924
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	湯本 浩之(研究室: 峰キャンパス5号館C棟1階 TEL&FAX: 028-649-5236 (直通) E-mail: yumoto@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	湯本 浩之(毎週火曜: 12:10~13:00 ※来室するには事前に連絡してください。オフィスアワー以外でも可能な範囲で対応します。)		
授業の内容/Course Description	この授業では、現代社会が直面する貧困や格差、環境破壊や人権侵害、文化摩擦や地域紛争などの“グローバル”な問題をテーマとしたワークショップを実際に体験しながら、地球社会の現状を理解し、その解決策を検討します。また、アクティブ・ラーニングや参加型学習の基本的な考え方やその方法論について概説することを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。		
授業の達成目標/Course Goals	① 現代社会をクリティカル(critical)に読み解き、地球的課題(global issues)に対する認識や理解を深めること。 ② アクティブ・ラーニングや参加型学習の考え方やその方法論の特徴を理解すること。 ③ 共に生きることのできる公正で持続可能な地球社会や地域社会を実現していくためのアクション・プランを発信すること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育の総合系科目では「変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な科学的根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力」の養成が目指されています。この授業では、アクティブ・ラーニングや参加型学習が持つ知見や経験を活用しながら、本学が掲げる学習・教育目標にアプローチしていきます。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識は必要ありませんが、国内外に見られる貧困や格差の問題をはじめ、環境や人権、平和や文化などの問題への関心が望まれます。関連性の高い科目や分野としては、国際関係論や市民社会論、文化交流や国際協力のほか、地域デザインやまちづくり、教育方法論や教科教育法、道徳教育や総合学習(環境や国際理解)などがあげられます。		
関連科目/Related Courses	基盤教育(総合系科目): 「ワークショップで学ぶ“ボランティアと市民活動”」(後期) 国際学部専門教育科目「 「グローバル教育論」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	この授業は「ワークショップ(ディスカッションやグループワークなど)を中心に展開するほか、必要に応じて、教員の講義や解説も予定します。いずれにせよ、この授業の“要”は、教員からの知識や情報の教授にあるのではなく、履修者相互の学びあいにありますので、履修者の積極的かつ主体的な授業参加を強く期待します。ただし、履修者の人数やワークショップの進捗状況によって、授業計画の内容や順序を変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週オリエンテーションとワークショップ(WS)1「もし無人島に行くとしたら？」 第2週WS2「“豊かさ”って何?“幸せ”って何？」 第3週WS3「割り箸はもったいないのか？」 第4週WS4「“地球にやさしい”ってどういうこと？」 第5週WS5&講義1「“持続可能な社会”は実現可能か？」 第6週WS6「“郷に入れば郷に従え”ばよいのか？」 第7週WS7「あなたの“仲間”は誰ですか？」 第8週WS8「テロはなぜ起こるのか？」 第9週WS9&講義2「“共に生きる”ことは可能か？」 第10週WS10「今ここにある地球の危機とは？」 第11週講義3「地球的課題とは何か?(1)」 第12週講義4「地球的課題とは何か?(2)」 第13週WS10「アクション・プランをつくる(1)」 第14週WS11「アクション・プランをつくる(2)」 第15週WS12「グループ・プレゼンテーション」		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しません。各回の授業でレジュメや資料を配付しますので、保存用のファイルを各自用意して下さい。参考図書や関連教材などは、授業時に随時紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	平常点50%(出席30%、授業中の提出物30%)、最終プレゼン10%および最終レポート30%。		

<p>学習上の助言／Learning Advice</p>	<p>どんな学問を専攻するにせよ、将来どんな進路や職業を選択するにせよ、困難な時代や多様な社会を「読み解き」、そこに問題や課題を発見し、自分とは異なる他者と共働しながら、代案や解決策を提示していくことが求められるでしょう。そのためには、「与えられた問題の正解を探す」のではなく、「答えのない問題を皆と協力して解いていく」という「学び」が学校や大学などの教育現場はもちろん、様々な地域や組織や集団の中で、持続的に展開していくことが重要だと思います。アクティブ・ラーニングや参加型学習は、本学が教育目標に掲げる「“あらたな社会”を拓き支える人材」育成のための具体的な教育・学習論のひとつであり、次代を担おうとする宇大生が身につけてよい「グローバル・リテラシー」ないしは「現代的教養」のひとつであると考えています。この授業がその第一歩となれば幸いです。</p>
<p>キーワード／Keywords</p>	<p>グローバル・イシューズ（地球的課題） 貧困・格差 環境破壊 人権侵害 文化摩擦 地域紛争 持続可能な開発 アクティブラーニング 参加型学習 グローバル教育 開発教育 シティズンシップ教育</p>
<p>備考／Notes</p>	

授業科目名(英文名) /Course Title	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」(アクティブ・ラーニング科目)/Workshop-based Learning about "Civic and Volunteer Activities"(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	湯本 浩之(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G845926
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	湯本 浩之(研究室: 峰キャンパス5号館C棟1階 TEL&FAX: 028-649-5236 (直通) E-mail: yumoto@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	湯本 浩之(毎週火曜: 12:10~13:00 ※来室する際には事前に連絡してください。オフィスアワー以外でも可能な範囲で対応します。)		
授業の内容/Course Description	現代社会が直面する様々な社会問題の解決に向けては、政府や自治体をはじめ、NGOやNPOなどの市民組織が「ボランティア」な活動を展開しています。この授業では「ボランティア」や「ボランティア」の意味をはじめ、国内外で展開されてきた多様な社会運動や市民活動の歴史や現状について検討します。また、「市民による海外援助」をテーマとしたワークショップを通じて、「援助する」ことや「寄付すること」の意義や課題、そして、日本の市民組織が抱えてきた組織運営上の現状や問題点などについても検討していきます。		
授業の達成目標/Course Goals	市民活動の組織や運営の実際に学びながら、次のような点について理解を深めることを目標とします。 ①「ボランティア」や「ボランティア」の原意やボランティア活動の原点を理解すること。 ②欧米や日本における市民活動の歴史的展開や今日の状況を理解すること。 ③海外援助における「援助」や「寄付」の意義や課題について理解すること。 ④日本のNPO/NGOのおかれた現状や課題、今後の役割などについて理解すること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育の総合系科目では「変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な科学的根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力」の養成が目指されています。この授業では、アクティブ・ラーニングや参加型学習が持つ知見や経験を活用しながら、本学が掲げる学習・教育目標にアプローチしていきます。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識は必要ありませんが、国内外に見られる社会問題(貧困や格差、環境や人権、平和や文化、福祉や災害など)やそれらに取り組む市民組織(NPO/NGO)への関心が望まれます。関連性の高い科目や分野としては、国際関係論や市民社会論、文化交流や国際協力に関連する科目のほか、地域デザインやまちづくり ボランティア論や市民組織論 教育方法論やグローバル教育論などがあげられます。		
関連科目/Related Courses	基盤教育(総合系科目): 「ワークショップで学ぶ“変わりゆく現代社会と私たち”」(前期) 国際学部専門教育科目: 「グローバル教育論」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	この授業では、講義のほかに、ゲスト講師による活動紹介や「ワークショップ(ディスカッションやグループワーク)など」を積極的に取り入れていきます。いずれにせよ、この授業の「要」は、教員からの知識や情報の教授にあるのではなく、履修者相互の学びあいにありますので、履修者の積極的かつ主体的な授業参加を強く期待します。ただし、履修者の人数やワークショップの進捗状況によって、授業計画の内容や順序を変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション&ワークショップ(WS) 1「私のボランティア体験」 第2週 WS 2「される側から見たボランティア」 第3週 ゲスト講師による事例紹介1 第4週 講義1「宗教に見るボランティアの原意と原点」 第5週 講義2「NPOとは何か?NGOとは何か?市民活動の組織と運営」 第6週 ゲスト講師による事例紹介2 第7週 WS 3「“援助”する前に考えよう!: 1枚の看板」 第8週 WS 4「“援助”する前に考えよう!: 村の三役会議で」 第9週 WS 5 & 講義3「“援助”の功罪と“寄付”の是非」 第10週 WS 6「あるNGOの取り組み」 第11週 ゲスト講師による事例紹介3 第12週 WS 7「ある日、宇都宮に中華街構想が!!」 第13週 講義4「欧米のボランティア活動・NGO活動」 第14週 ゲスト講師による事例紹介4 第15週 講義5「日本のボランティア活動・NGO活動」 ※ゲスト講師としては、栃木県内で活動している地域ボランティア団体、国際NGO、青年海外協力隊などの関係者を予定します。		

教科書・参考書等／Textbooks	教科書は使用しません。各界の授業でレジュメや資料を配付しますので、保存用のファイルを各自用意して下さい。参考図書や関連教材などは、授業時に随時紹介します。
成績評価の方法／Evaluation	平常点60%（出席30%、授業中の提出物40%）、および最終レポート30%。
学習上の助言／Learning Advice	どんな学問を専攻するにせよ、将来どんな進路や職業を選択するにせよ、困難な時代や多様な社会を「読み解き」、そこに問題や課題を発見し、自分とは異なる他者と共働しながら、代案や解決策を提示していくことが求められるでしょう。そのためには、「与えられた問題の正解を探す」のではなく、「答えのない問題を皆と協力して解いていく」という「学び」が学校や大学などの教育現場はもちろん、様々な地域や組織や集団の中で、持続的に展開していくことが重要だと思います。アクティブ・ラーニングや参加型学習は、本学が教育目標に掲げる「“あらたな社会”を拓き支える人材」育成のための具体的な教育・学習論のひとつであり、次代を担おうとする宇大生が身につけてよい「グローバル・リテラシー」ないしは「現代的教養」のひとつであると考えています。この授業がその第一歩となれば幸いです。
キーワード／Keywords	ボランティア 市民活動 市民組織 (CSO・NGO・NPO) 寄付 援助 海外協力 多文化共生 まちづくり アクティブラーニング ワークショップ グローバル教育 開発教育 市民教育
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	人間と社会(アクティブ・ラーニング科目)/Human and Society(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	末廣 啓子(キャリア教育・就職支援センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G870001
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	末廣 啓子(suehirok@cc.utsunomiya-u.ac.jp 事前にメールで、またはキャリアセンターへ連絡してください)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	末廣 啓子(前期 水 16:30-17:30 後期 月 14:30-15:30)		
授業の内容/Course Description	経済・社会の変化に伴って、働き方・働かせ方が大きく変化している。その中で生涯を通じてどのようにどんな職業と関わるのか、どう生きるのかを考え、主体的に選択していくこととなる。そのためにはまず、自分が船出していくこの社会や経済、産業、職業など働くことに関する現実を正しく理解することがとても大切である。この授業はこうした働くことに関するさまざまなテーマについて最新の情報により、その実態と課題を正しく理解するとともに、視野を広げ、自分の進路について考えるきっかけを得ることができる基礎的なキャリア教育科目である。		
授業の達成目標/Course Goals	自分がどんなキャリアデザインを描くのか、どんな職業選択をするのか、そのためにはどんな大学生生活を送ったらよいかを考える材料ときっかけとして、まず、大きく変容している経済・社会、産業そして、企業経営・人事の方針、働き方の多様化、職業の実態と問題点、働く者を守る法制度などを正しく理解する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	変化する社会の中で未来を切り開く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍するために必要な、基盤となる姿勢と能力を育成する場を提供する。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	経済、産業、企業、労働、雇用等に関する様々なテーマについて、講義形式で最新の情報を提供して解説するほか、企業人等の外部講師による講義、インタビュー、受講生同士で意見や情報交換をするグループワークなども交え多面的に展開する。全学部・全学年の人と共に学び、話し合うことができることが大きな特徴である。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>1 イントロダクション(授業のねらい、授業計画等)</p> <p>2 いま、はたらくとは何か(現実を認識し、働くことの意味を問い直す)</p> <p>①若者の雇用・失業の現実とその対応(高水準の完全失業率・離職率、ニート・フリーター問題を考える、など)</p> <p>②産業・職業の動向、企業の経営・人事戦略の変化と企業の求める人材、働き方の多様化(「終身雇用」の変化、就業・雇用形態の多様化、など)</p> <p>③働く人の側の変化(高齢化・少子化、女性の進出、など)</p> <p>④今、会社はどうなっているか、若者へ何を期待するか(企業の人事担当者などのゲストスピーカーを予定)</p> <p>⑤ベンチャー企業等新規創業の役割と実態(ベンチャー企業等新規創業の役割と実態、起業家精神育成教育(小・中・高校生向けプログラム)、創業支援策など)</p> <p>⑥男女の雇用機会均等、仕事と生活の調和に向けての取り組み</p> <p>⑦働くときに必要な労働関係の法制度・政策(働く者を保護する法制度や仕組みと実態、労働組合の活動、様々な雇用対策)</p> <p>3. 職業とは、働くとは、キャリアとは (自分らしい生き方、キャリア形成に向けて)</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書 「キャリアのみかた一図で見る110のポイント」 阿部正浩他 有斐閣 その他、適宜参考資料などを配布する		
成績評価の方法/Evaluation	出席日数(30%)、授業への参加状況(期中レポートを含む)及び期末レポート		
学習上の助言/Learning Advice	皆さんが卒業して出ていく社会や経済は様々に変化しています。それに目を向け好奇心と意欲を持って参加してください。1,2年生からの履修をお勧めしますが、就職活動に入る時期の学生にも知ってほしい基本的な知識です。		
キーワード/Keywords	働く、職業、キャリア、企業経営、多様な働き方		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	人間と社会(アクティブ・ラーニング科目)/Human and Society(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	末廣 啓子(キャリア教育・就職支援センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G870014
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 9, 火/Tue 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	末廣 啓子(suehirok@cc.utsunomiya-u.ac.jp 事前にメールで、またはキャリアセンターへ連絡してください)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	末廣 啓子(前期 水 16:30-17:30 後期 月 14:30-15:30)		
授業の内容/Course Description	経済・社会の変化に伴って、働き方・働かせ方が大きく変化している。その中で生涯を通じてどのようにどんな職業と関わるのか、どう生きるのかを考え、主体的に選択していくこととなる。そのためにはまず、自分が船出していくこの社会や経済、産業、職業など働くことに関する現実を正しく理解することがとても大切である。この授業はこうした働くことに関するさまざまなテーマについて最新の情報により、その実態と課題を正しく理解するとともに、視野を広げ、自分の進路について考えるきっかけを得ることができる基礎的なキャリア教育科目である。		
授業の達成目標/Course Goals	自分がどんなキャリアデザインを描くのか、どんな職業選択をするのか、そのためにはどんな大学生活を送ったらよいかを考える材料ときっかけとして、まず、大きく変容している経済・社会、産業そして、企業経営・人事の方針、働き方の多様化、職業の実態と問題点、働く者を守る法制度などを正しく理解する。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	変化する社会の中で未来を切り開く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍するために必要な、基盤となる姿勢と能力を育成する場を提供する。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	経済、産業、企業、労働、雇用等に関する様々なテーマについて、講義形式で最新の情報を提供して解説するほか、企業人等の外部講師による講義、インタビュー、受講生同士で意見や情報交換をするグループワークなども交え多面的に展開する。全学部・全学年の人と共に学び、話し合うことができることが大きな特徴である。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	<p>1 イントロダクション(授業のねらい、授業計画等)</p> <p>2 いま、はたらくとは何か(現実を認識し、働くことの意味を問い直す)</p> <p>①若年者の雇用・失業問題とその対応(高水準の完全失業率・離職率、ニート・フリーター問題を考える、など)</p> <p>②産業・職業の動向、企業の経営・人事戦略の変化と企業の求める人材、働き方の多様化(「終身雇用」の変化、就業・雇用形態の多様化、など)</p> <p>③働く人の側の変化(高齢化・少子化、女性の進出、など)</p> <p>④今、会社はどうなっているか、若者に何を期待するか(企業の人事担当者などのゲストスピーカーを予定)</p> <p>⑤ベンチャー企業等新規創業の役割と実態(ベンチャー企業等新規創業の役割と実態、起業家精神育成教育(小・中・高校生向けプログラム)、創業支援など)</p> <p>⑥男女の雇用機会均等、仕事と生活の調和に向けての取り組み</p> <p>⑦働くときに必要な労働関係の法制度・政策(働く者を保護する法制度や仕組みと実態、労働組合の活動、様々な雇用対策)</p> <p>3. 職業とは、働くとは、キャリアとは (自分らしい生き方、キャリア形成に向けて)</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書 「キャリアのみかた一図で見る110のポイント」 阿部正浩他 有斐閣 その他、適宜参考資料などを配布する		
成績評価の方法/Evaluation	出席日数(30%)、授業への参加状況(期中レポートを含む)及び期末レポート		
学習上の助言/Learning Advice	皆さんが卒業して出ていく社会や経済は様々な変化しています。それに目を向け好奇心と意欲を持って参加してください。1,2年生からの履修をお勧めしますが、就職活動に入る時期の学生にも知ってほしい基本的な知識です。陽東で開講します。(全学部対象です)		

キーワード/Keywords	働く、職業、キャリア、企業経営、多様な働き方
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	キャリアデザイン(アクティブ・ラーニング科目)/Career-Design(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	末廣 啓子(キャリア教育・就職支援センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G870500
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	末廣 啓子(suehirok@cc.utsunomiya-u.ac.jp 事前にメールで、またはキャリアセンターへ連絡してください)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	末廣 啓子(前期 水 16:30-17:30 後期 月 14:30-15:30)		
授業の内容/Course Description	経済・社会の大きな変化に伴い、働き方、働かせ方も大きく変化している中であって、自分らしく生き活きと生きるために生涯を通じてどのように職業とかかわるのか、どのような職業人生を生きるのか、そのために大学生活をどう送るのか、など、自らのキャリアデザインを描き、行動することが大切である。この授業は、自分の将来を考えキャリアデザインを具体的に描くための考え方、きっかけ、知識、方法等を提供する基礎的なキャリア科目である。		
授業の達成目標/Course Goals	①経済・社会の変化、企業の経営・人事戦略の変化、働き方の多様化など働くことを取り巻く状況の変化を知るとともに、それを踏まえ職業や働き方についての理解を深める、②自己理解を深める③進路・職業選択などに向けての考え方を整理し、具体的な行動の方法やアプローチのしかたを理解する。 また、授業の中のグループワークやインタビュー等様々な体験を通じて、人とのコミュニケーションや自己表現等社会へ出ていくために必要な力をつける。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	変化する社会の中で未来を切り開く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍するために必要な、基盤となる姿勢と能力を育成する場を提供する。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	「人間と社会」		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	講義だけでなく、行事への参加、企業人のゲストの講義、自己分析の演習、自分のキャリアモデルへのインタビューなど様々な体験を通じて理解を深める。また、そうした体験や結果を文章にまとめたり、グループで意見交換や発表を行う場も設定する。全学部・全学年の人と共に学び、話し合うことのできる機会である。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	1 イントロダクション(授業のねらい、授業計画等) 2 働き方の多様化(企業の経営・人事戦略の動向、働き方の多様化、など) 3 キャリアフェスティバルへの参加 (経済のグローバル化、現下の厳しい経営環境の中で、今企業はどう変わりつつあるのか、若者に何を期待しているのかについて直接企業から話を聞く。) 4 いろいろな働き方 ・キャリアフェスティバルで感じたこと、わかったこと 5 若年者の雇用・失業問題の実態とその対応 (高止まりの完全失業率・離職率、フリーター、ニート問題など) 6 職業とは、働くとは、キャリアとは、 自分の将来の生き方、進路を考えるときに必要な基本的なことを学ぶ 7 自分を知る(自分を振り返る、5年後、10年後の自分を考える。) 8 産業・職業を知る 9 自分と職業について考える 10 働くって?働くことの先輩であるゲストの体験・思いを聴く 11 ~わたしにとってのキャリアモデル 自分にとっての生き方のモデル、気になる生き方の人、反面教師・・・と向き合う(インタビュー、グループワーク、発表を体験する) 14~15まとめ(自分にとって働くとは何か、これからどんな学生生活を送るか、どんな就職活動をするか)		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書キャリアデザインノートその他適宜、資料を配布する 参考書「キャリアのみかた一冊で見る110のポイント」阿部正浩他 有斐閣		
成績評価の方法/Evaluation	出席日数(30%)、授業への参加状況(課題・感想ペーパー等の提出を含む。)、及び期末レポートの結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	さまざまな方法により授業を展開するので、意欲と好奇心と積極性をもって楽しんで参加してください。 この授業の「働き方や職業を知る」の部分については、「人間と社会」で詳しく学ぶので、「人間と社会」を履修することをお勧めします。		
キーワード/Keywords	キャリア、産業、職業、企業経営、働く、自己理解、進路選択、就職活動		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	キャリアデザイン(アクティブ・ラーニング科目)/Career-Design(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	末廣 啓子(キャリア教育・就職支援センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G870513
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 木 /Thu 9, 木/Thu 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	末廣 啓子(suehirok@cc.utsunomiya-u.ac.jp 事前にメールで、またはキャリアセンターへ連絡してください)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	末廣 啓子(前期 水 16:30-17:30 後期 月 14:30-15:30)		
授業の内容/Course Description	経済・社会の大きな変化に伴い、働き方、働かせ方も大きく変化している中であって、自分らしく生き活きと生きるために生涯を通じてどのように職業とかかわるのか、どのような職業人生を生きるのか、そのために大学生活をどう送るのか、など、自らのキャリアデザインを描き、行動することが大切である。この授業は、自分の将来を考えキャリアデザインを具体的に描くための考え方、きっかけ、知識、方法等を提供する基礎的なキャリア科目である。		
授業の達成目標/Course Goals	①経済・社会の変化、企業の経営・人事戦略の変化、働き方の多様化など働くことを取り巻く状況の変化を知るとともに、それを踏まえ職業や働き方についての理解を深める、②自己理解を深める ③進路・職業選択などに向けての考え方を整理し、具体的な行動の方法やアプローチのしかたを理解する。 また、授業で行うグループワークやインタビューなど様々な体験を通じて、人とのコミュニケーションや自己表現などの社会へ出ていくために必要な力をつける。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	変化する社会の中で未来を切り開く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍するために必要な、基盤となる姿勢と能力を育成する場を提供する。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	「人間と社会」		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	講義だけでなく、行事への参加、企業人のゲストの講義、自己分析の演習、自分のキャリアモデルへのインタビューなど様々な体験を通じて理解を深める。また、そうした体験や結果を文章にまとめたり、グループで意見交換や発表を行う場も設定する。全学部・全学年の人と共に学び、話し合うことのできる機会である。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	1 イントロダクション(授業のねらい、授業計画等) 2 働き方の多様化(企業の経営・人事戦略の動向、働き方の多様化、など) 3 キャリアフェスティバルへの参加 (経済のグローバル化、現下の厳しい経営環境の中で、今企業はどう変わりつつあるのか、若者に何を期待しているのかについて、直接企業から話を聞く) 4 いろいろな働き方 ・キャリアフェスティバルで感じたこと、わかったこと 5 若年者の雇用・失業問題の実態とその対応 (高止まりの完全失業率・離職率、フリーター、ニート問題など) 6 職業とは、働くとは、キャリアとは、 自分の将来の生き方、進路を考えるときに必要な基本的なことを学ぶ 7 自分を知る(自分を振り返る、5年後、10年後の自分を考える。) 8 産業・職業を知る 9 自分と職業について考える 10 働くって?働くことの先輩であるゲストの体験・思いを聴く 11 ~わたしにとってのキャリアモデル 自分にとっての生き方のモデル、気になる生き方の人、反面教師・・・と向き合う(インタビュー、グループワーク、発表を体験する) 14~15 まとめ(自分にとって働くとは何か、これからどんな学生生活を送るか、どんな就職活動をするか)		
教科書・参考書等/Textbooks	キャリアデザインノートその他適宜、資料を配布する 参考書「キャリアのみかた一図で見る110のポイント」阿部正浩他 有斐閣		
成績評価の方法/Evaluation	出席日数(30%)、授業への参加状況(課題・感想ペーパー等の提出を含む。)、及び期末レポートの結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	さまざまな方法により授業を展開するので、意欲と好奇心と積極性をもって楽しんで参加してください。 この授業の「働き方や職業を知る」の部分については、「人間と社会」で詳しく学ぶので、「人間と社会」を履修することをお勧めします。		

キーワード/Keywords	キャリア、産業、職業、企業経営、働く、自己理解、進路選択、就職活動
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	働くことの意味と実際(グローバル時代のキャリア形成)(アクティブ・ラーニング科目)/The Meaning and the Reality of Work(Active Learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	平林 正樹(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G870550
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 9, 火/Tue 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	平林 正樹(masaki_hirabayashi@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	平林 正樹(授業終了後に対応します。その他は、e-mailで予約をして下さい。)		
授業の内容/Course Description	やりがいのある仕事を通じて自己の成長を図り、グローバルな時代の中で自らのキャリアを形成していくためには、何を身につけるべきか。日本IBMの人事に所属する担当教員と共に働く人々のリアルな姿を捉えながら、「働くことの意味」について考えていきます。		
授業の達成目標/Course Goals	(1) グローバルな時代における経済環境と企業行動を理解する、(2) 社会で働くうえで必要な「自律心」と「価値観」について考える、(3) 「学生から社会人への移行」に際して必要な基礎的な「キャリア観」(生きることや働くことをどのように捉えているか)を身につけ、適切な行動に向けて一歩踏み出す力を養う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	変化する社会の中で未来を切り開く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍するために必要な、基盤となる姿勢と能力を育成する場を提供する。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識は、特にありません。		
関連科目/Related Courses	後期開講科目である『企業のグローバル戦略とキャリア形成』と関連しますが、当科目はその「基礎編」の位置付けです。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基礎的な講義と共に、様々な「働くこと」に関連する記事・論文・映画などを題材に、働く人々の具体事例からキャリアについての自分の考えをまとめます。さらに、グループ・ディスカッション、発表などを通して様々な価値観に触れていくアクティブ・ラーニングです。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> ①イントロダクション: 「学生目線」から「社会人目線」へ ②グローバル時代に「企業で働く」ということ ③グローバルな経済下における企業のビジネス活動 ④「大学生に対する企業の認識」と「新入社員の意識」～グローバル時代に如何に対応すべきか ⑤企業の理念、ビジョン、戦略 ⑥企業の採用活動から定着までの支援活動 ⑦映画から考える「キャリア自律」 ⑧働く人の「内的キャリア」 ⑨「島耕作」と「浜ちゃん」の内的キャリアに学ぶ ⑩なにが若者の早期離職をもたらすのか ⑪グローバル時代に求められる「英語によるコミュニケーション力」 ⑫いわゆる「ブラック企業」について考える ⑬働き方を考える～グローバルな視点でローカルに行動する ⑭企業に入社してからの働き方 ⑮「グローバル時代のキャリア形成」を考える 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書はありません。講義ごとに資料を配布します。参考文献は、都度紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	評点の配分は、「授業への参画度/課題の提出/欠席点」(70%)と「期末レポート」(30%)の結果で評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	「働くこと」のリアリティを見つめながら、グローバルな社会に旅立つ皆さんのキャリア形成を応援したいと考えています。能動的に参画する、意欲ある皆さんの受講を期待しています。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	実践企業人材論/The Practical Theory of Company's Human-Resource		
担当教員(所属)/Instructor	渡辺 孝雄(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G870751
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 9, 金/Fri 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡辺 孝雄(電話 : 090-3319-5111 e-mail : wata@rapport.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡辺 孝雄(授業終了後対応)		
授業の内容/Course Description	29歳で会社を設立し、すでに3社を立ち上げ30年の企業経営経験をもつ現役経営者の実践的な企業人材論です。授業では社会の実際、企業の実態を本音で語ります。企業の実像を明らかにしながら、同時に、いかに“自分を生きるか?”。そして、“夢と理想に向かった力強い人生を歩むか?”を共に考えていく講座です。その上で、“自分にあった仕事は何か?”や“真の仕事のやりがいとは?”“実力養成と収入の関係とは?”といった現実の問題を楽しく学んでいきます。		
授業の達成目標/Course Goals	◇企業と社会の実態を学ぶ ◇自分にあった仕事を考える ◇本当の就職活動のあり方を知る。そして、◇人生を明るく前向きに捉えることができる ◇自分らしい価値観をもって自律行動がとれる		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本講義には“実践企業人材論”とのタイトルがついていますが、必ずしも企業内における人材だけに焦点を合わせてはなりません。広く社会で働くことの意義や主体的な人生の歩み方についても理解を深めていく選択科目です。		
前提とする知識/Prerequisites	特に必要はない。(企業に就職しようと考えている学生に限らず、公務員志望者も大歓迎!)		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	・社会の実学として具体的な事例を豊富に紹介し、わかり易く講義をします。 ・講師自らの体験から得た教訓を数多く紹介します。実際の失敗例、成功例を混ぜて目に浮かぶ授業を目指します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週	ガイダンス・レクチャー 実社会における企業の存在 今日の自分観と仕事観 人間の形成と富の形成 企業の実態とトレンド ビジネスの世界、いろいろ 企業の求める人材像 自分だけの人生シナリオ 実力のつけ方、自分の活かし方 就職、失業、転職の考え方 就活には戦略があって欲しい! 職業を楽しむ、人生を楽しむ 仕事と家庭のバランス 職業と財産の関係 総括レクチャー	講義の目的と講義全体の要点解説 “社会って、企業って、どんなところ?” “自分の夢と理想をハッキリもとう!” “仕事を通じた成長とは、成功とは?” “伸びる会社、倒産する企業とは?” “利益の追求って?組織のルールって?” “活躍する人材、そうでない人材” “何歳にはどうなっていたいの?” “自分の特性と長所を生かす” “会社に就くのか、仕事に就くのか?” “今、考えておくこと、やっておくこと” “職業の道楽化を目指そう!” “仕事中心?それとも家族優先?” “自分のマネープランをつくってみよう” “今後の自己研鑽について”
教科書・参考書等/Textbooks	各自で、私のホームページから下記の2種類の資料をダウンロードして持参下さい。 ⇒ http://www.watanabetakao.com/U_univ/summary2015.htm (注)ダウンロードについては、H28年4月の初日のガイダンス時にも説明します。 1、H28年度 実践企業人材論 ガイダンス資料 (私の授業に対する考え方、姿勢、自己紹介、そして、試験の要領について紹介しております) 2、H28年度 実践企業人材論カリキュラム (講義の内容がどのようなものか?毎回のレジュメの項目が全て把握できます)		
成績評価の方法/Evaluation	受講への積極性(質疑等)と期末のレポート内容で評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	本講義には、“実践企業人材論”とタイトルがついていますが、必ずしも企業内における人材だけに焦点を合わせてはなりません。広く社会で生きていくことの意義や主体的な人生の歩み方についても理解を深めていく内容です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	起業の実際と理論(アントレプレナーシップの養成)(アクティブ・ラーニング科目)/Practice and Theory of Entrepreneurship(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	吉野 清史(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G870800
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	吉野 清史(電話 : 028-632-2443 e-mail : u2305@city.utsunomiya.tochigi.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	吉野 清史(授業終了後対応)		
授業の内容/Course Description	ベンチャー企業の事例や、実際の起業家との対話を通じ、「起業」という社会活動について学習し、これからの若者に必要とされる資質や起業家精神(アントレプレナーシップ)を養う。また、実際に自らのビジネスアイデアを考え、他者にプレゼンテーションすることで、企画・提案の楽しさを体験するとともに、ビジネスに必要な基礎的なスキルを習得する。		
授業の達成目標/Course Goals	起業家精神(アントレプレナーシップ)を養うとともに、基本的なビジネス知識の習得とアイデアを実現していく道筋を理解する。ビジネスやNPOなどの「起業」を志すだけでなく、今後の社会生活の中で必要とされる柔軟な発想力やそれを実現する力を養うことを目指し、就職先でも活躍できる力を育成する。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	変化する社会の中で未来を切り開く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍するために必要な、基盤となる姿勢と能力を育成する場を提供する。		
前提とする知識/Prerequisites	企業経営の基礎を理解するために、9月集中講義の「グローバル時代の企業経営」の受講をお勧めする。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	配布資料に基づく講義、外部講師との対話、ビジネスプラン作成演習・発表		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1回 担当教授によるはじめの挨拶、講義ガイダンス 第2回 起業入門 ～会社とは、事業とは、起業とは何か～ 第3回 起業におけるコンセプトづくり【ゲスト講師による講演①】 県内の著名な経営者を予定 第4回 顧客設定、マーケティング 【ゲスト講師による講演②】 第5回 ビジネスアイデア作成 第6回 会計・取引、資金調達 【ゲスト講師による講演③】 第7回 プレゼンテーション、営業 【ゲスト講師による講演④】 第8回 ビジネスアイデア発表 ※簡単なアイデアを提案・発表してもらいます 第9回 チームマネジメント 【ゲスト講師による講演⑤】 県内の著名な経営者を予定 第10回 アイデアブラッシュアップのコツ 第11回 先輩起業家に学ぶ①&グループワーク 第12回 先輩起業家に学ぶ②&グループワーク 第13回 先輩起業家に学ぶ③&グループワーク 第14回 ビジネスプラン発表会(決勝) ※グループワークを通じて作成したプランを発表してもらいます 第15回 審査結果発表・交流会(各回ゲスト講師、先輩起業家との交流の場を提供します) ※一部、講義内容や順番に変更の可能性有り		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しない予定。講義毎に適宜資料を配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席状況、講義・演習への取り組み姿勢を評価(50%)、講義で指示されるレポートの提出(50%)		
学習上の助言/Learning Advice	授業では、ビジネスプランの作成を通じ、自らベンチャー起業家の疑似体験をしていただきます。講義への参加にあたっては、実社会を広い視野で観察するよう心がけ、世の中の不都合や、こんなモノ・サービスがあると面白い、といった自分なりの「思いつき」を探しておいてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	先輩に学ぶ(アクティブ・ラーニング科目)/Encouragement of Learning in UDAI(Active Learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	石田 朋靖(学長)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G870900
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	石田 朋靖(桑島英理佳教員連絡先 028-649-5073 kuwajima@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	石田 朋靖(オムニバス形式による講義のため、各回の終了時に各教員に相談して下さい。)		
授業の内容/Course Description	学長自ら代表を務める唯一の科目です。本学の教員10名が、学生のみなさんに対して人生の先輩として、学生時代を含めこれまでのキャリアを振り返りながらメッセージを伝えます。それぞれの先輩がこれまで歩んできた道でどのようなことに悩み、いかに乗り越えてきたのかについて聞くことで、これから先の人生について考えを深めることを目指します。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・働く意義を学ぶ(就業観の育成)と同時に、大学での学びと就職が結びついていることを知る。 ・就職が到達点ではなく、生涯にわたりキャリア形成が図られることを理解する。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	それぞれの教員による講義を聞き、グループで話し合うことで、さまざまな学問・職業分野の存在や働き方・生き方への理解を深められるようになっており、これは視野を広げることや自らのキャリアデザイン力の育成と強く関連しています。		
前提とする知識/Prerequisites	人生の先輩から何かを掴みたいという意欲と、グループでの話し合い学習に参画する意欲が求められます。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	10名の教員が担当するオムニバス形式で進めます。第3回では学長自らが教壇に立ちます。教員の講義の後、グループによる話し合い学習を行い、講義内容をより自分に引きつけて理解し、他の受講者の視点を理解する機会とします。第7回、第14回ではそれまでの教員の講義をふり振り返り、キャリア形成を意識して学生生活を送るうえで大切にしたいことについて考えるグループワークを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーション キャリアとは? 第2回 アイスブレイク チームビルディング 第3回 石田朋靖 学長 第4回 福森理加 農学部附属農場助教 第5回 土崎雄祐 地域連携教育研究センター特任研究員 第6回 黒川享子 教育学部講師 第7回 グループワーク①(第3回～第6回の振り返り) 第8回 第9回 田巻松雄 国際学部長、伊東明彦 教育学部長 第10回 阿山みよし 工学研究科長、夏秋知英 農学部長 第11回 塚本純 地域デザイン科学部長、末廣啓子 キャリア教育・就職支援センター教授 第12回 ※第8～13回は上記の先生方に1回ずつ担当していただきます。 第13回 第14回 グループワーク②(第8回～第13回の振り返り) 第15回 この授業のまとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	必要に応じて適宜資料を配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	グループワークへの参加と貢献、各回の提出物、プレゼンテーション等によって評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	上記10名はそれぞれ異なった専門性やライフヒストリーを持っています。“人生の先輩”の多種多様な話を通して、働くことやキャリアを切り拓くことの面白さを感じ、自分の将来を考えて下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	より良く生きる(アクティブ・ラーニング科目)/Live Better Than(Active Learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	上原 伸夫(工学部), 大庭 亨(工学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G871111
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	日光東照宮にある家康の墓に続く石段の欄干の柱には、「人生は重き荷物を背負いて長き坂を上るが如し、・・・」と刻まれている。今であれば、荷物の配送システムもあり、自動車で見渡すことができる。でもはたして、今は昔に比べて生き易くなったのであろうか？ 周りを見渡すと生き辛さを感じさせるようなことが溢れているようにも感じられる。このような現代において、「より良く生きる」とはどのようなことなのか？ この講義では、①「自分にとって価値ある生き方」をキーワードに「人は何のために生きているのか」を考え、②「目標達成」をキーワードに、そのためのスキル(自分の力に気づき、伸ばす)を身に付けることを目的とする。		
授業の達成目標/Course Goals	<p>☆仕事は生活から切り離された活動ではないことを理解し、より良く生きるための「場」として両者のかかわりを理解することから、「仕事をする」との意味を考える。</p> <p>☆「自分にとって価値ある生き方」とは本質的にどういうことなのかを洞察し、それに向かっていくための目標達成法を理解し、実行できるようになる。</p> <p>☆自分を取り巻く様々な「しくみ」に気づき、自分らしく生きるきっかけをつくる。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	変化する社会の中で未来を切り拓く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することを目指す姿勢、職業や働き方への理解、自己理解を深めるために必要な知識・技能を修得することに役立つ		
前提とする知識/Prerequisites	自分を成長させようとする意欲		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	本講義は担当教員および外部講師によるレクチャーの他、グループワークやインタビューなどを通じて多面的に行う(講演会に代える場合もある)。受講者自身の行動や体験を通じて、未来を切り開く力の育成を図る。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>—Part 1 人は何のために生きているのか—</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに「この授業について、「人は何のために生きているのか その1」」 4/12 2. “自分らしく生きること”と“親との関係” 4/19 3. “働くこと”と“より良く生きること” 4/26 4. “人生の逆風(障害、病気など)”と“より良く生きる” 5/10 5. 夢と、やりたいことと、現実と①(“仕事”をとりまく理想と現実) 5/17 6. 夢と、やりたいことと、現実と②(事例紹介、パネルディスカッション) 5/24 7. 生きる主体である“自分”に気づく；(Part 1まとめ；中間振り返り) 5/31 <p>—Part 2 よりよく生きるために(自分の力に気づき、伸ばす)—</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 生きるエネルギーについて 6/7 9. アサーション(自分を伝える・相手を受け入れる；西田先生) 6/14 10. 心のしくみ(西田先生) 6/21 11. 夢を見つめる 6/28 12. 夢を実現する 7/5 13. リミッターを解除する 7/12 14. ツッコミを入れる 7/19 15. 振り返り 7/26 		
教科書・参考書等/Textbooks	授業で指示する(主として配布プリントを用いる)		
成績評価の方法/Evaluation	上記の目標が達成されているかどうかを評価する。評点の配分は、講義への取り組み(40%)、レポート(60%)とし、60%以上を合格とする。60点以上を「可」、70点以上を「良」、80点以上を「優」、特に優秀なものを「秀」として評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	いつの時代も生きることは“しんどい”らしい。この授業は10年後、20年後のあなたを想定して行います。あなた自身が考え、行動することが生きることの本質です。それによってあなたはきっと、大切なことに気づくはずですよ。		
キーワード/Keywords	より良く生きる		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	企業のグローバル戦略とキャリア形成(アクティブ・ラーニング科目)/global strategy of the company, and your career development(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	平林 正樹(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G871130
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 9, 火/Tue 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	平林 正樹(masaki_hirabayashi@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	平林 正樹(授業終了後に対応します。その他は、e-mailで予約をして下さい。)		
授業の内容/Course Description	企業のグローバル戦略、とりわけ人材マネジメント戦略を中心に学びながら、グローバルな時代における仕事に対するリアリティを高めます。その上で、日本IBMの人事所属の担当教員と共に、自己の成長を図りながら、遅く生きていくためには何を身につけるべきか考えていきます。		
授業の達成目標/Course Goals	(1) 人材マネジメントを中心とした企業のグローバル戦略を理解する、(2) グローバルな時代における様々な「働き方」を知る、(3) 「企業の求める人材像」について考え、適切な行動に向けて自らが一歩踏み出す力を養う。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	変化する社会の中で未来を切り開く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍するために必要な、基盤となる姿勢と能力を育成する場を提供する。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識は、特にありません。		
関連科目/Related Courses	前期開講科目である『働くことの意味と実際(グローバル時代のキャリア形成)』を基礎編として、当科目は「応用編」の位置付けです。		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	グローバル社会における企業の戦略や施策と、時事的なトピックも織り交ぜながら、キャリアについての自分の考えをまとめます。さらに、グループ・ディスカッション、発表などを通して様々な価値観に触れていくアクティブ・ラーニングです。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	<p>「ダイバーシティー(多様性)」、「女性の働き方」、「ワーク・ライフ・バランス」などにも焦点を当て、「働きやすい企業」(“楽な企業”ではない)について考えます。</p> <p>①イントロダクション: グローバル企業発展の三段階 ②グローバル企業の具体的事例 ③グローバル企業の特徴を考える ④「ダイバーシティー」(Diversity) を考える ⑤女性の働き方を考える(1)~米沢富美子さんの生き方を通して ⑥多様で柔軟な働き方~ワーク・ライフ・バランス① ⑦多様で柔軟な働き方~ワーク・ライフ・バランス② ⑧映画から考える「グローバルな働き方」 ⑨グローバル人材の採用・育成・リテンション ⑩グローバル時代における「企業の求める人材像」と「大学で養うポテンシャル」 ⑪働く人のストレスとメンタルヘルス ⑫キャリア・マネジメント~企業のキャリア形成支援策 ⑬女性の働き方を考える(2)~具体的事例から ⑭グローバル時代の職業を考える ⑮「企業のグローバル戦略とキャリア形成」を考える(グローバル人材の働き方)</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書はありません。講義ごとに資料を配布します。参考文献は、都度紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	評点の配分は、「授業への参画度/課題の提出/欠席点」(70%)と「期末レポート」(30%)の結果で評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	グローバルな社会にこれから旅立つ皆さんのキャリア形成を応援したいと考えています。能動的に参画する、意欲ある皆さんの受講を期待しています。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	グローバル時代の企業経営(アクティブ・ラーニング科目)/Business Management in the Age of Globalization(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	中村 裕一郎(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G871135
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 集中/Intensive 他/Oth.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中村 裕一郎(090-4838-1456 nakamura_yuichiro@nifty.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中村 裕一郎(授業終了後対応)		
授業の内容/Course Description	グローバル化が進行する現代社会においてなくてはならない存在であり、多くが職業人としてその一員となる企業とはどのようなもので、どのように運営されているのかについての基礎知識を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	社会人となって企業の一員となる時に、あるいは、自ら起業して会社を営む時に有用な、企業経営とはどのようなものであるかを知り、継続して自らの学ぶための基礎的な土台をつくる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	変化する社会の中で未来を切り開く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍するために必要な、基盤となる姿勢と能力を育成する場を提供する。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする科目は特になし。		
関連科目/Related Courses	後期開講科目「起業の実際と理論～アントレプレナーシップの養成」を受講予定ならば、受講を勧める。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	配布資料に基づく講義のあと、講義内容についてのディスカッション。 9月夏期集中授業として実施。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. イントロダクション : 授業の全体像と目標、経営学とは何か、企業とは何か 2. コーポレート・ガバナンス : 企業は誰が動かしているのか 3. 経営理念と戦略 : 企業はどんな方針で動くのか 4. 企業の組織 : 企業はどのような仕組みで動くのか 5. 組織間関係 : 企業は他社とどのように協力しているのか 6. モチベーション : 社員はなぜ働くのか 7. リーダーシップ : どのように職場をまとめ、導くのか 8. 研究開発 : 企業はどのようにモノを開発するのか 9. 生産管理 : 企業はどのようにモノを造るのか 10. マーケティング : 企業はどのようにモノを売るのか 11. 人材資源管理 : 人材(ヒト)の採用、育成、給与の支払い 12. 財務と会計 : 資金(カネ)の管理と業績の管理 13. 日本的経営 : 日本の企業にはどんな特徴があるのか 14. 国際経営 : 企業は海外でどのように経営しているのか 15. まとめと確認テスト(小論文)		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しません。参考資料を適宜配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	以下の2点で成績評価します 確認テスト: 50% (最終回に小論文) 日常点 : 50% (全講義出席を前提として、毎回提出する小レポートの評点、講義中の発言を総合的に判断)		
学習上の助言/Learning Advice	自分の回りの身近な変化、世の中の変化等に関心を持つように心がけて下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本事情/Things Japanese		
担当教員(所属)/Instructor	バーバラ モリソン(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G897040
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	This is a hands-on course through which we will be experiencing Japan. Be prepared to engage yourselves fully with Japanese culture.		
授業の達成目標/Course Goals	1. 日本の自然、社会・文化を概観し、2. 日本人の信念、感性、美観を理解して、3. 日本と日本人の特異性、伝統、奥義を体感する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	Students will begin to understand the ways in which culture constructs identity as well as the means whereby culture uses identity formation to inscribe specific world views in the process of building literacy with regard to Japanese culture.		
前提とする知識/Prerequisites	日本・日本人に興味があること。		
関連科目/Related Courses	日本・日本人に興味があること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	The objective of this course is for students explore identity formation in the context of Japanese culture primarily through education and the arts. Students will participate in a series of experiences which include - but are not limited to - Tochigi Prefectural Office (県庁), brush-writing (書道), tea ceremony (茶道), Ashikaga (足利), Mashiko (益子) among others. Students will be asked to reflect on their experiences in the context of identity formation by producing a series of written assignments regarding their experiences as we explore what it means to be 'Japanese.'		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	Week 1: Introductions and Expectations Week 2: Tochigi Prefectural Office (県庁) Week 3: Brush-writing (書道) Week 4: Classroom Week 5: Ashikaga School (足利学校) Week 6: Classroom Week 7: Tea Ceremony (茶道) Week 8: Classroom Week 9: Classroom Week 10: Mashiko (益子) Week 11: Classroom Week 12: Nikko (日光) Week 13: Classroom Week 14: Sword Demonstration (現代日本刀考) Week 15: Classroom		
教科書・参考書等/Textbooks	必要に応じてプリントを配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	教室での学習活動をコース全体として総合的に判断する。秀 [100-90]、優 [90-80]、良 [80-70]、可 [70-60]、不可 [60-] で表記する。		
学習上の助言/Learning Advice	日本と日本人の奥義を発見してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			